

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (24)

道路整備(交付金)事業(安城工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

さんぼんまついせき
三本松遺跡

2013年3月

鹿児島県西之表市教育委員会



三本松遺跡出土の吉田式土器



三本松遺跡出土の吉田式土器



三本松遺跡出土の吉田式土器

序 文

本報告書は、道路整備(交付金)事業(安城工区)に伴い発掘調査を実施した三本松遺跡の報告書であります。

三本松遺跡の所在する種子島は、黒潮海流の中に位置し、なだらかな大地と数多くの小川があり、緑豊かな照葉樹林が繁茂し、古くから自然の恵みを受け豊かな環境のもとにあることから、これまでに島の各所から数多くの遺跡が発見されています。

この三本松遺跡からは、縄文時代早期の吉田式土器をはじめとする土器や石器類が多数出土し、住居跡と思われる遺構なども多数検出され、質・量ともに充実した資料を提示してくれました。特に出土した土器片からコクゾウムシの圧痕が数件発見されたことは、世界的にみても貴重な事例であり、今後の古代人と食文化の関わりをはじめ、郷土の歴史を理解する上で意義深い調査となりました。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護意識高揚の一助となることを念じる次第であります。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、発掘調査に際して全面的にご協力をいただきました鹿児島県熊毛支庁建設課・鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、安城地区の関係者、さらに貴重なご助言をいただいた熊本大学文学部小畑先生をはじめとする諸先生方に対して厚くお礼を申し上げます。

平成25年3月

西之表市教育委員会教育長 立石 望

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんぼんまつ いせき							
書名	三本松遺跡							
副書名	道路整備(交付金)事業(安城工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	24							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2013年3月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三本松遺跡	鹿児島県	462136	115	30° 38′ 26″	131° 03′ 22″	確認調査 20030707	41 m ²	道路整備 事業
	西之表市					緊急調査 20030909		
	安城川脇					(I地点) 20050915	725 m ²	
	三本松					(II地点) 20051201	1,022 m ²	
						20060919		
						20070222		
						(III地点) 20070918	1,300 m ²	
	20080204							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
三本松遺跡	散布地	縄文時代早期	堅穴状遺構 3 土坑 5 集石 11 配石 2 石器集積 2 石器製作場 2	貝殻文系土器 吉田式 下剝峯式 釜ノ神式 押型文土器 手向山式 石器類 石鏃・石斧・剥片 磨石・敲石・石皿等				

例 言

1. 本書は、道路整備（交付金）事業（安城工区）に伴う三本松遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、鹿児島県熊毛支庁（熊毛支庁建設課）の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、熊毛支庁建設課が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は全て通し番号で本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測・写真撮影は沖田純一郎と荒井美佳子が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行い、遺物の復元・拓本・実測及び図面の浄書は主に荒井美佳子・藤本まゆみ・古元真知子、他整理作業員が行った。石鏃・石斧など石器類の一部は（株）九州文化財研究所等に実測・浄書を委託し、他の石器類については上記の者が実測・浄書を行った。
7. 写真図版の遺物撮影・レイアウトは沖田純一郎及び菊池一文氏が行った。
8. 出土遺物の科学分析はバリノ・サーヴェイ（株）が行った。また、コクゾウムシの圧痕調査、分析等は熊本大学文学部及び鹿児島大学埋蔵文化財調査室が行った。
9. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立博物館・熊本大学文学部・鹿児島大学埋蔵文化財調査室等の指導・協力を得た。
10. 出土遺物は西之表市教育委員会（西之表市埋蔵文化財調査室）で保管し、展示・活用する。

目次

巻頭カラー図版 1

巻頭カラー図版 2

巻頭カラー図版 3

序文

報告書抄録

例言

第1章 調査の経過	1	第3節 遺構	23
第1節 調査に至る経緯	1	第4節 遺物	45
第2節 調査の組織	3	(1) 土器	45
第3節 調査の経過	5	(2) 石器	223
第2章 遺跡の位置と環境	9	第IV章 科学分析	288
第1節 自然環境 第2節 歴史的環境	9	第V章 調査のまとめ	313
第3節 遺跡の環境	11	第1節 調査結果	313
第III章 発掘調査の概要	12	第2節 遺構	313
第1節 調査の概要	12	第3節 遺物	315
第2節 層位	16	第4節 まとめ	317

挿図目次

第1図 調査地位置図	2	第14図 2号壑穴状遺構	26
第2図 三本松遺跡と周辺遺跡図	10	第15図 3号壑穴状遺構	27
第3図 発掘調査対象地	13	第16図 土坑(1)	28
第4図 各年度ごとの調査地	14	第17図 土坑(2)	29
第5図 調査地グリッド配置図	15	第18図 土坑(3)	30
第6図 I・II・III地点土層断面	17	第19図 集石(1)	32
第7図 I地点土層断面	18	第20図 集石(2)	35
第8図 II地点東側土層断面	19	第21図 集石(3)	36
第9図 II地点西側土層断面	20	第22図 集石(4)	37
第10図 III地点東側土層断面	21	第23図 集石(5)	38
第11図 III地点西側土層断面	22	第24図 集石(6)	39
第12図 遺構配置図	24	第25図 配石	40
第13図 1号壑穴状遺構	25	第26図 集積	41

第27図	土器集中出土(1)	42	第64図	出土土器(17)	81
第28図	土器集中出土(2)	43	第65図	出土土器(18)	82
第29図	遺構内出土土器(1)	46	第66図	出土土器(19)	83
第30図	遺構内出土土器(2)	47	第67図	第3類土器出土状況	86
第31図	遺構内出土土器(3)	48	第68図	出土土器(20)	87
第32図	遺構内出土土器(4)	49	第69図	出土土器(21)	88
第33図	遺構内出土土器(5)	50	第70図	出土土器(22)	89
第34図	遺構内出土土器(6)	51	第71図	出土土器(23)	90
第35図	遺構内出土土器(7)	52	第72図	出土土器(24)	91
第36図	遺構内出土土器(8)	53	第73図	出土土器(25)	92
第37図	遺構内出土土器(9)	54	第74図	出土土器(26)	93
第38図	遺構内出土土器(10)	55	第75図	出土土器(27)	94
第39図	遺構内出土土器(11)	56	第76図	出土土器(28)	95
第40図	遺構内出土土器(12)	57	第77図	出土土器(29)	96
第41図	遺構内出土土器(13)	58	第78図	第4類土器出土状況	97
第42図	遺構内出土土器(14)	59	第79図	出土土器(30)	98
第43図	石器製作跡1	60	第80図	出土土器(31)	99
第44図	石器製作跡2	61	第81図	出土土器(32)	100
第45図	全遺物出土状況	62	第82図	出土土器(33)	101
第46図	土器出土状況	63	第83図	出土土器(34)	102
第47図	第1類・第2類土器出土状況	64	第84図	出土土器(35)	103
第48図	出土土器(1)	65	第85図	出土土器(36)	104
第49図	出土土器(2)	66	第86図	出土土器(37)	105
第50図	出土土器(3)	67	第87図	出土土器(38)	106
第51図	出土土器(4)	68	第88図	出土土器(39)	107
第52図	出土土器(5)	69	第89図	出土土器(40)	108
第53図	出土土器(6)	70	第90図	出土土器(41)	109
第54図	出土土器(7)	71	第91図	出土土器(42)	110
第55図	出土土器(8)	72	第92図	出土土器(43)	111
第56図	出土土器(9)	73	第93図	出土土器(44)	112
第57図	出土土器(10)	74	第94図	出土土器(45)	113
第58図	出土土器(11)	75	第95図	出土土器(46)	114
第59図	出土土器(12)	76	第96図	出土土器(47)	115
第60図	出土土器(13)	77	第97図	出土土器(48)	116
第61図	出土土器(14)	78	第98図	出土土器(49)	117
第62図	出土土器(15)	79	第99図	出土土器(50)	118
第63図	出土土器(16)	80	第100図	第5類土器出土状況	119

第101图	出土土器(51)	120	第138图	出土土器(84)	157
第102图	出土土器(52)	121	第139图	出土土器(85)	158
第103图	出土土器(53)	122	第140图	出土土器(86)	159
第104图	出土土器(54)	123	第141图	出土土器(87)	160
第105图	出土土器(55)	124	第142图	出土土器(88)	161
第106图	出土土器(56)	125	第143图	出土土器(89)	162
第107图	出土土器(57)	126	第144图	出土土器(90)	163
第108图	出土土器(58)	127	第145图	出土土器(91)	164
第109图	出土土器(59)	128	第146图	出土土器(92)	165
第110图	出土土器(60)	129	第147图	出土土器(93)	166
第111图	出土土器(61)	130	第148图	出土土器(94)	167
第112图	出土土器(62)	131	第149图	出土土器(95)	168
第113图	出土土器(63)	132	第150图	出土土器(96)	169
第114图	出土土器(64)	133	第151图	出土土器(97)	170
第115图	出土土器(65)	134	第152图	出土土器(98)	171
第116图	出土土器(66)	135	第153图	出土土器(99)	172
第117图	出土土器(67)	136	第154图	出土土器(100)	173
第118图	第6类土器出土状况	137	第155图	出土土器(101)	174
第119图	出土土器(68)	138	第156图	出土土器(102)	175
第120图	出土土器(69)	139	第157图	出土土器(103)	176
第121图	出土土器(70)	140	第158图	出土土器(104)	177
第122图	第7类土器出土状况	141	第159图	出土土器(105)	178
第123图	出土土器(71)	142	第160图	出土土器(106)	179
第124图	出土土器(72)	143	第161图	出土土器(107)	180
第125图	出土土器(73)	144	第162图	出土土器(108)	181
第126图	出土土器(74)	145	第163图	出土土器(109)	182
第127图	出土土器(75)	146	第164图	出土土器(110)	183
第128图	出土土器(76)	147	第165图	底部出土状况	184
第129图	第8类土器出土状况	148	第166图	出土土器(111)	185
第130图	出土土器(77)	149	第167图	出土土器(112)	186
第131图	出土土器(78)	150	第168图	出土土器(113)	187
第132图	出土土器(79)	151	第169图	出土土器(114)	188
第133图	出土土器(80)	152	第170图	出土土器(115)	189
第134图	出土土器(81)	153	第171图	出土土器(116)	190
第135图	出土土器(82)	154	第172图	出土土器(117)	191
第136图	胴部(円筒・角筒)出土状况	155	第173图	出土土器(118)	192
第137图	出土土器(83)	156	第174图	出土土器(119)	193

第 175 图	出土石器(120)·····	194	第 212 图	磨石·敲石·台石·石皿類出土状況···	232
第 176 图	出土石器(121)·····	195	第 213 图	出土石器(1)·····	233
第 177 图	出土石器(122)·····	196	第 214 图	出土石器(2)·····	234
第 178 图	出土石器(123)·····	197	第 215 图	出土石器(3)·····	235
第 179 图	出土石器(124)·····	198	第 216 图	出土石器(4)·····	236
第 180 图	出土石器(125)·····	199	第 217 图	出土石器(5)·····	237
第 181 图	出土石器(126)·····	200	第 218 图	出土石器(6)·····	238
第 182 图	出土石器(127)·····	201	第 219 图	出土石器(7)·····	239
第 183 图	出土石器(128)·····	202	第 220 图	出土石器(8)·····	241
第 184 图	出土石器(129)·····	203	第 221 图	出土石器(9)·····	242
第 185 图	出土石器(130)·····	204	第 222 图	出土石器(10)·····	243
第 186 图	出土石器(131)·····	205	第 223 图	出土石器(11)·····	244
第 187 图	出土石器(132)·····	206	第 224 图	出土石器(12)·····	245
第 188 图	出土石器(133)·····	207	第 225 图	出土石器(13)·····	246
第 189 图	出土石器(134)·····	208	第 226 图	出土石器(14)·····	247
第 190 图	出土石器(135)·····	209	第 227 图	出土石器(15)·····	248
第 191 图	出土石器(136)·····	210	第 228 图	出土石器(16)·····	249
第 192 图	出土石器(137)·····	211	第 229 图	出土石器(17)·····	250
第 193 图	出土石器(138)·····	212	第 230 图	出土石器(18)·····	251
第 194 图	出土石器(139)·····	213	第 231 图	出土石器(19)·····	252
第 195 图	出土石器(140)·····	214	第 232 图	出土石器(20)·····	253
第 196 图	出土石器(141)·····	215	第 233 图	出土石器(21)·····	254
第 197 图	出土石器(142)·····	216	第 234 图	出土石器(22)·····	255
第 198 图	出土石器(143)·····	217	第 235 图	出土石器(23)·····	256
第 199 图	出土石器(144)·····	218	第 236 图	出土石器(24)·····	257
第 200 图	出土石器(145)·····	219	第 237 图	出土石器(25)·····	258
第 201 图	出土石器(146)·····	220	第 238 图	出土石器(26)·····	259
第 202 图	出土石器(147)·····	221	第 239 图	压痕土器出土状況·····	289
第 203 图	出土石器(148)·····	222			
第 204 图	石器出土状況·····	224			
第 205 图	遺構内出土石器(1)·····	225			
第 206 图	遺構内出土石器(2)·····	226			
第 207 图	遺構内出土石器(3)·····	227			
第 208 图	遺構内出土石器(4)·····	228			
第 209 图	遺構内出土石器(5)·····	229			
第 210 图	集積内石斧·····	230			
第 211 图	石器類出土状況·····	231			

表目次

第 1 表	三本松遺跡周辺遺跡地名表	11	第 16 表	土器観察表(15)	274
第 2 表	土器観察表(1)	260	第 17 表	土器観察表(16)	275
第 3 表	土器観察表(2)	261	第 18 表	土器観察表(17)	276
第 4 表	土器観察表(3)	262	第 19 表	土器観察表(18)	277
第 5 表	土器観察表(4)	263	第 20 表	土器観察表(19)	278
第 6 表	土器観察表(5)	264	第 21 表	土器観察表(20)	279
第 7 表	土器観察表(6)	265	第 22 表	土器観察表(21)	280
第 8 表	土器観察表(7)	266	第 23 表	土器観察表(22)	281
第 9 表	土器観察表(8)	267	第 24 表	土器観察表(23)	282
第 10 表	土器観察表(9)	268	第 25 表	石器観察表(1)	283
第 11 表	土器観察表(10)	269	第 26 表	石器観察表(2)	284
第 12 表	土器観察表(11)	270	第 27 表	石器観察表(3)	285
第 13 表	土器観察表(12)	271	第 28 表	石器観察表(4)	286
第 14 表	土器観察表(13)	272	第 29 表	石器観察表(5)	287
第 15 表	土器観察表(14)	273			

写真図版

図版 1	発掘調査状況	318	図版 18	出土土器	335
図版 2	発掘調査状況・遺物出土状況	319	図版 19	出土土器	336
図版 3	遺物出土状況	320	図版 20	出土土器	337
図版 4	竪穴状遺構	321	図版 21	出土土器	338
図版 5	土坑	322	図版 22	遺構内出土土器	339
図版 6	集石遺構(1)	323	図版 23	遺構内出土土器	340
図版 7	集石遺構(2)	324	図版 24	遺構内出土土器	341
図版 8	1号配石	325	図版 25	遺構内出土土器	342
図版 9	石斧集積遺構・土器集中出土1	326	図版 26	出土土器	343
図版 10	土器集中出土3・4	327	図版 27	出土土器	344
図版 11	石器製作跡	328	図版 28	出土土器	345
図版 12	土器出土状況(I地点)	329	図版 29	出土土器	346
図版 13	土器出土状況(II地点)	330	図版 30	出土土器	347
図版 14	土器出土状況(III地点)	331	図版 31	出土土器	348
図版 15	石器出土状況(I地点)	332	図版 32	出土土器	349
図版 16	石器出土状況(II地点)	333	図版 33	出土土器	350
図版 17	石器出土状況(III地点)	334	図版 34	出土土器	351

图版 35	出土石器	352	图版 42	出土石器	359
图版 36	出土石器	353	图版 43	出土石器	360
图版 37	出土石器	354	图版 44	出土石器	361
图版 38	出土石器	355	图版 45	出土石器	362
图版 39	出土石器	356	图版 46	出土石器	363
图版 40	出土石器	357	图版 47	粘土块成块	364
图版 41	出土石器	358	图版 48	具化石	365

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査に至る経緯

鹿児島県土木部道路建設課（熊毛支庁土木課・現熊毛支庁建設課）は、西之表市安城・立山地区内において県道（西之表南種子線）改築事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。

これをうけて、県文化財課が平成 13 年 3 月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に 10 箇所以上の遺跡が存在することが判明した。

分布調査の結果をもとに熊毛支庁土木課・県文化財課・西之表市教育委員会文化課（平成 15 年度より社会教育課となる）は、遺跡の取り扱いについて協議を行い、工事年度等を考慮しながら、年次的に遺跡の有無・範囲・内容等を把握するため、埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。

三本松遺跡の確認調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成 15 年 7 月に実施した。調査の結果、土器・石器などの遺物が出土し遺物包含層が確認された。時期区分では縄文時代早期のもので、工事対象地内に遺跡は広がっていることが確認された。

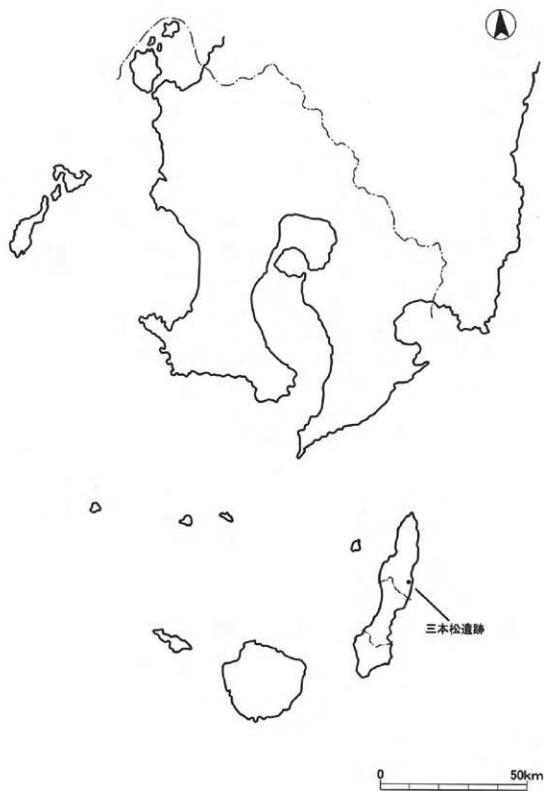
確認調査の結果に基づき、西之表市教育委員会と熊毛支庁土木課、県文化財で遺跡の取り扱いについて協議した結果、工事対象地内において遺跡の現状保存は不可能であり、緊急発掘調査を行い記録保存を図ることとなった。

三本松遺跡の緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成 17 年度に実施した。調査の結果、縄文時代早期の遺構・遺物が出土し、当初想定していた遺跡の範囲へ大きく広がることが確認されたため、緊急発掘調査を平成 18 年度・19 年度と 2 年度にかけて実施することとなった。

平成 18 年度の緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成 18 年 9 月 19 日から調査を実施し、調査終了後の埋め戻しや機材・プレハブ等の撤去など発掘調査に関わる業務が終了したのは平成 19 年 2 月 22 日であった。発掘調査終了後は事業報告書の作成を行った。

平成 19 年度の調査は平成 19 年 9 月より実施し、埋め戻し及びプレハブの撤去など調査に係る業務が終了したのは平成 20 年 2 月であった。発掘調査終了後は事業報告書の作成を行った。

整理作業・報告書作成作業は平成 21 年度から平成 24 年度にかけて行った。他の遺跡の発掘調査や整理・報告書作成作業と同時に進行しなければならなかった点や、三本松遺跡からは多数の遺構や膨大な数の遺物の出土量があった点、また科学分析においてコクゾウムシの圧痕が発見されたことにより、より詳細な分析を行う必要が生じたことなどから、整理・報告書作成作業が複数年度に及ぶこととなった。



第1図 調査地位置図

第2節 調査の組織

緊急発掘調査組織

(平成17年度)

調査主体	西之表市教育委員会		
調査責任者	西之表市教育委員会	教育長	有島 正之
調査企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長	河野 博康
	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐	奥村 学
調査担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 事	沖田純一郎
発掘調査作業員	荒井美佳子 原里菜 榎元オリエ	竹之内綾子 徳永ミツエ	
	長野フミエ 小川智子 小川良子	川原明子 長野フミ子	
	山口エチ子 牧瀬文子 金澤光治	堂免ヨリ子 榎元満男	

(平成18年度)

調査主体	西之表市教育委員会		
調査責任者	西之表市教育委員会	教育長	有島 正之
調査企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長	河野 博康
	"	課長補佐	奥村 学
	"	主 査	柳田さゆり
調査庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査	濱渡 友子
調査担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査	沖田純一郎
発掘調査作業員	荒井美佳子 原里菜 榎元オリエ	竹之内綾子 上妻レイ子	
	長野フミエ 堂免ヨリ子 小川良子	川原明子 長野フミ子	
	山口エチ子 松田スヤ子 牧瀬文子	金澤光治 榎元満男	

(平成19年度)

調査主体	西之表市教育委員会		
調査責任者	西之表市教育委員会	教育長	有島 正之
調査企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長	内田 節生
	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐	奥村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	主 査	柳田さゆり
調査庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 事	鮫島 斉
調査担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査	沖田純一郎
発掘調査作業員	山口エチ子 徳永ミツエ 中村 波子	長野フミ子 牧瀬文子	
	堂免ヨリ子 長野フミエ 小倉みよ子	馬場たづ子	
	平石かつえ 松田スヤ子 江頭すえみ	荒井美佳子	

整理・報告書作成作業組織

(平成 21 年度)

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 有島 正之
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 内田 節生
	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐 奥村 学
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 日高 成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 沖田純一郎
整理作業員	荒井美佳子 藤本まゆみ 石堂久美子 古元真知子	

(平成 22 年度)

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 有島 正之
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 奥村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長 沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 日高 成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 沖田純一郎
整理作業協力	熊本大学埋蔵文化財調査室・鹿児島県教育庁文化財課	
整理作業員	荒井美佳子 藤本まゆみ 古元真知子	

(平成 23 年度)

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 有島 正之 (平成 23 年 10 月 24 日まで) 教 育 長 立石 望 (平成 23 年 10 月 25 日～)
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 奥村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長 沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 日高 成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長 沖田純一郎
整理作業協力	熊本大学埋蔵文化財調査室・鹿児島県教育庁文化財課 鹿児島大学埋蔵文化財調査室・鹿児島県立埋蔵文化財センター	
整理作業員	藤本まゆみ 古元真知子	

(平成24年度)

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 立 石 望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 奥 村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長 沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 日 高 成 子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長 沖田純一郎
整理作業協力	熊本大学文学部・鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県歴史資料センター 黎明館・鹿児島県立博物館・鹿児島大学埋蔵文化財調査室 鹿児島県立埋蔵文化財センター	
整理作業員	藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花	

第3節 調査の経過

緊急発掘調査は、平成17年度・18年度・19年度と3ヶ年にかけて実施した。工事計画図面をもとに、調査対象地に5mグリッドを設置し、重機によりアカホヤ火山灰層までを除去した後、人力により掘り下げを行い、調査を進めていった。以下調査の経過については日誌抄をもつてかえる。

「平成17年度 緊急発掘調査（I地点）」

9月8日～9日	重機による調査地内、表土剥ぎ。
9月13日～16日	表土剥ぎ・杭打ち。北側掘り下げ。吉田式土器片・レキ・黒曜石（姪島産）・石鏃（黒曜石製）出土。遺物出土状況写真撮影、平板・レベル測量、遺物取り上げ。プレハブ・ベルトコンベア設置。ブルーシートをかけて保護。奥村文化課長補佐氏来跡。
9月20日～22日	道路側・B区掘り下げ。 石鏃・黒曜石剥片・すり石・土器小片等出土。出土状況写真撮影。平板・レベル測量後、遺物取り上げ。
9月26日～29日	北側・ゲートボール場側、O区・A区、B区掘り下げ。 姪島産黒曜石剥片・砕片・石鏃・土器・吉田式・礫出土。 集石検出・水洗い・写真撮影。 河野社会教育課長、奥村文化課長補佐氏来跡。
10月3日～7日	A区掘り下げ。土器等出土。A-5区、イコウ検出。環状配石検出。 A-4区、黒曜石46点集中出土。平板実測、遺物取り上げ。 熊毛支庁土木課、岡本氏、奥村文化課長補佐来跡。

10月11日～14日	北側・南側・壁面清掃・壁面側・A・B・C区掘り下げ。遺構検出。黒曜石剥片・土器片出土。 B区集石実測。A・B区出土遺物取り上げ。ビニール袋をかぶせる。 市役所建設課、榎元氏、上妻敏男氏、農林水産課、前田氏、他3名来跡。 青崎氏、鮫島安豊氏、河内建設来跡。
10月17日～20日	A・B区、北側壁面側、堅穴状遺構検出。南側、掘り下げ。土器片出土。 遺物取り上げ。図面整理。チップ選別。排土処理、表土剥ぎ。 奥村文化課長補佐、田頭氏、森田氏（榕城小職員）来跡。
10月25日～28日	南側・A・B・C区、掘り下げ。石礫1点・土器片出土。遺物取り上げ。 断面実測。北側半截。ベルトコンベア移設・点検。 河野社会教育課長、奥村文化課長補佐、堂込氏、藤尾氏、石堂氏、徳田氏、沢柳氏、深田氏（社会体育係）、田頭氏、森田氏、榕城小職員来跡。
10月31日～ 11月4日	南側・堅穴状遺構内掘り下げ。遺物取り上げ。遺構ポイント実測。 奥村文化課長補佐来跡。
11月7日～10日	南側掘り下げ。土器出土、集石検出。遺物取り上げ。 土層断面分層、土層断面実測作業。ベルトコンベア3台撤去。 河野氏、沢柳氏、深田氏（社会体育係）来跡。
11月14日～18日	南側・東側・掘り下げ。石斧デボ（集積）・集石検出。石斧・砥石・クサビ貼り 付け土器出土。環状配石断面実測。遺物取り上げ。ポイント作成。 排土処理・ベルトコンベア移設。 河内建設、田頭氏、森田氏（榕城小学校職員）来跡。
11月21日 ～12月2日	東側・防火水槽内掘り下げ。クサビ貼り付け土器出土。遺物取り上げ。河内 建設来跡。調査地内清掃・写真撮影。 調査終了。

「平成18年度緊急発掘調査（Ⅱ地点）」

9月	9月12日より調査開始。重機による表土除去作業後、北側・西側掘り下げ開始。 出土遺物について平板・レベル測量後、取り上げ。西側土層断面図作成。遺構 検出作業。検出遺構平面図・断面図実測作業。
10月	東側・北側土層断面図作成。平板・レベル遺物取り上げ。排土処理作業。 北側・南側掘り下げ。吉田式土器・剥片（黒曜石）多量に出土。平板・レベル 遺物取り上げ。遺構検出作業
11月	南側・東側・北側掘り下げ。土器片・姫島産黒曜石・石斧出土。礫・土器片集 石出土地実測作業後、遺物取上げ。遺構検出作業及写真撮影。石器製作場跡か ら、多量の剥片出土。剥片数が多いため出土ブロックに分けて一部一括取り上 げを開始する。出土遺物は出土層を確認後、平板・レベル測量。

12月	東側・西側・南側掘り下げ。特に東側より吉田式土器片が多数出土する。平板・レベル遺物取り上げ実施。遺構検出作業。検出遺構について平面・断面図実測作業。遺物台帳整理・図面整理。東側・西側土層分層作業及び土層断面図作成作業。
1月	南側・東側・西側掘り下げ。遺物平板・レベル測量後取り上げ。遺構検出作業。土器出土状況実測作業。遺構検出作業。遺構写真撮影後、遺構の平面図・断面図実測作業。東側・西側土層断面図作成作業。
2月	調査地最南部掘り下げ作業。出土遺物平板・レベル測量後取り上げ。遺構検出作業及び検出遺構平面・断面実測図作成。南側土層断面図作成作業。遺構配置図作成。調査地測量作業。2月22日、発掘調査終了。

「平成19年度緊急発掘調査（Ⅲ地点）」

9月18日～21日	東側・南側掘り下げ。土器片・礫・石礫1点出土。 重機による表土剥ぎ。ベルトコンベア設置。 奥村文化課長補佐、柳田主査来跡。
9月25日～28日	南側・東側・西側掘り下げ。土器片・礫出土。重機による排土処理作業。 鹿児島女子短期大学竹中先生、沖縄県立蔵文化財センター職員、沖縄県恩納村教委職員など6名来跡。
10月2日～5日	西側・北側・南側掘り下げ。角筒土器片・礫出土。図面整理。 重機による表土剥ぎ(南側)及び、排土処理。ブルーシートを張り調査地保護。 社会教育課柳田主査来跡、西之表市経済観光課河本課長、日高課長補佐、鯨島主事来跡。
10月9日～12日	西側・南側掘り下げ。吉田式土器片出土。出土量少ない。土層は一部削平、攪乱を受けている。一括遺物洗浄作業。重機による廃土処理。 ベルトコンベア1台撤去。 榕城小学校職員来跡。
10月15日～19日	南側より東西掘り下げ。礫・土器小片、数点出土。重機による排土処理。 榕城小学校職員、熊毛支庁建設課河口氏来跡。
10月22日～26日	掘り下げ。遺物出土。 南側掘り下げ。写真撮影。重機による排土処理、表土剥ぎ。 安納小学校発掘体験。
10月29日 ～11月2日	南側・北側・東側掘り下げ。吉田式土器片・磨石・石器類出土。 シートをかけ調査地保護。重機による排土処理。現場事務所駐車場整地作業。 熊毛支庁建設課下園係長・川口氏・社会教育課柳田主査来跡。

11月5日～11日	北側南区掘り下げ。土器片・石斧出土。 重機による排土処理。ベルトコンベア移動。 現地説明会・縄文体験教室開催。来訪者約150名。社会教育課 奥村文化課長補佐、柳主査、西之表市文化財保護審議委員数名来訪。
11月12日 ～16日	北側・西側掘り下げ。土器、石器出土。遺物取り上げ。平板、レベル測量。 現地説明会場撤去作業。清掃。 重機による表土剥ぎ。排土処理。ベルトコンベア設置。配電盤設置。
11月19日 ～22日	北側・西側・南側掘り下げ。石炭・土器小片・吉田式土器片・底部片出土。 遺物取り上げ。重機による排土処理。
11月26日 ～30日	北側・南側・西側掘り下げ。土器片・磨石・礫出土。 出土遺物の洗浄。図面整理。重機による排土処理。 榕城小学校家庭教育学級生15名来訪。
12月3日～5日	北側・南側・西側・掘り下げ。重機による排土処理。 出土遺物少なし。土抗清掃後、写真撮影、土抗実測作業。
12月10日 ～14日	土抗掘り下げ、完掘後写真撮影。実測作業。 平板・レベル測量遺物取り上げ。土層断面実測開始。
12月17日 ～21日	西側・東側掘り下げ。東側壁面清掃。実測。 調査地保護の為、調査現場内にブルーシートをかける。
1月10日～11日	掘り下げ。土抗検出。清掃後写真撮影。土抗実測。 シートを掛けて調査地内保護。
1月15日～25日	土抗断面実測。 土抗半截し、掘り下げる。
1月30日 ～2月1日	平板測量。(遺構、土抗検出場所) 調査地埋め戻し。発掘道具片付け。
2月4日	調査地埋め戻し。調査事務所撤去作業。調査終了。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 自然環境

三本松遺跡の所在する種子島は、大隅半島最南端の佐多岬から南東約40kmの洋上に位置する。面積447.0㎡、延長52km、幅12kmで中種子町野間の地峡部では約6kmに過ぎない。最高海拔は、282.3mの比較的平で、九州最高峰の宮之浦岳（標高1935m）を有する屋久島とは地形的に対照的な島である。島の長軸は、北北東から南南西に細長く伸びており、九州本土や琉球列島の配列にほぼ近い。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

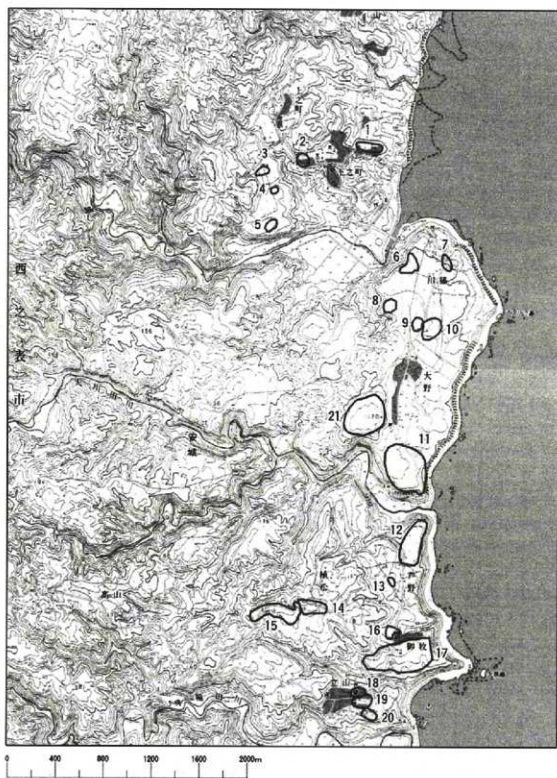
地質構造は、島全体に海岸段丘がよく発達しており、種子島北部の国上丘陵地域では高度60m、中部の中種子町中山から油久にかけては高度80m、南部の南種子町門倉付近では高度100mにも達する。この海岸段丘は西之表市の東西海岸、中種子町全域、南種子町の西側に見られ、極めて特徴的である。西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。

第2節 歴史的環境

これまでの考古学的調査により、種子島は南島北部文化圏（本土南九州の影響を受けた南九州文化圏）に属すると考えられている。この南九州文化圏に包括される種子島の遺跡を概観してみると、平成4年に発掘調査が行われた横峯C遺跡でA-T層の下位から磁群が検出され、約3万年前の後期旧石器時代の年代値が測定され、種子島で初めて旧石器時代の遺跡の存在が明らかとなった。

その後の調査で、旧石器時代の遺跡が続々と発見され、立切遺跡（中種子町）や、同時期の国内最古級の落とし穴が多数発見された大津保畑遺跡（中種子町）などがあり、旧石器時代の様相を考えるうえで全国的に注目されている。それ以後のナイフ形石器の文化層は現在種子島では確認されていないが、いわゆる旧石器時代終末期とされている細石刃核・細石刃が確認された遺跡は湊遺跡・大中峯遺跡・葉山遺跡（西之表市）・立切遺跡（中種子町）・銭亀遺跡（南種子町）などがある。湊・大中峯遺跡は表面採集資料ではあるが、大中峯遺跡では細石刃核10点、細石刃42点、剥片23点、砕片34点と多数の資料が採集されている。

縄文時代では、近年の調査で縄文時代草創期の良好な資料・遺構が相次いで発見されている。奥ノ仁田遺跡（西之表市）の調査で縄文時代草創期の遺跡が本土以南で初めて確認され、その後三角山遺跡（中種子町）・鬼ヶ野遺跡（西之表市）・横峯C・D遺跡の調査で陸帯土器片や石器類、多数の遺構が発見されている。また磨製の石槍が数十本出土し東日本との文化の交流を思わせる園田遺跡（中種子町）などがある。その後の縄文時代早期では前平式・吉田式・塞ノ神式・平裕式などが出土した遺跡の報告例が多数あり、良好な資料が増加してきている。また最近の調査ではこれまで報告例が少なかった押型土器・手向山式土器の出土報告例もみられるようになってきている。平成15年度から平成23年度にわたり、西之表市東南部地区（安城・立山地区）において県道整備事業に伴う発掘調査が西之表市教育員会により実施されており、縄文時代早期の資料数が増加してきている。



第2図 三本松遺跡と周辺遺跡図

第3節 遺跡の環境

三本松遺跡は西之表市の東南部、安城地区川脇の標高約48mの台地に位置する。遺跡の周囲には縄文時代草創期・早期の遺跡が多数所在する。多数の遺跡がこの地に所在する理由として、食料の確保が容易にできる環境化にあり（豊富な植物性食料・照葉樹林の発達）、海岸部までの距離がそれほど遠くないことなどが挙げられる。また各遺跡周辺には名前の付かないような小川や水源地がいたるところにあり、水の確保も十分であったと思われる。石器の石材を、周辺の河原や海岸部から持ち込んでいることなどを見ると、石材の採取も容易であったことが伺える。

第1表 三本松遺跡周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	仮屋園	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成10年農政分布調査
2	通利山	西之表市安城上之町	縄文時代	平成13年県道分布調査 平成15年試掘調査
3	鬼ヶ野A	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
4	鬼ヶ野B	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
5	鬼ヶ野	西之表市安城上之町	縄文時代草創期	平成13年発掘調査
6	日守C	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
7	三本松	西之表市安城川脇	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査
8	日守B	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
9	日守	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成7・8年発掘調査
10	長迫	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成13年県道分布調査 平成13年試掘調査
11	東前平	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成14・15年発掘調査
12	芦野	西之表市立山芦野	縄文時代早期	平成16年度発掘調査 本報告書
13	九郎三エ門	西之表市立山芦野	縄文時代	平成3年農政分布調査
14	奥嵐	西之表市立山権松	縄文時代早期	平成5年発掘調査
15	奥ノ仁田	西之表市立山権松	縄文時代草創期 早期	平成5年発掘調査 出土品は県文化財に指定
16	尾呂ノ平	西之表市立山御牧	縄文時代	平成13年県道分布調査
17	長崎	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
18	中園A	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
19	中園B	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
20	下ノ平	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
21	銀ノ刃	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査

第三章 発掘調査の概要

第1節 調査の概要

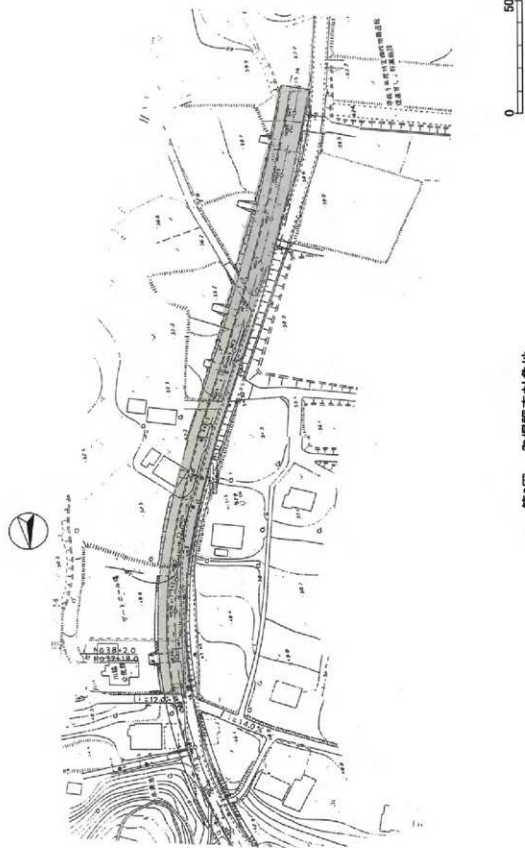
平成17年度から19年度と3ヶ年にわたり、三本松遺跡の緊急発掘調査を行った。調査年度ごとに分け、17年度の調査をⅠ地点とし、18年度の調査をⅡ地点、19年度の調査をⅢ地点とし、各調査ごとに概要を述べる。

Ⅰ地点の調査（平成17年度）

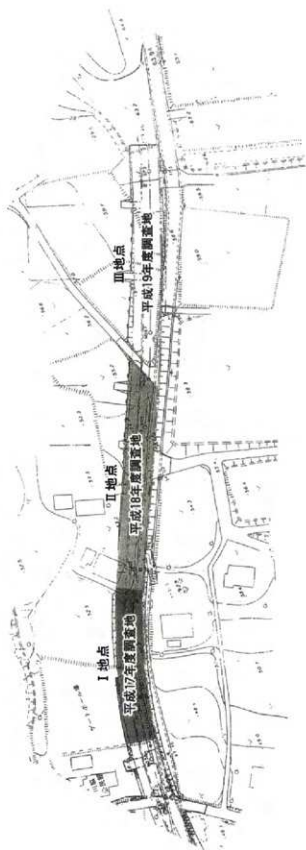
平成17年度の発掘調査は、表土を除去後調査対象地に5mグリッドを設置し、人力で掘り下げながら、遺物・遺構の検出を行った。発掘調査は9月から12月まで行われ、調査面積は725㎡である。竪穴状遺構・集石・配石・石斧集積や石器製作場跡など複数の遺構が検出され、遺物は縄文時代早期の塞ノ神式・吉田式などの土器類や石鏃をはじめとする多量の石器類の出土があった。番号を付けて取上げた遺物は1,375点であり、バンケース14箱分である。調査の結果、当初想定していた三本松遺跡のエリアが大幅に南側に拡張することが判明した。調査終了後、事業主体者側と西之表市教育委員会が遺跡の取り扱いについて協議を行い、平成18年度・19年度と2ヶ年にわたり、事業対象地内の緊急発掘調査を実施することとなった。

Ⅱ地点の調査（平成18年度）

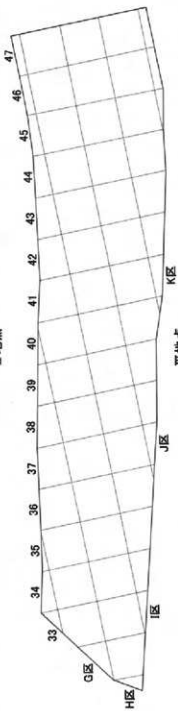
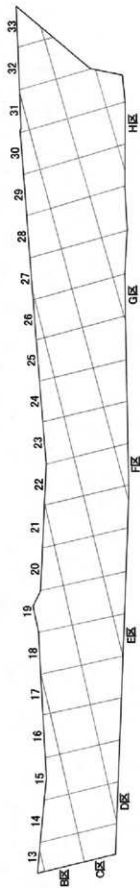
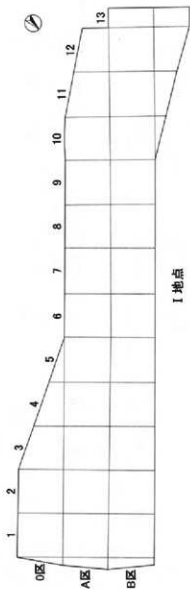
平成18年度の発掘調査は、調査地の表土を重機で取り除いた後、5mグリッドを設置し、人力で掘り下げながら、遺物及び遺構の検出を行った。平成17年度の調査に比べ遺物の出土分布が非常に密であり、遺物の平板実測・レベル測定作業にかなりの時間を割いた。調査地の土層断面及び検出された全ての遺構、土器集中出土地においては実測作業を行い、遺構の検出状況・遺物出土状況・土層断面・作業状況などはビデオ撮影及び写真撮影で記録を行った。調査面積は約1,022㎡である。遺物は第Ⅲ層・Ⅳ層より土器・石器類が出土した。時期区分では全て縄文時代早期のものである。番号を付けて取上げた遺物は3,216点であり、チップ類や土器小片などはグリッド一括として取上げた。出土量はバンケース130箱分であり、調査面積の割には、膨大な遺物の出土量となった。土器片は第Ⅲ層上位から、塞ノ神式・手向山式・押型文土器が出土し、Ⅲ層中位からⅣ層上位にかけて、吉田式土器が出土している。18年度の調査で出土した土器の主体となるのは吉田式土器であり、出土土器の8割を超えるものである。石器は石鏃、剥片類、石斧、磨石・敲石、台石・石皿類などが出土している。石鏃や剥片類などの石材は種子島では産出しない黒曜石が用いられており、当時の交流を伺うことができるものである。Ⅲ層上位間で姫島産（大分県）の黒曜石製剥片が大量に出土し、石器製作跡と思われる。



第9图 免掘调查对象地



第4図 各年度ごとの調査地(I・II・III地点)



第5図 調査地グリッド配置図

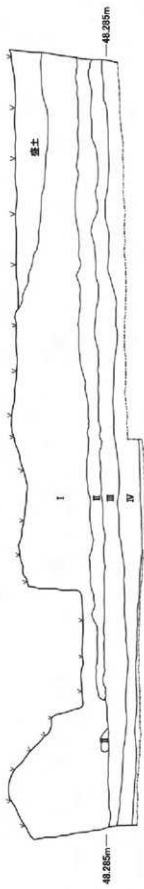
Ⅲ地点の調査（平成19年度）

平成19年度の調査は、調査地の表土を重機で取り除いた後、昨年度のグリッド図に合わせて5mグリッドを設置し、人力で掘り下げながら、遺物及び遺構の検出を行った。調査地北側区は特に表土（黒色土）の堆積が非常に厚く、表土除去作業にかなりの時間を割いた。調査地の土層断面及び検出された遺構などについては実測作業を行い、出土した遺物は平板測量・レベル測定をして出土位置を記録した。また作業状況・遺物の出土状況・土層は写真撮影を行った。調査面積は約1,300㎡であった。遺物は第Ⅲ層・Ⅳ層より土器・石器類がバンケース15箱分出土した。時期区分では全て縄文時代早期のものである。番号を付けて取上げた遺物は411点であった。18年度は3,216点と膨大な数であったが、19年度は18年度に比べると遺物の量は多くはなかった。遺物の分布は北側・西側に偏りが見られ、中央部からの出土はごく僅かであった。土器は第Ⅲ層上位からは壺ノ神式土器が出土し、Ⅲ層中位からⅣ層上位にかけて、吉田式土器が出土している。19年度の特徴として壺ノ神式土器が調査地の南側に分布することと、吉田式土器は18年度に比べて分布密度がそれほど高くないことがいえる。しかしながらこれまで、3ヶ年にわたって調査を行った結果、特に吉田式土器の出土量が膨大であり、充実した資料が確認されている。鹿児島県内でもこれほど多量の吉田式土器が出土した例はごく僅かであり、種子島及び南九州の縄文時代早期の土器の移り変わりを考える上で非常に重要な資料となった。

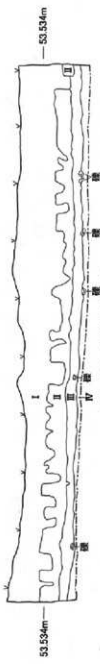
第2節 層位

土層は場所によって一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。土層の堆積状況は全体的に良好であった。

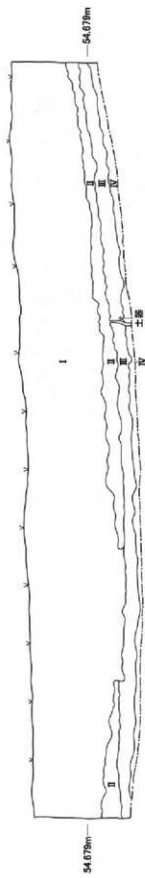
- | | |
|----------------|--|
| I層 表土 | 場所によって、表土(灰黒色土)・旧表土(真黒色土)と2層に分層可能である。 |
| II層 黄橙色火山灰土層 | (アカホヤ火山灰層、約6,400年前の鬼界カルデラ噴出堆積物)
場所によっては1次堆積物、2次堆積物に分層可能である。 |
| III層 ベージュ色粘質土層 | 遺物包含層(縄文時代早期) |
| IV層 黒褐色土層 | 上位は遺物包含層(縄文時代早期)中位で一部に小指大以下の細かいイミミスがみられる。サンマ火山灰であり約11,000年前の桜島起源の噴出物である。 |
| V層 灰黒褐色土層 | 場所によっては硬化面がみられる。 |
| VI層 黄褐色ローム層 | 粘質がある |



I 地点北侧土层断面



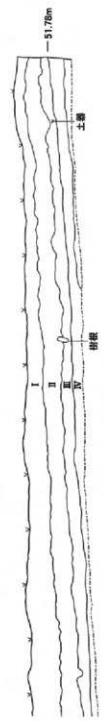
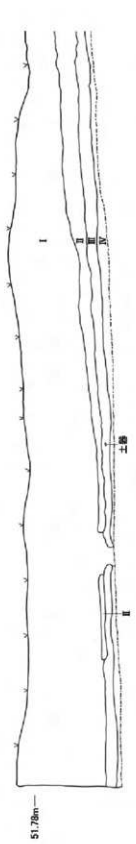
II 地点23区东西土层断面



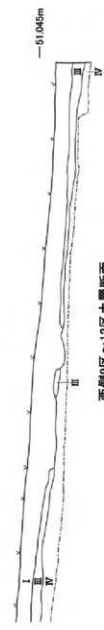
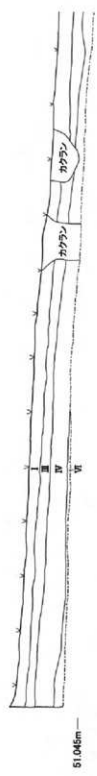
III 地点北侧土层断面



第6图 I·II·III 地点土层断面

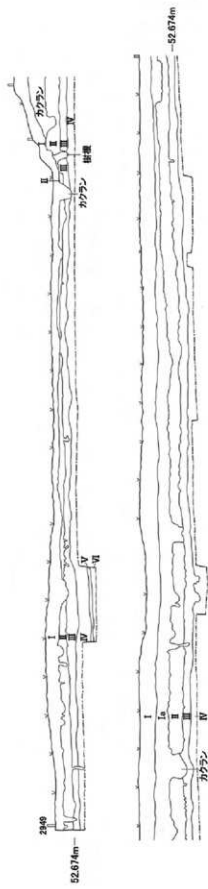


東側7区~12区土層断面

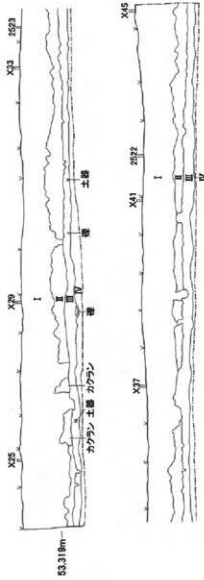


西側9区~12区土層断面
第7図 I地点土層断面





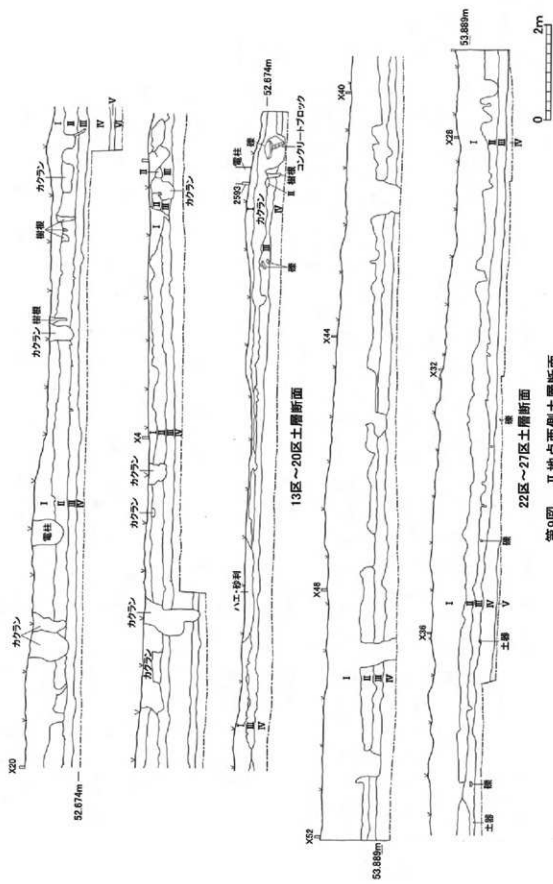
13区～21区土層断面



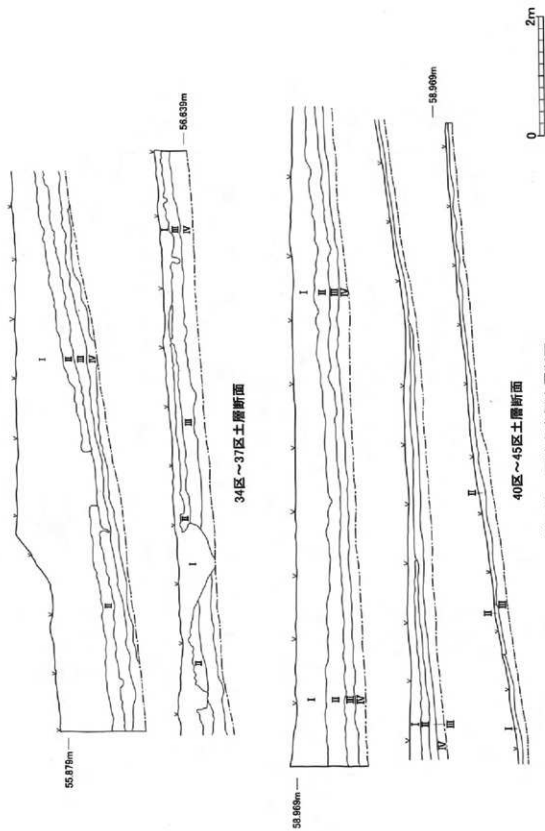
22区～27区土層断面

第8図 II 地点東側土層断面

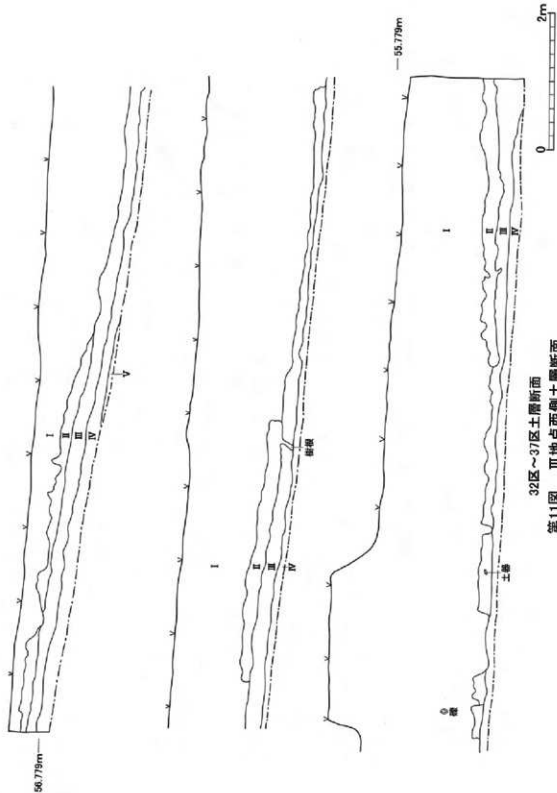




第9図 II 地点西側土層断面



第10図 Ⅲ地点東側土層断面



32区~37区土層断面
第11図 Ⅲ地点西側土層断面

第3節 遺構

遺構は竪穴状遺構3基、土坑5基、集石11基、配石2基、集積2基が検出された。また土器集中出土地が4か所、石器製作場跡が2か所確認された。検出面は第Ⅲ層及び第Ⅲ層と第Ⅳ層の分層部分、第Ⅳ層上位面である。以下各遺構の検出状況等について述べ、また各遺構内から出土した土器の実測図を掲載する。

(1) 竪穴状遺構 (第13図～第15図)

竪穴状遺構は調査地Ⅰ地点より1基、Ⅱ地点より2基と合計3基検出された。

1号竪穴状遺構 (第13図)

検出状況 Ⅰ地点調査地のA-6区で検出された。

形状と規模 365 cm×348 cmのほぼ円形を呈する。周辺に柱穴等の掘り込みは確認されなかった。

出土遺物 遺構内からは土器片73点、石鏃を含む石器4点が出土した。

2号竪穴状遺構 (第14図)

検出状況 Ⅱ地点調査地のD-21区で検出された。

形状と規模 485cm×470cmのほぼ円形を呈し、今回検出された3つの竪穴状遺構の内、最大のものである。周辺には柱穴等の掘り込みは確認されなかった。

出土遺物 遺構内から土器片68点、石器類78点が出土した。この石器類のなかで、炎熱を受け赤化したものが数点みられる。

3号竪穴状遺構 (第15図)

検出状況 Ⅱ地点調査地のE-23区で検出された。

形状と規模 143 cm×93 cmの大きさで、半円状を呈する。西側の壁面で半截された状態での検出であったため、全体の規模は確認できなかった。周辺には柱穴等の掘り込みは確認できなかった。

出土遺物 遺構内から土器片4点の出土があった。

(2) 土坑 (第16図～第18図)

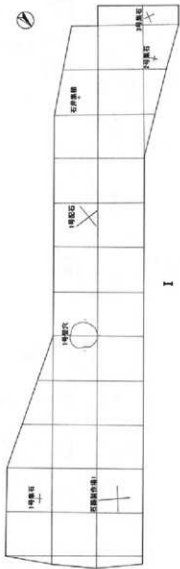
土坑は調査地Ⅱ地点より4基、調査地Ⅲ地点より1基の合計5基検出された。

1号土坑 (第16図)

検出状況 調査地Ⅱ地点、D-17区で検出された。

形状と規模 大きさは170 cm×140 cmで、ほぼ円形を呈する。

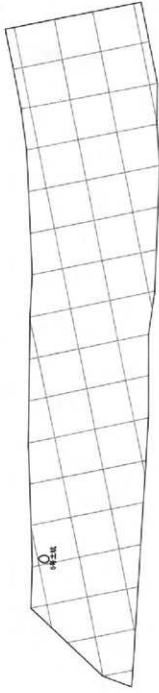
出土遺物 中心部に遺物が集中しており、土器片・礫の出土があった。



I



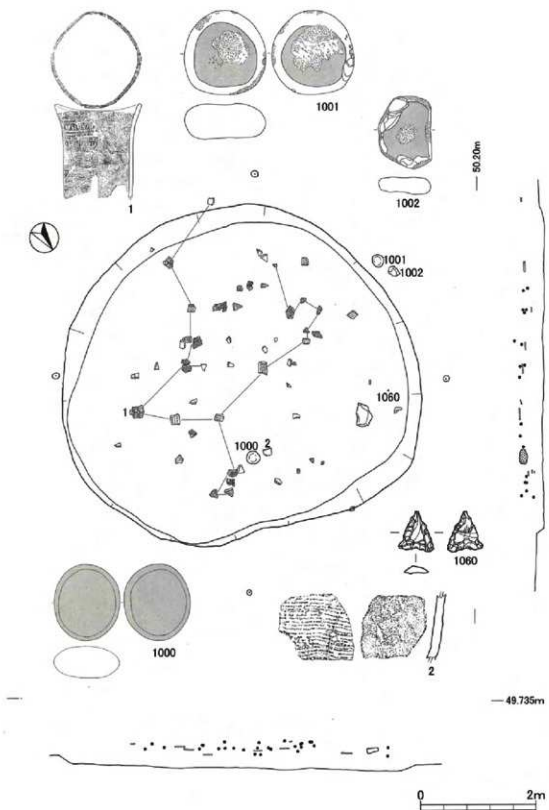
II



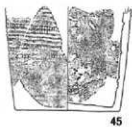
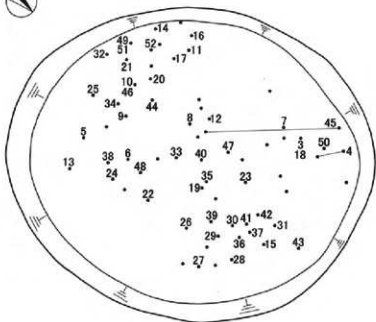
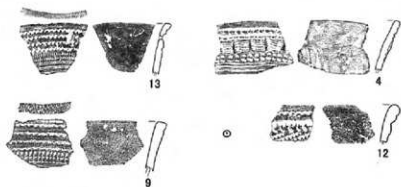
III



第12図 遺構配置図



第13圖 1号竖穴状遺構

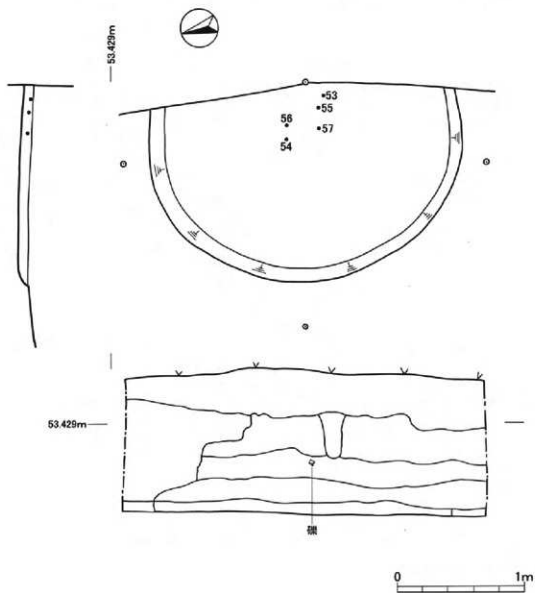
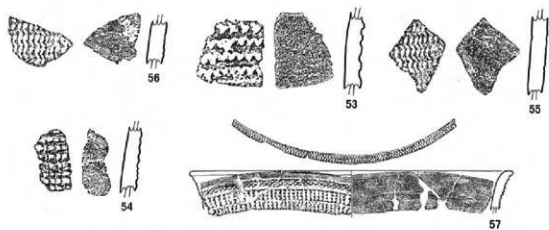


53.209m —

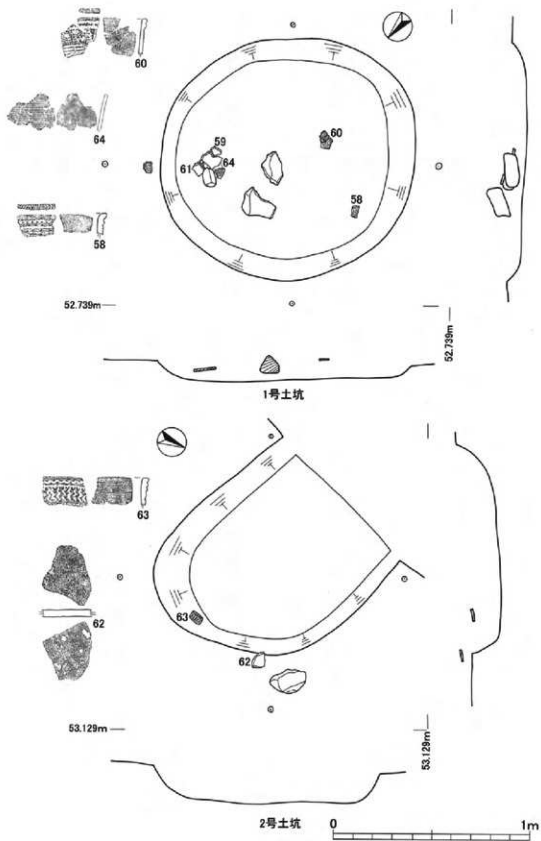


0 1m

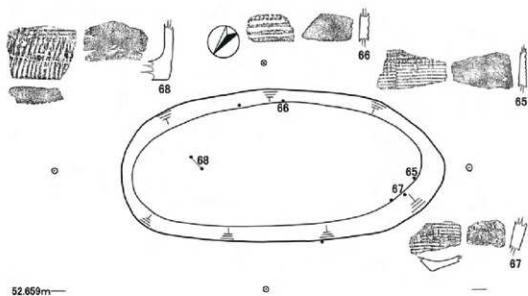
第14图 2号竖穴状遺構



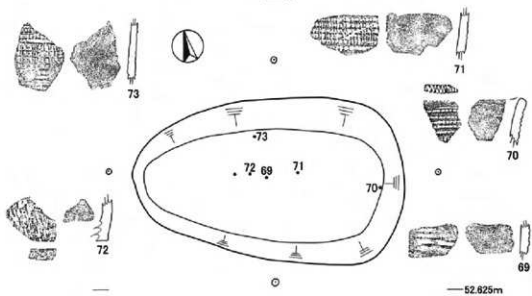
第15图 3号竖穴状遗構



第16图 土坑(1)



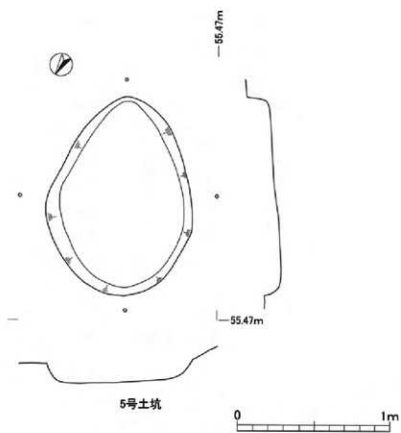
3号土坑



4号土坑



第17圖 土坑(2)



第18图 土坑(3)

2号土坑 (第16図)

検出状況 調査地Ⅱ地点，E-21区で検出された。3号竪穴状遺構の北側に隣接しての検出である。

形状と規模 大きさは150cm×137cmであるが，西側の壁面で半截された形での検出であり，半円状である。よって，正確な大きさは確認できなかった。

出土遺物 遺構内からは土器片2点，石器1点が出土した。

3号土坑 (第17図)

検出状況 調査地Ⅱ地点，D-19区からの検出である。

形状と規模 195cm×105cmの大きさで，楕円形を呈す。

出土遺物 中心部より土器片7点，石器1点の出土があった。

4号土坑 (第17図)

検出状況 調査地Ⅱ地点，D-19区より検出された。3号土坑の南側に隣接するような形での検出である。

形状と規模 楕円形を呈し，大きさは154cm×100cmである。

出土遺物 遺構内から土器片が6点出土した。

5号土坑 (第18図)

検出状況 調査地Ⅲ地点のG-35区で検出された。

形状と規模 大きさは130cm×95cmで，楕円形を呈する。検出面は第Ⅳ層上位面である。

出土遺物 遺構内からの遺物の出土は確認されなかった。

(3) 集石遺構 (第19図～第24図)

集石遺構は調査地Ⅰ地点より3基，Ⅱ地点より8基，合計11基検出された。

1号集石遺構 (第19図)

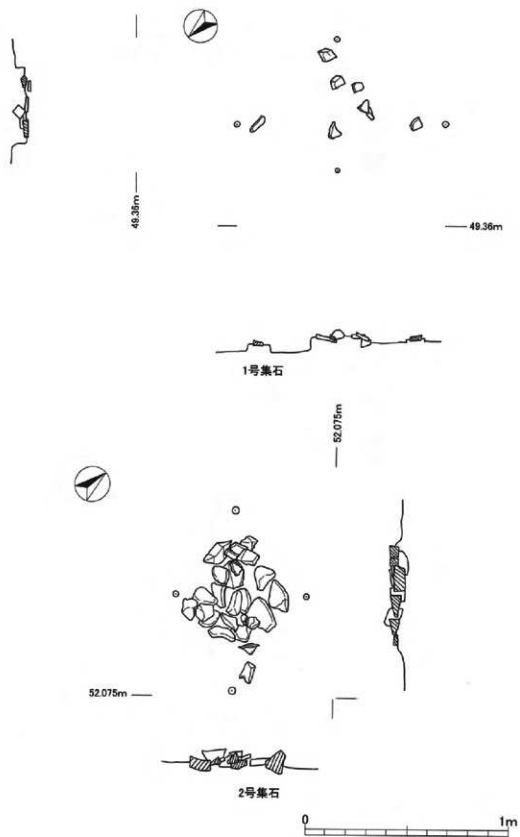
検出状況 Ⅰ点調査地，D-2区で検出された。

形状と規模 90cm×45cmの範囲内で，礫が8点まとまった形である。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。

2号集石遺構 (第19図)

検出状況 Ⅰ地点調査地，C-12区から検出された。

形状と規模 75cm×55cmの範囲内に，礫27点で構成されている。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。



第19图 集石(1)

3号集石遺構 (第20図)

検出状況 I地点調査地, C-13区から検出された。

形状と規模 130 cm×100 cmの広範囲内に、礫103点から構成されており、礫の数が多し。土器片8点も集石内から出土している。また集石を構成する礫のうち、3点は使用痕が確認された。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。

4号集石遺構 (第21図)

検出状況 調査地II地点, F-25・26区で検出された。

形状と規模 140 cm×105 cmの範囲内に、やや礫がばらけた状態での検出である。構成される礫は37点で、土器片も3点集石内に含まれる。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。

5号集石遺構 (第21図)

検出状況 II地点調査地, E-26区で検出された。礫がばらけた感じでの状態であった。

形状と規模 95 cm×90 cmの範囲内に、礫20点から構成される。この中で2点の礫については使用痕が確認され、石器として利用されていたものである。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。

6号集石遺構 (第22図)

検出状況 調査地II地点, E-26区で検出された。

形状と規模 70 cm×60 cmの範囲内で、特に中心部に礫がぎっしりと詰まった形である。構成される礫は41点であり、土器片1点の出土もあった。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。

7号集石遺構 (第22図)

検出状況 調査地II地点, E-25・F-25で検出された。

形状と規模 70 cm×105 cmの範囲内に、礫23点で構成されている。土器片1点も出土している。礫には炎熱を受け赤化しているものもある。

8号集石遺構 (第23図)

検出状況 II地点調査地, D-16区から検出された。

形状と規模 50 cm×60 cmのやや狭い範囲内に、礫14点から構成されている。礫が散在した感じの強い小ぶりの集石である。

9号集石遺構 (第23図)

検出状況 II地点調査地, D-18区から検出された。

形状と規模 100 cm×100 cmの範囲内の特に中心部に、礫がぎっしりと詰まった状態である。礫

は数十cmをこえる大型の礫もみられ、炎熱を受け赤化しているものが多数みうけられた。構成される礫は116点であり、土器片1点も出土している。この集石には、下部に掘り込みが確認された。

10号集石遺構 (第24図)

検出状況 調査地Ⅱ地点、C-18区での検出である。

形状と規模 130 cm×100 cmの範囲内に、数十cmをこえる大型の礫がぎっしり詰まった状態である。構成される礫は98点で、大型の礫が目立つ。また集石内から土器片が2点出土している。礫には炎熱を受け赤化しているものや、熱破砕を受けたものなどがみうけられた。

11号集石遺構 (第24図)

検出状況 Ⅱ地点調査地、D-20区より検出された。

形状と規模 100 cm×115 cmの範囲内で、数十cmをこえるような大型の礫が目立ち、この礫がぎっしりと中心部に、密に詰まった状態である。構成される礫は79点で、うち2点は使用痕が確認できるものであった。また土器片も1点集石内より出土している。礫には炎熱を受け赤化しているものや、熱破砕を受けたものなどがみられる。また、この集石の下位には掘り込みが確認された。

(4) 配石遺構 (第25図)

配石遺構は調査地Ⅰ地点、Ⅱ地点よりそれぞれ1基ずつ、合計2基検出された。

1号配石遺構 (第25図)

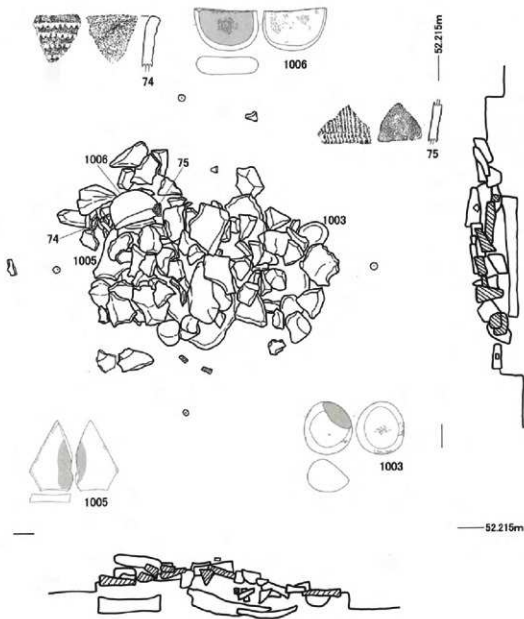
検出状況 調査地Ⅰ地点、A-8区から検出された。

形状と規模 260 cm×250 cmの広範囲において、両掌ぐらいある大形の砂岩礫が環状に配置されたものである。礫の総数は82点であり、平たく板石状の砂岩礫が目立つ、配置された礫のうち3点は使用痕が確認された。配石内から土器片が4点出土している。中央部からは遺物等の出土はなく、また下位に掘り込みは確認されなかった。極めて特徴的な配石である。

2号配石遺構 (第25図)

検出状況 調査地Ⅱ地点、C-21区で検出された。

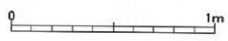
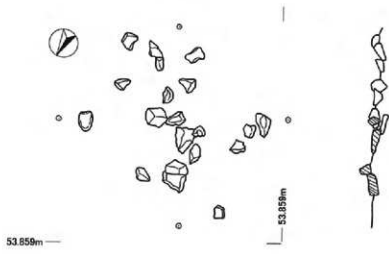
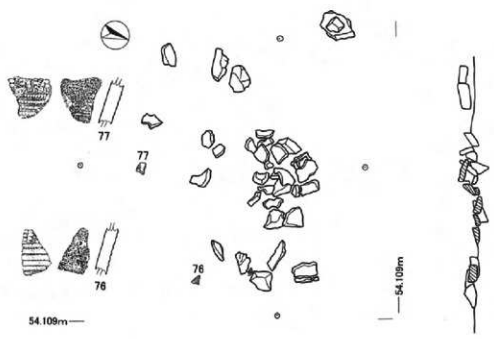
形状と規模 105 cm×155 cmの範囲内に、砂岩礫が9点東西方向に横並びする形である。砂岩礫は数十cmをこえるものもあるが、礫の配置は散在している感もある。配石範囲下層に、掘り込み等は確認できなかった。



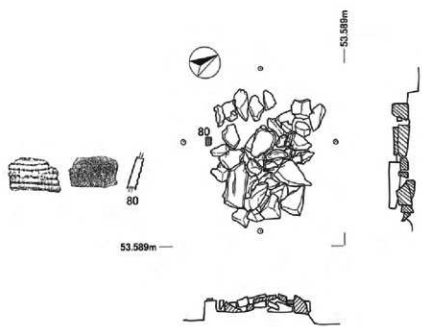
3号集石



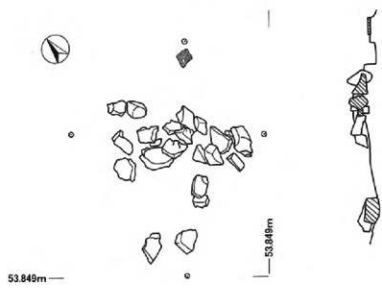
第20圖 集石(2)



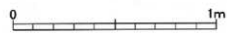
第21圖 集石(3)



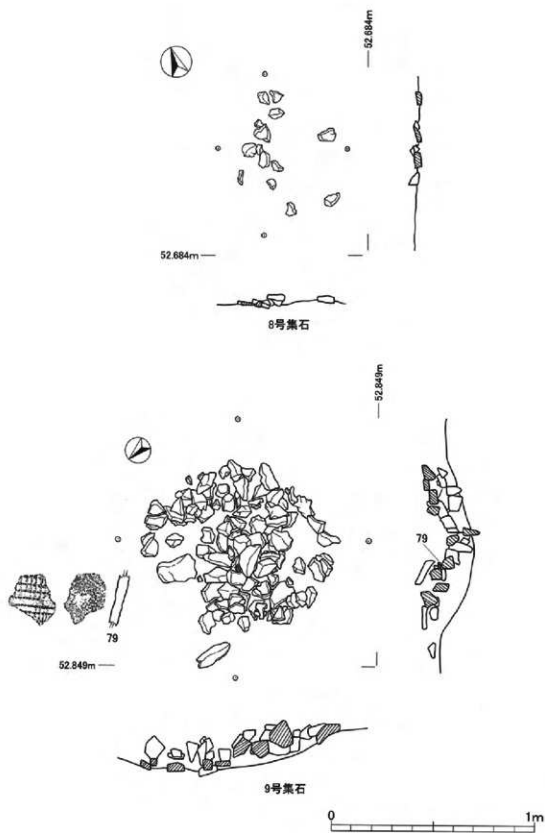
6号集石



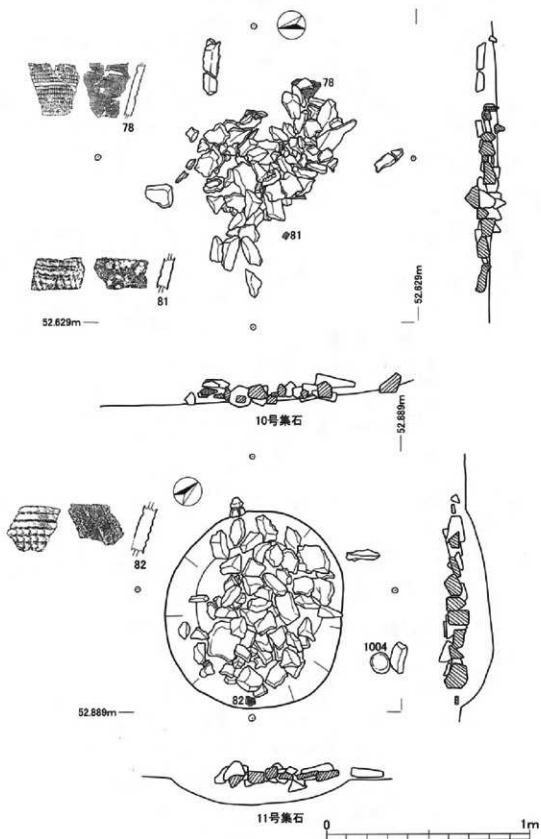
7号集石



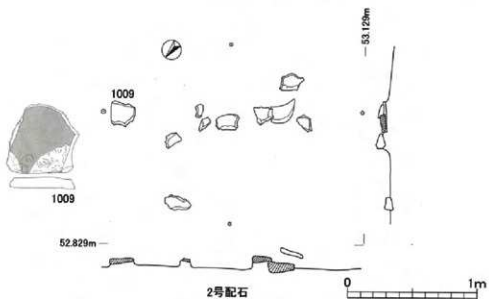
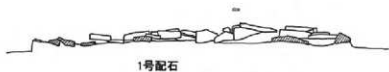
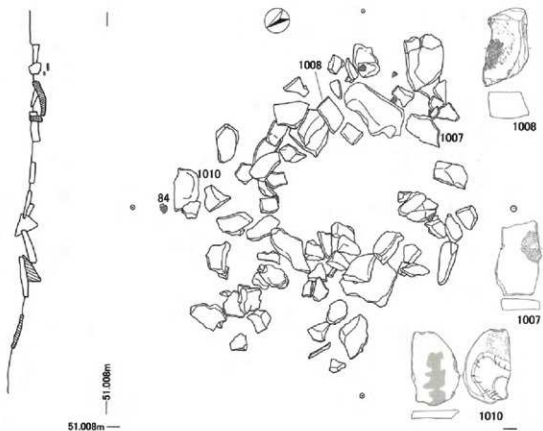
第22图 集石(4)



第23図 集石(5)

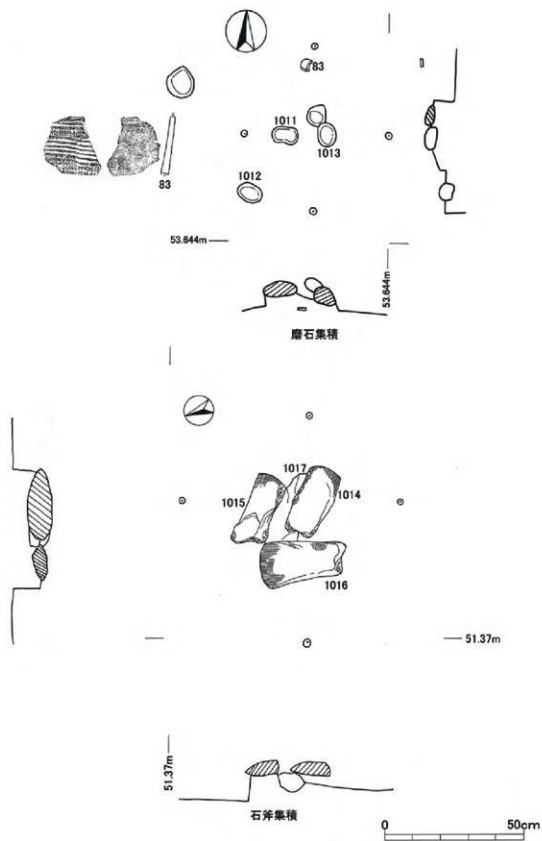


第24图 集石(6)

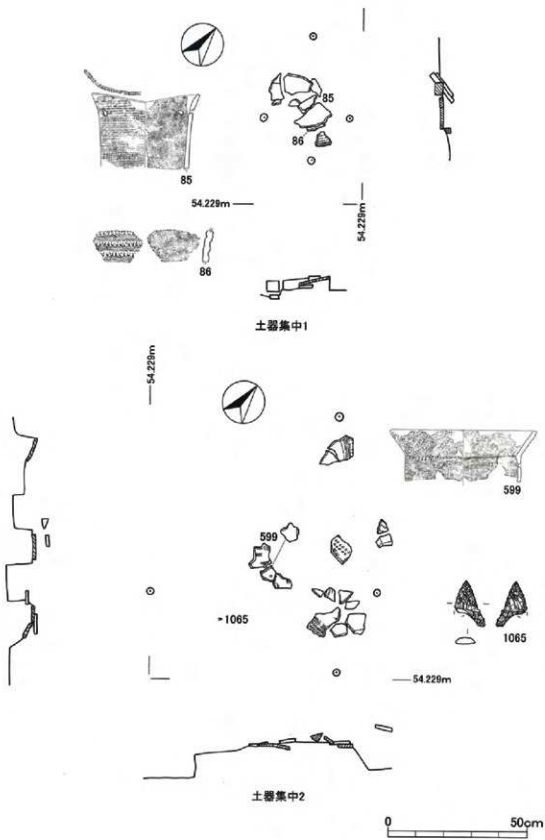


2号配石

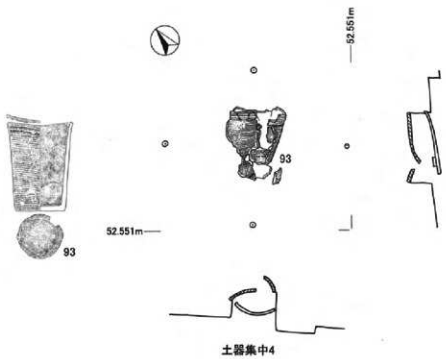
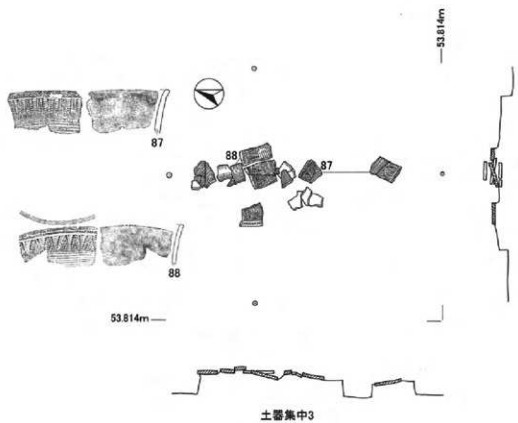
第25図 配石



第26図 集積



第27図 土器集中出土(1)



第28図 土器集中出土(2)

(5) 集積遺構 (第26図)

石器を複数集積した遺構、いわゆるデポ状の遺構がⅠ地点、Ⅱ地点よりそれぞれ1基ずつの合計2基検出された。これは、石斧や磨石を数点集積したもので、いずれも掘り込みは確認できなかった。

磨石集積遺構 (第26図)

検出状況 調査地Ⅱ地点、E-26区で検出された。

規模と形状 砂岩性の拳大の磨石が、2点上下に積み重なった状態で出土し、ごく近くに2点同様の大きさの磨石・敲石類が出土した。下位に掘り込み等は確認できなかった。

石斧集積遺構 (第26図)

検出状況 Ⅰ地点調査地、A-11区で検出された。

規模と形状 磨製石斧4点が積み重なった状態で出土した。磨製石斧の石材は、無班昌質の安山岩や頁岩である。4点のうち1点は基部が破損していた。

(6) 土器集中出土地 (第27図～第28図)

土器片が集中して出土した地点、4件を図化した。全て調査地Ⅱ地点より出土したものである。集中出土地内の土器片は1個体のものが破損しているものが多く、取り上げ後接合し復元可能なものがみられた。

(7) 石器製作跡 (第43図～第44図)

石器製作跡としたのは、頁岩及び黒曜石等のチップ・フレイク類が集中して出土した部分の事である。調査地Ⅰ地点で1か所、Ⅱ地点で1か所、計2か所の石器製作跡が確認された。

石器製作跡1 (第43図)

検出状況 調査地Ⅰ地点、B-2区

規模と形状 5m×5mの範囲内に総数401点のチップ・フレイク類が集中して出土した。姫島産黒曜石の剥片が大部分を占める。石鏃破損品や石鏃未成品などの石器類が10点出土している。

石材割合 姫島産黒曜石・・・396点

頁岩・・・・・・・・・・5点

石器製作跡2 (第44図)

検出状況 調査地I地点, D・E-19・20区

形状と規模 10m×10mの範囲の中に、総数597点のチップ・フレイク類が集中して出土した。頁岩や黒曜石製の剥片類が主である。石鏃・石鏃破損品・石鏃未成品など石鏃に関する遺物が14点出土している。

石材割合 頁岩・・・・・・・・・・373点
矩島産黒曜石・・・・115点
黒曜石・・・・・・・・・・108点(上牛鼻産他)
チャート・・・・・・・・・・1点

第4節 遺物

遺物は土器片・石器類が出土した。出土した層は全てアカホヤ火山灰層下位の、第Ⅲ層及び第Ⅳ層上面である。時期区分では縄文時代早期に該当するものである。

(1) 土器

土器は縄文時代早期該当層である第Ⅲ層・第Ⅳ層からの出土である。総数約14,000点出土した。これらを諸特徴から大きく第1類～第11類に分類した。分類は文様のあり方及び器形を総合的に判断して行った。

①第1類土器 (第48図～第52図, No.94～No.125)

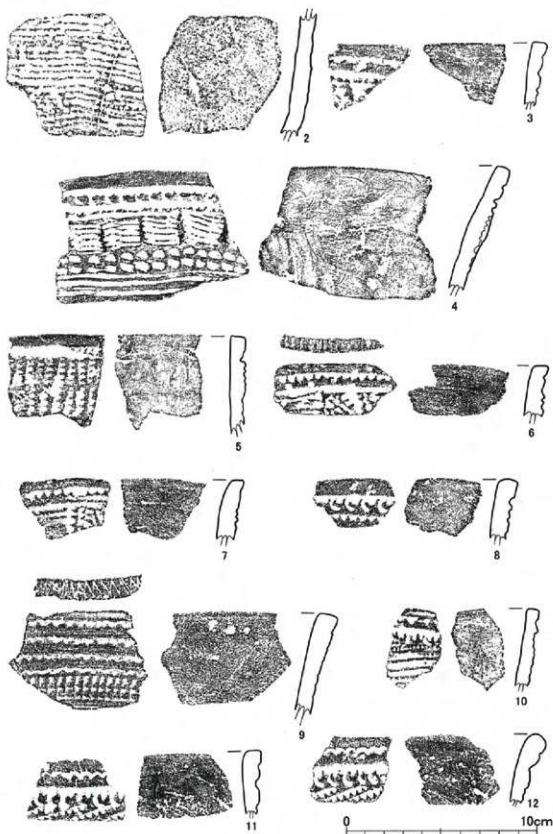
器形は、口縁部が緩やかに外反する円筒形を呈する。文様は、口唇部に連続した浅いキザミを施すものもあり、口縁部下に貝殻腹縁部により横位の刺突文を1段～2段めぐらす。その下に縦位のクサビ形の貼付文をめぐらす。また、貝殻腹縁部による押印文をクサビ形貼付文を意識して、クサビ形貼付文を表現したと考えられる縦位の貝殻刺突文を施すものなどもある。この類の最大の特徴はこのクサビ形の貼付文であり、細分化するとクサビ形の貼付文を有するものと、クサビ形の貼付文を意識して施文しているものの一群である。胴部には貝殻腹縁部による押印文が施されるが、押印文と貝殻刺突文を交互に施すなど横溝のアクセントを付けているものもある。内面は丁寧なナデ整形がみられる。

②第2類土器 (第52図～第66図, No.126～No.265)

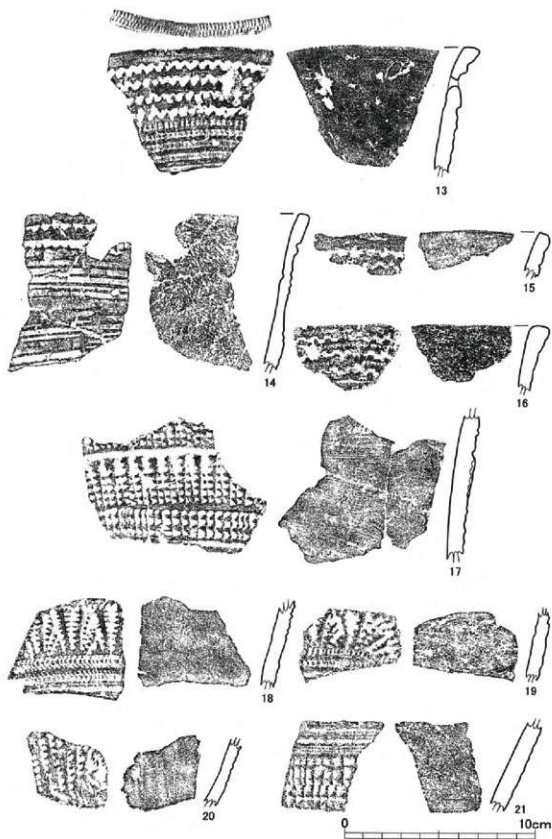
器形は、口縁部が緩やかに外反する円筒形を呈する。文様は、口縁部下位にクサビ形貼付文が崩れたと考えられる縦位の貝殻刺突文がV字状に施文されるが、密接なものと間延びしているもの両者が見られる。この文様は1段のものもあるが、多くは2段～3段で、まれに4段施されているものもある。胴部の文様帯は貝殻腹縁部を利用した押印文が施されている。この押印文は横位に施されているが、押印文自体に強弱をつけたり、あるいは貝殻刺突文と組み合わせた施文を行っているものがある。内面には丁寧なナデ整形がみられる。



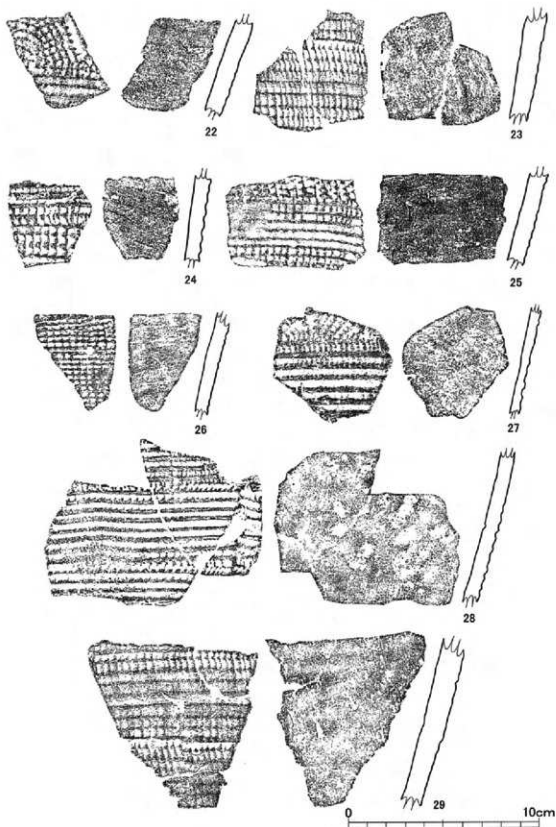
第29圖 遺構内出土土器(1)



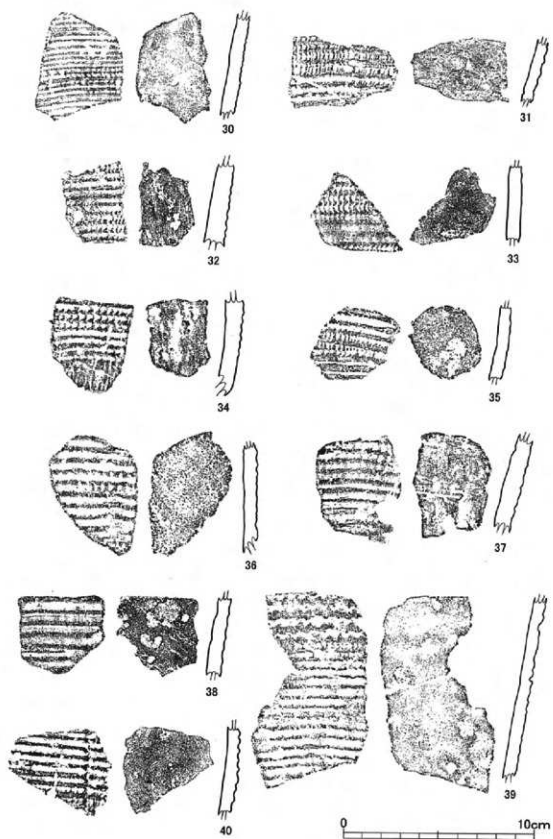
第30圖 遺構内出土土器(2)



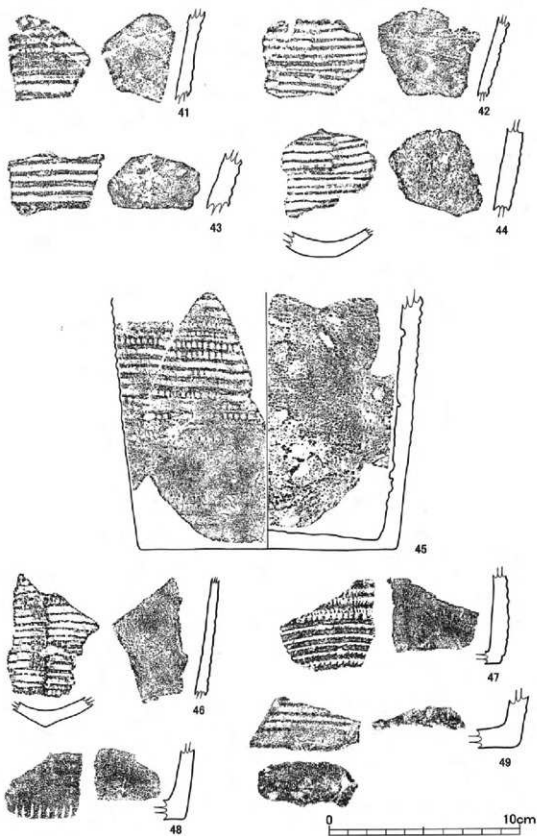
第31図 遺構内出土土器(3)



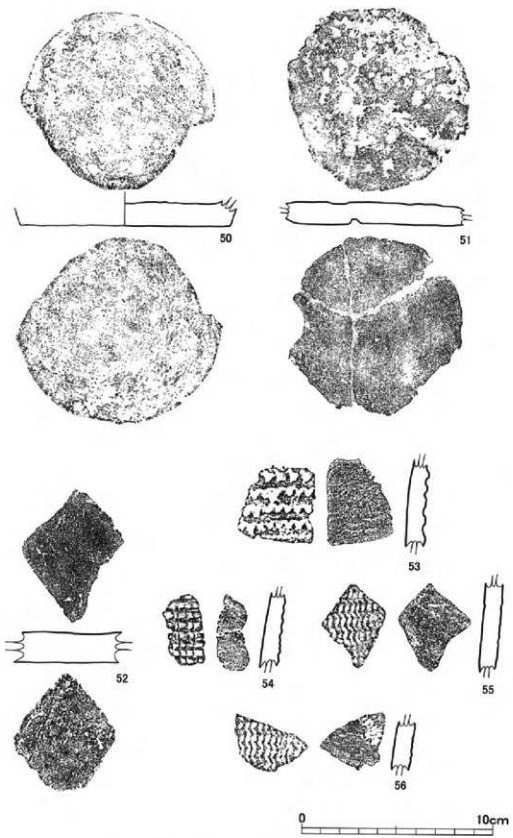
第32図 遺構内出土土器(4)



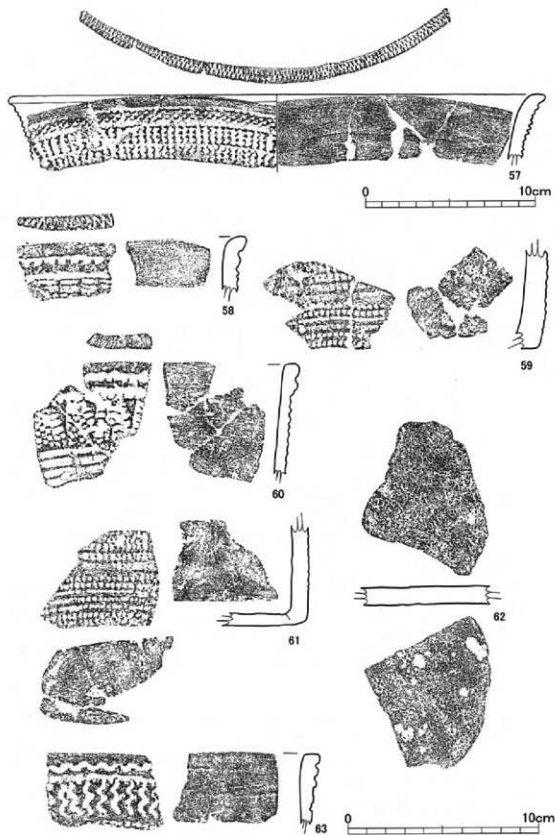
第33図 遺構内出土土器(5)



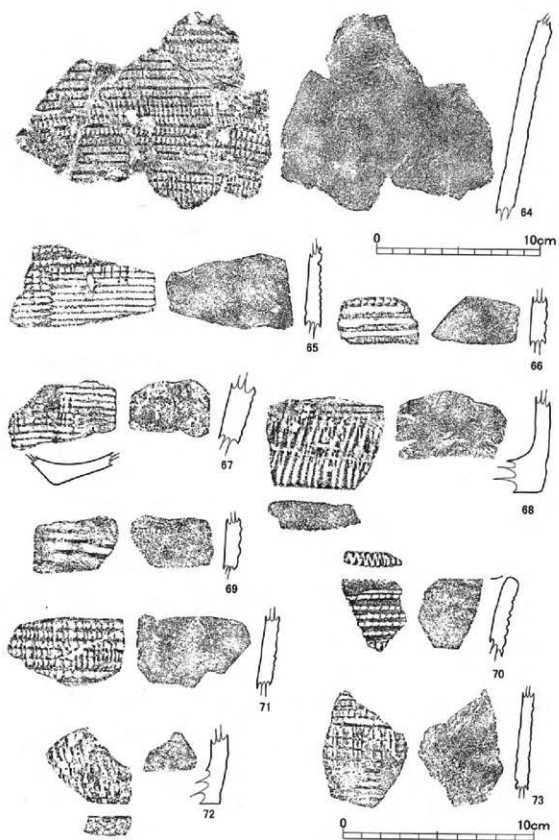
第34圖 遺構内出土土器(6)



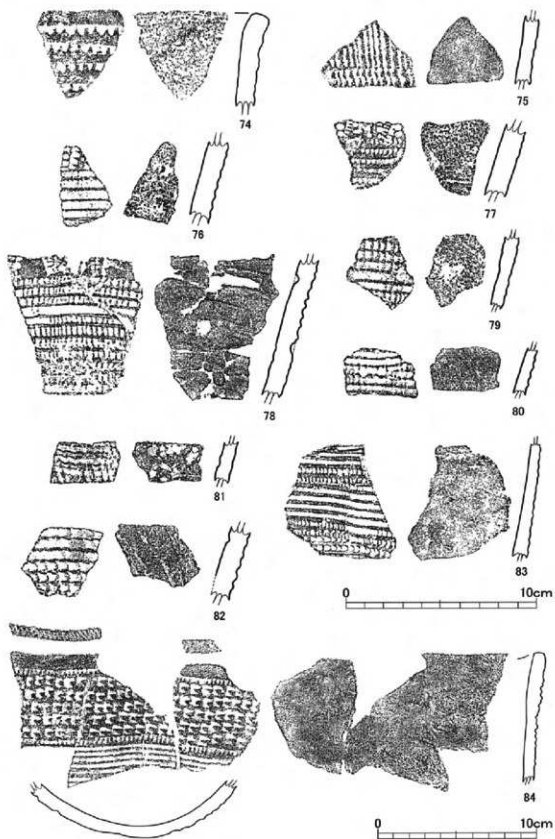
第35図 遺構内出土土器(7)



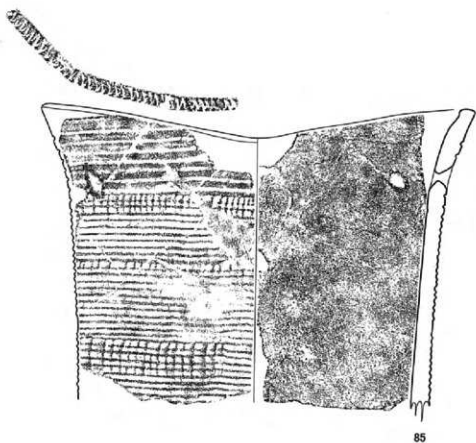
第36圖 遺構内出土土器(8)



第37图 遺構内出土土器(9)



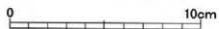
第38圖 遺構内出土土器(10)



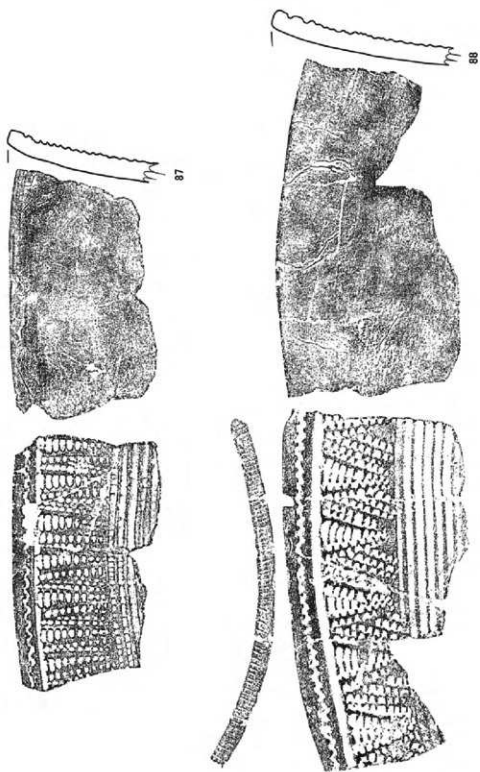
85



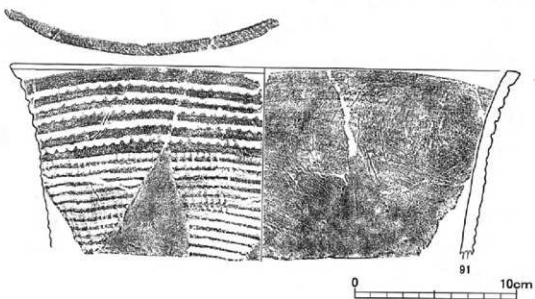
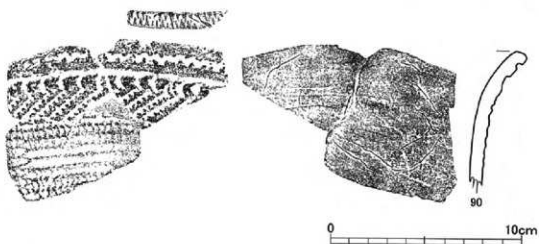
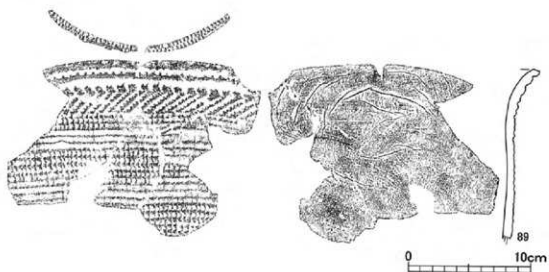
86



第39圖 遺構内出土土器(11)



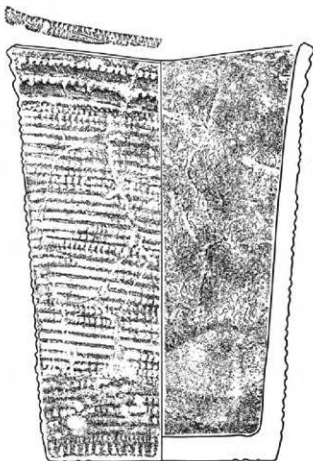
第40圖 遺構内出土器(12)



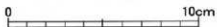
第41圖 遺構内出土土器(13)



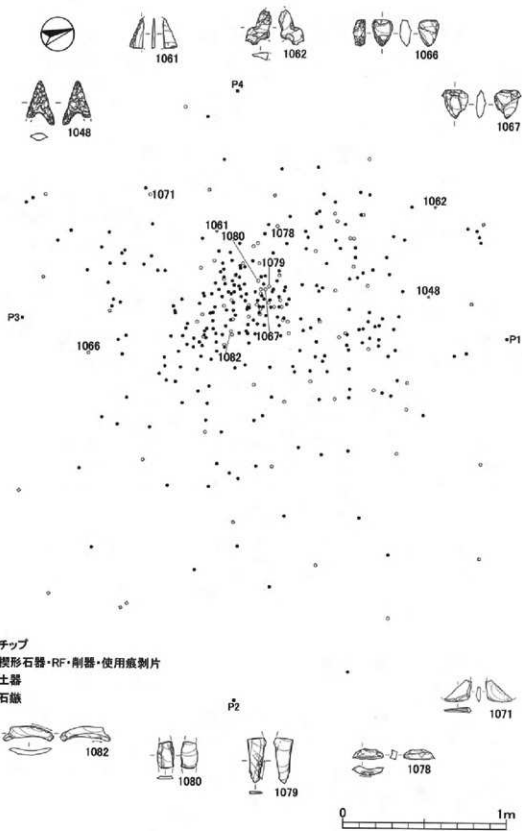
92



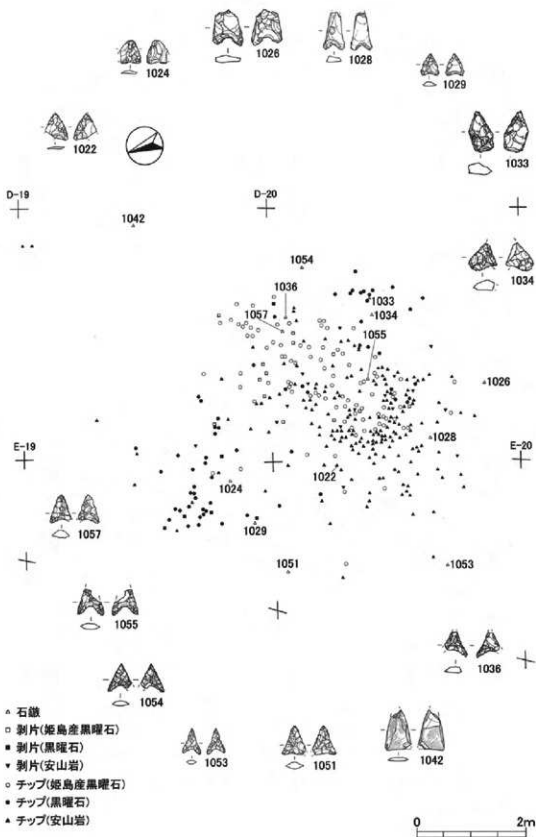
93



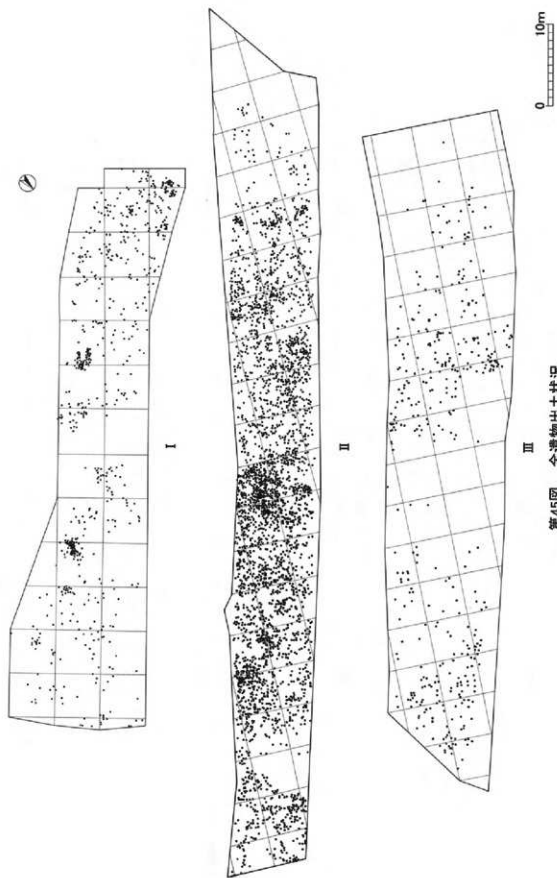
第42圖 遺構内出土土器(14)



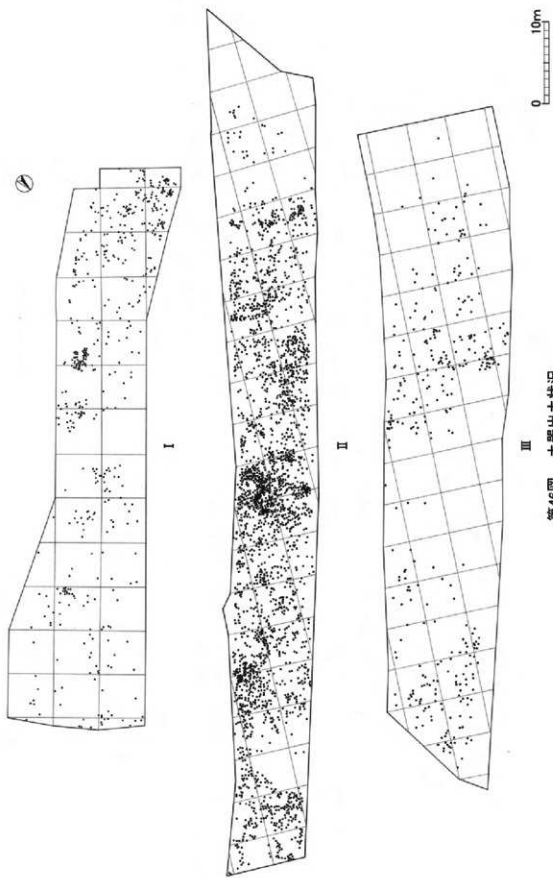
第43図 石器製作跡I



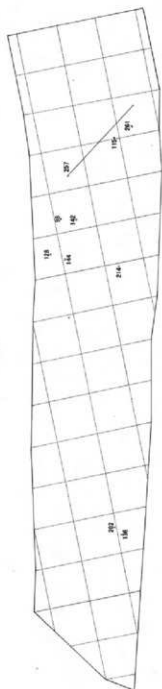
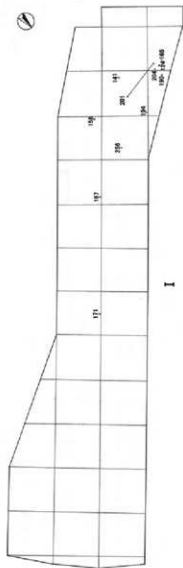
第44図 石器製作跡2



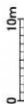
第45図 全遺物出土状況



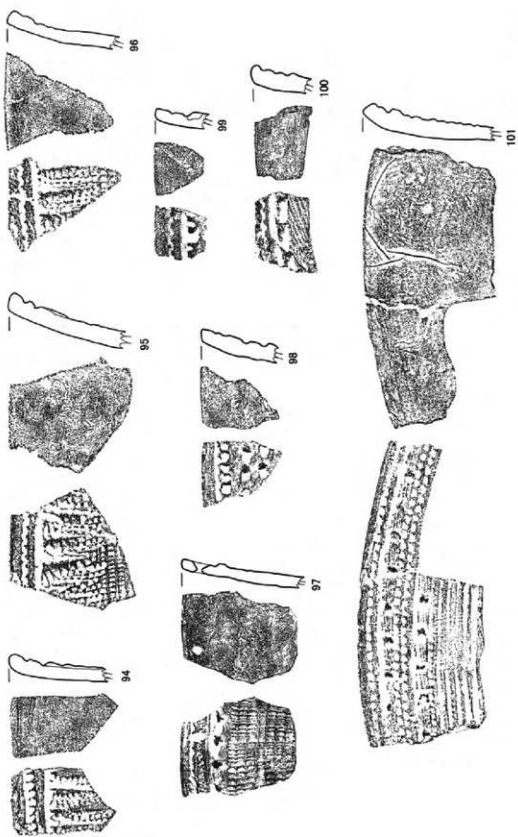
第46图 土器出土状況



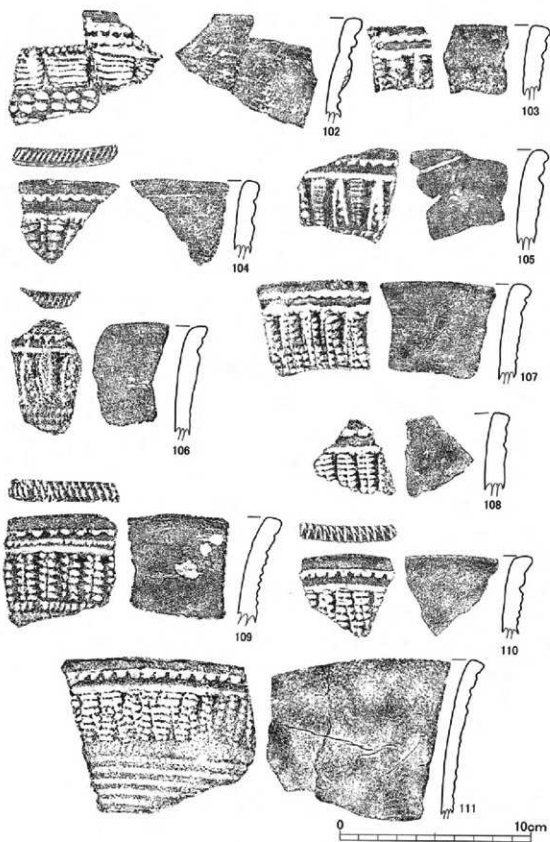
- 第1類
- 第2類a
- ▲ 第2類b



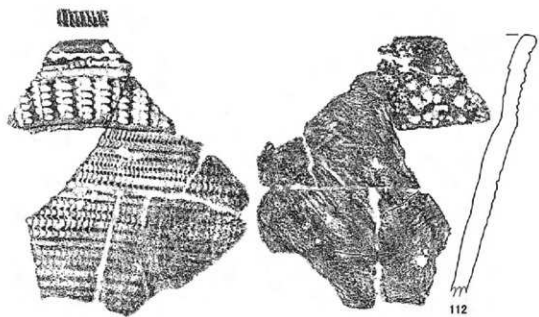
第47図 第1類・第2類土器出土状況



第48圖 出土土器(1)

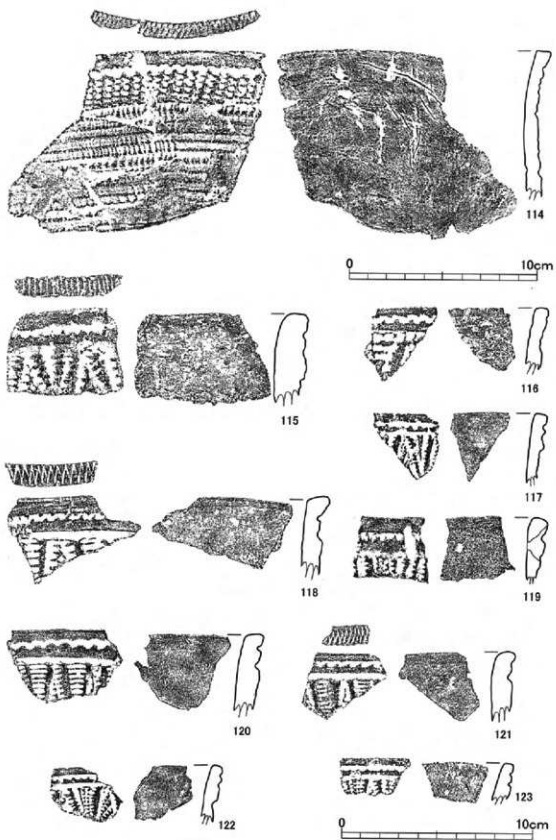


第49圖 出土土器(2)

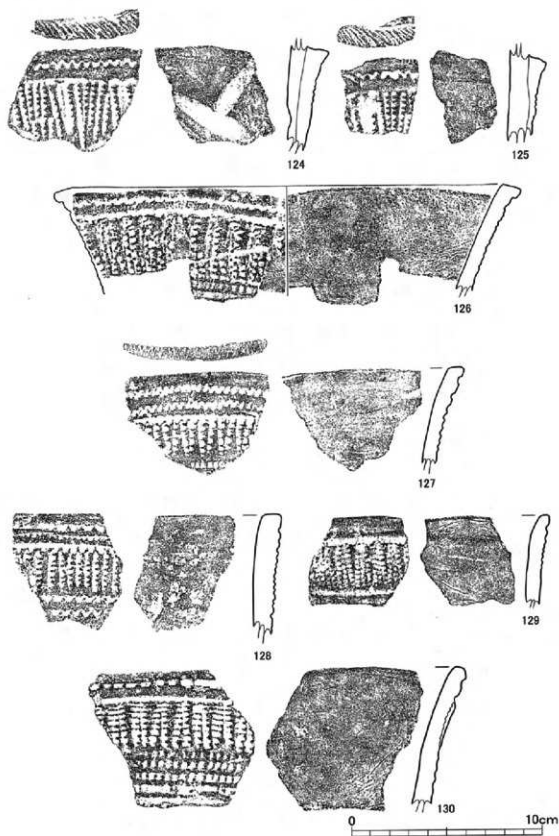


0 10cm

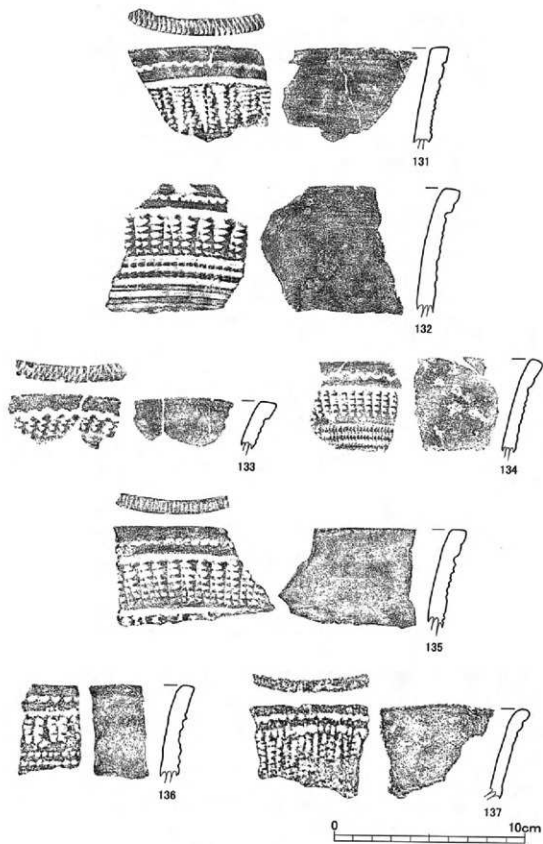
第50圖 出土土器(3)



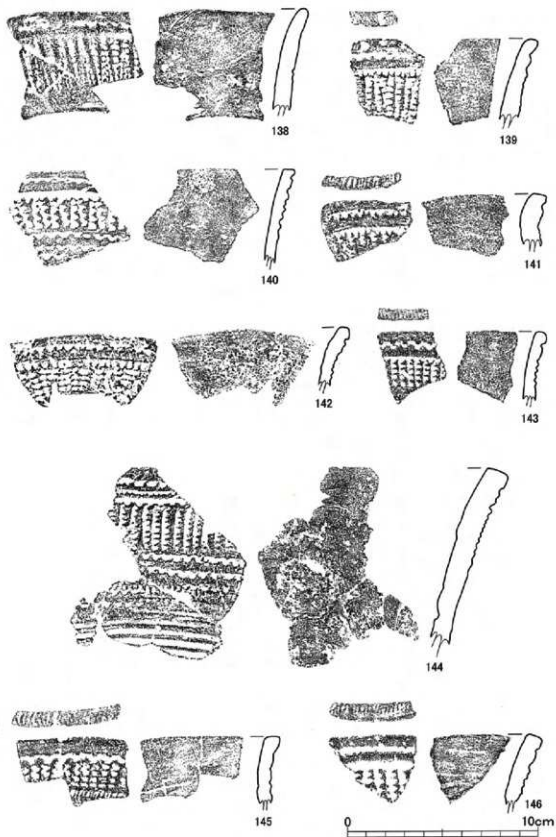
第51图 出土土器(4)



第52图 出土土器(5)



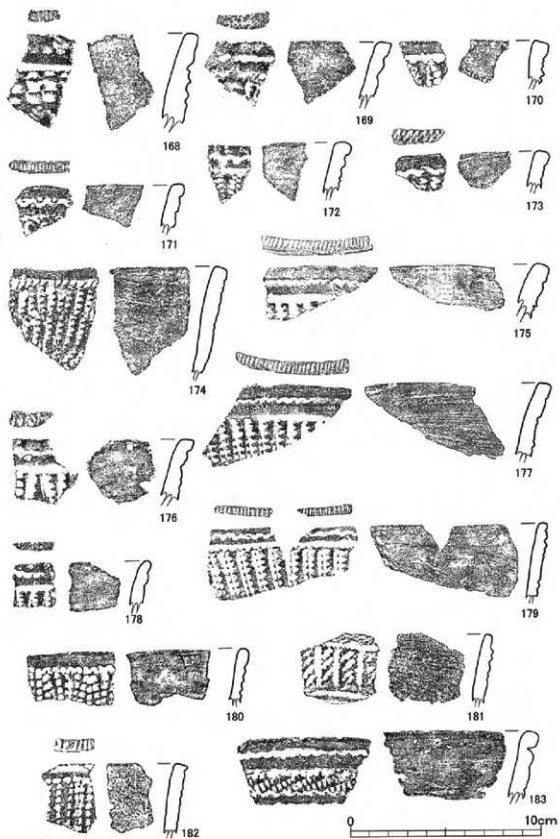
第53圖 出土土器(6)



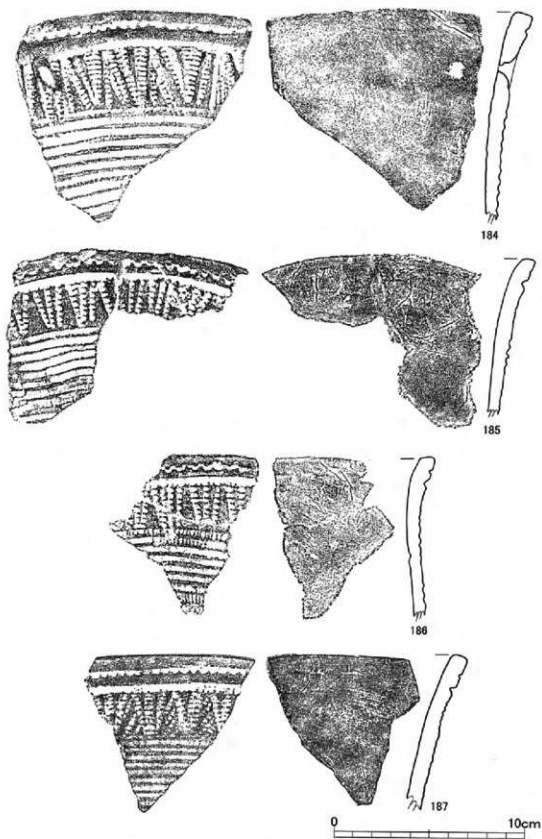
第54圖 出土土器(7)



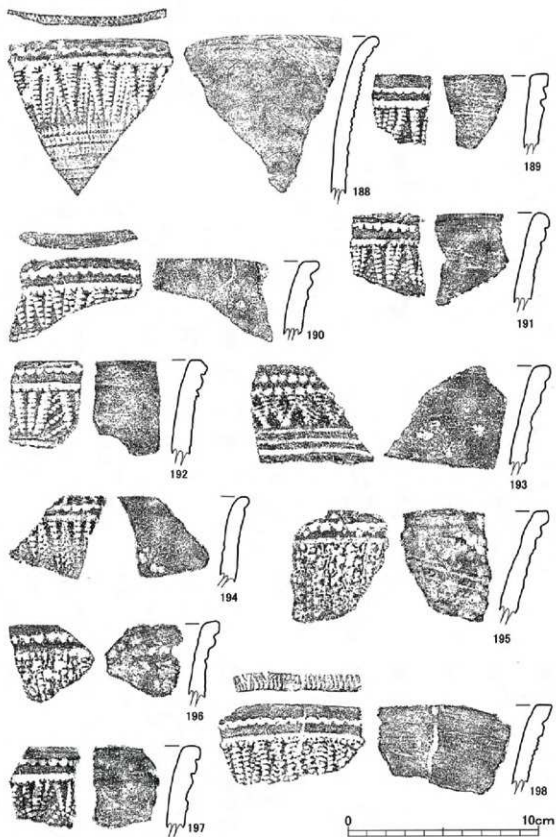
第55圖 出土土器(8)



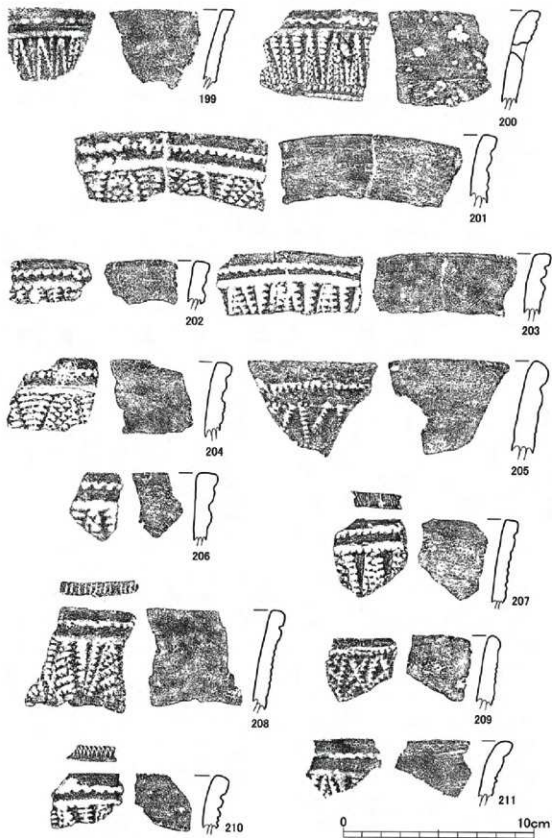
第56圖 出土土器(9)



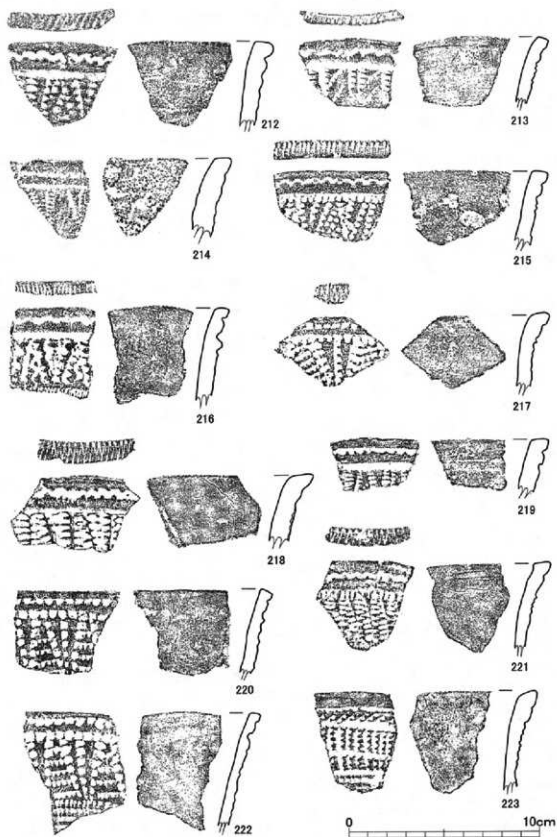
第57図 出土土器(10)



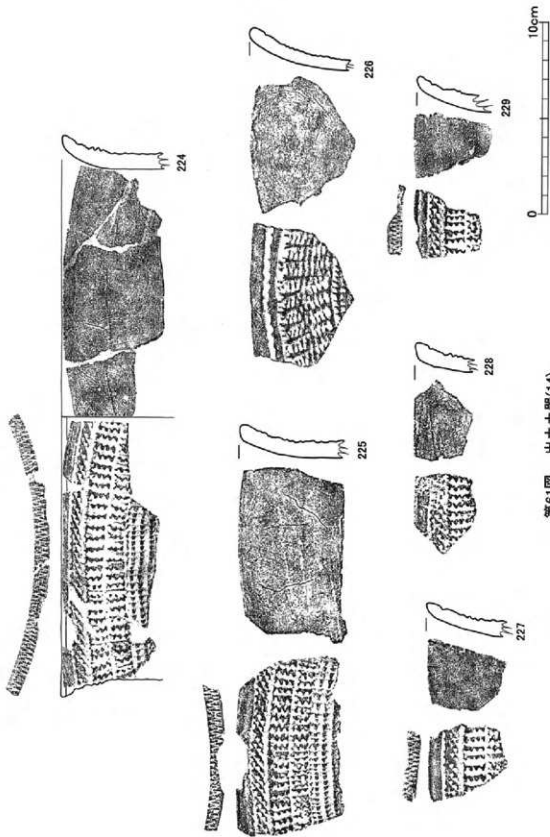
第58図 出土土器(11)



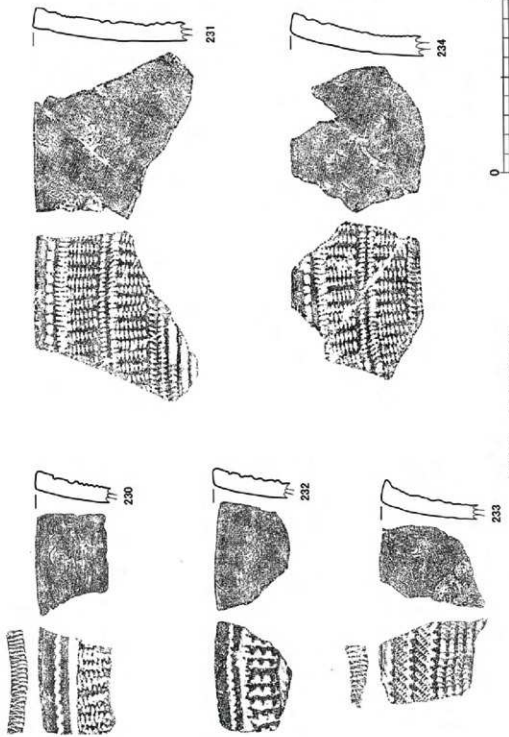
第59図 出土土器(12)



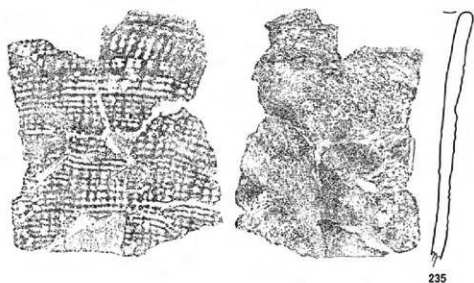
第60图 出土土器(13)



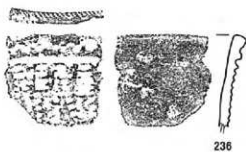
第61圖 出土器(14)



第62図 出土土器(15)



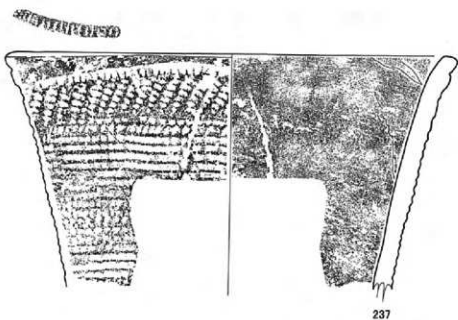
235



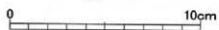
236



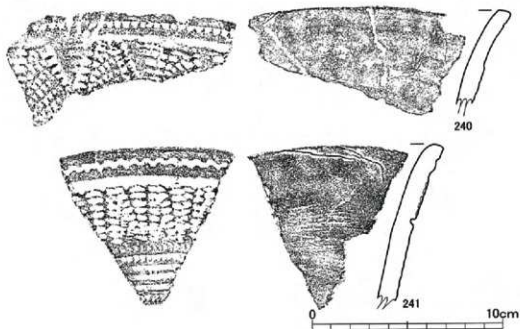
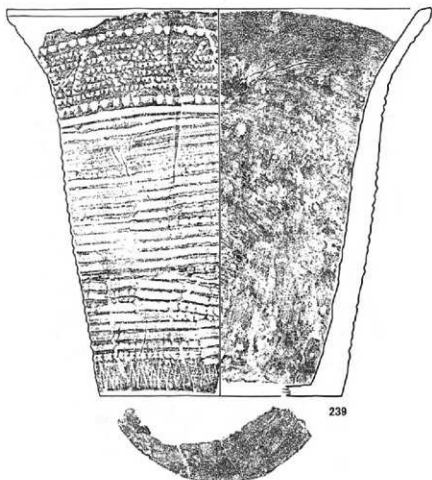
238



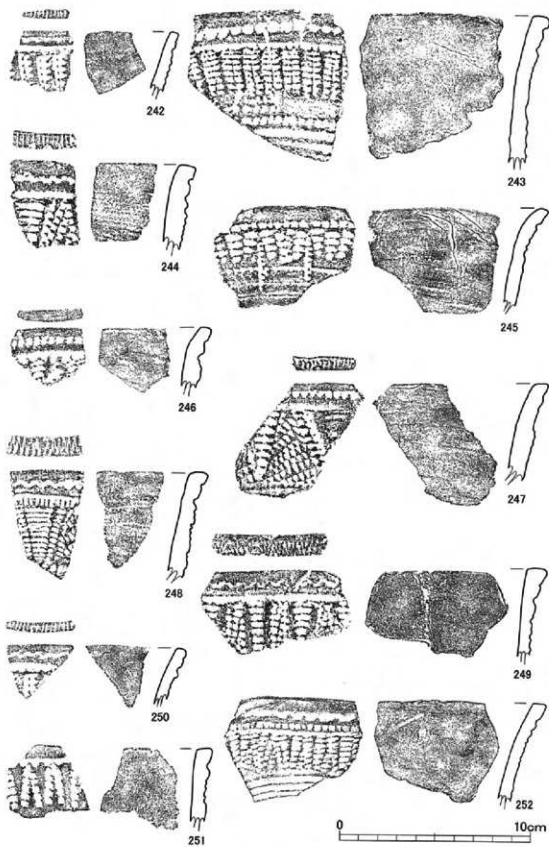
237



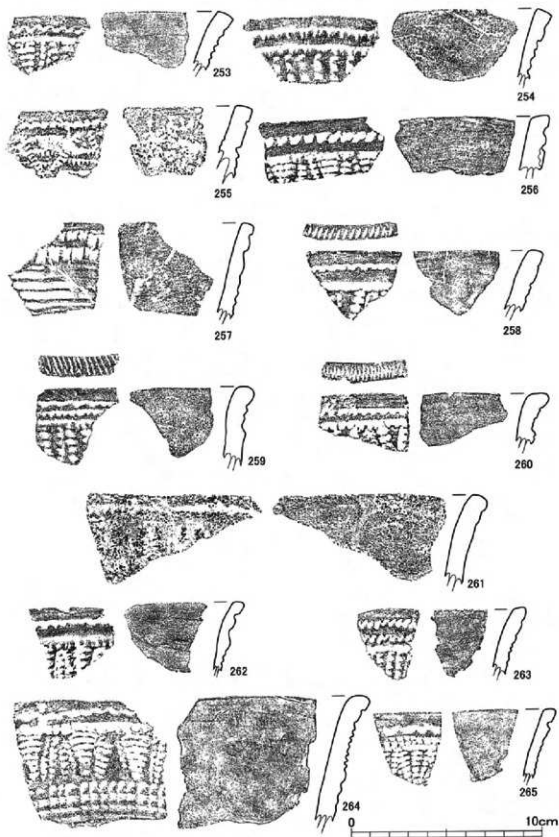
第63圖 出土土器(16)



第64圖 出土土器(17)



第65図 出土土器(18)



第66图 出土土器(19)

③第3類土器 (第68図～第77図, No.266～No.313)

器形は、口縁部が緩やかに外反する円筒形を呈する。文様は、口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を1～3段めぐらし、その下位に大きな特徴である半載竹管状工具による「C」あるいは逆「C」字形の刺突文を2～5段めぐらす。胴部は貝殻腹縁部による横位の押し文や貝殻条痕文を施すものである。「C」状の施文は基本的にクサビ形貼付文の流れを系譜するものであると考えられる。また一部「C」状が崩れ、「爪形」状に施文が施されているものもある。大きな特徴として、「C」状の施文は、「C」状のみのものと、「C」状+斜位の貝殻腹縁刺突文を組み合わせて施されているものがある。内面には丁寧なナデ整形が見られる。

④第4類土器 (第79図～第99図, No.314～No.463)

器形は、口縁部が緩やかに外反する円筒土器を呈する。文様は、口唇部に連続したキザミを施す。キザミは密なものやや幅広のものも見られる。口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を1～4段めぐらす、4段以上の複数段施すものもある。またこの横位の刺突文が斜位に施されているものもある。この斜位の施文は「横位の施文のバリエーションのひとつ」と思われる。貝殻腹縁部による刺突文の形状は連点状・波形状・三角形状あるいは刺突文が浅く明瞭でないもの等がある。胴部は貝殻腹縁部による押し文を横位に施すが、押し文と貝殻条痕文を交互に施したり、条痕文のみのものなどがある。内面は丁寧なナデ整形がみられ、全体的に器壁が薄く精製されていることが特徴である。

⑤第5類土器 (第101図～第117図, No.464～No.522)

器形は、口縁部に稜を持つと思われるものや、角筒形を呈するものや口縁部上面観がレモン形になるものである。口縁部の稜は明瞭なまま底部へ至るものは少なく、多くの資料が胴部上半で稜を失っている。このため胴部片を類別することは困難であった。なお、角部が4つないし、2つのものがある。文様は、第2類～4類と同様であり、5類abcdeと細分した。内面には丁寧なナデ整形が見られる。文様は、クサビ形貼付文を強く意識した施文を有するもの(a類, No.465)と、会殻刺突文を縦位ないし斜位に施すことでその間の無文部がクサビ形貼付文に見えるもの(b類No.464, No.466～470)、半載竹管状工具によるCあるいは逆C字状もしくは短刺突による施文を有するもの(c類No.471～478)、クサビ形貼付文を意識した刺突文等が見られないもの(d類No.479～518)、口縁部に貝殻刺突文を縦位に刺突しロッキング状施文を有するものなどa～d類に分類出来なかったもの(e類No.519～522)に細分出来る。この中でも、d類とした一群の中には口縁部に斜位の貝殻刺突文を施し、その下に横位の貝殻刺突文をめぐらせるものも見られる(No.492, 495, No.497～499)

⑥第6類土器 (第119図～第121図, No.523～No.530)

器形は、口縁部が緩やかに外反あるいは直行し、バケツ状を呈するものである。口唇部はやや内湾気味のものもある。底部は平底である。文様は、口唇部は無文である。器面全体に貝殻腹縁部による横位または縦位の刺突文を施す。先端の鋭利な工具による沈線も施すものもみら

れる。内面はナデ整形がみられる。他の類と比べ器壁が厚いのが、特徴である。

㊦第7類土器 (第123図～第128図, No.531～No.596)

器形は、口縁部が大きく外反し、頸部でくびれ、胴部下位が屈曲しながら次第にすぼまっていくものである。文様は、外面に山形押型文や山形に近い押型文を施し、この押型文が細やかで小波状に近いもの、間延びした彫りの浅いものなどがある。押型には幾何学状や同心円文状・玉形状・燃糸状の施文具原体を回転させて、文様を施しているものもある。内面には丁寧なナデ整形がみられ、器壁が薄いのが特徴的である。

㊧第8類土器 (第130図～第135図, No.597～No.616)

器形は口縁部がラッパ状に大きく外反し、胴部は円筒形を呈する。中には口縁部が外反せず、口縁部に向かって若干内湾し、円筒形になるものもある。文様は、外面に斜位や横位の貝殻刺突文・貝殻条痕文、条線・沈線文を施すものである。

㊨円筒胴部片 (第137図～第160図, No.617～No.763)

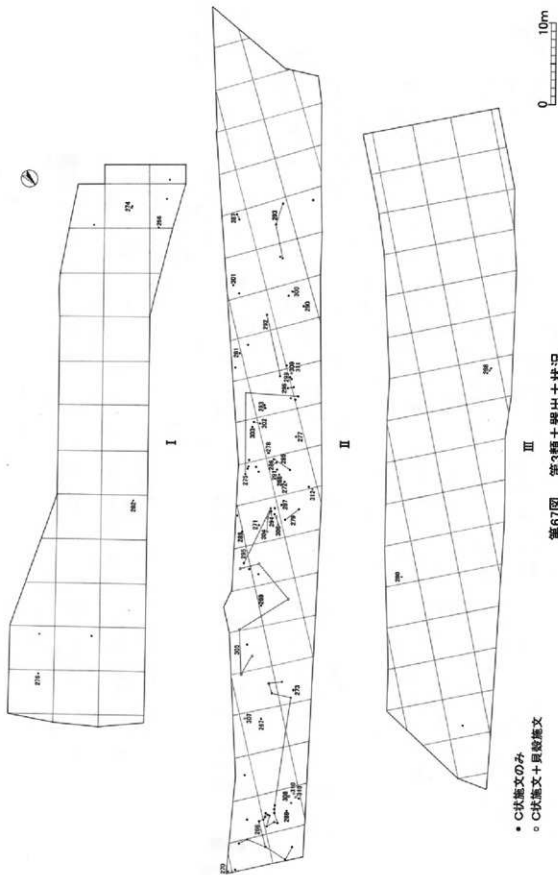
1類土器から4類土器の範疇に入ると思われる胴部片を一括した。1類から4類の胴部は、胴部そのものでは、判別が困難であるため、胴部の施文3パターンごとに掲載している。第1のパターンは胴部に貝殻腹縁部による横位の押引文を施し、貝殻腹縁部による密な連続刺突文の段間に無文部を置くタイプである。第2のパターンは胴部の施文が横位の貝殻腹縁部による押引文を施すが、一部貝殻腹縁部による連続刺突文をもつものである。第3のパターンは貝殻腹縁部による横位の押引文がみられず、横位の貝殻条痕文を施しているものや、無文のものである。

㊩角筒胴部片 (第161図～第164図, No.764～No.797)

5類土器相当の角筒形に近い胴部片である。中には明確な角部をもつものもある。内面は丁寧なナデ整形がみられる。

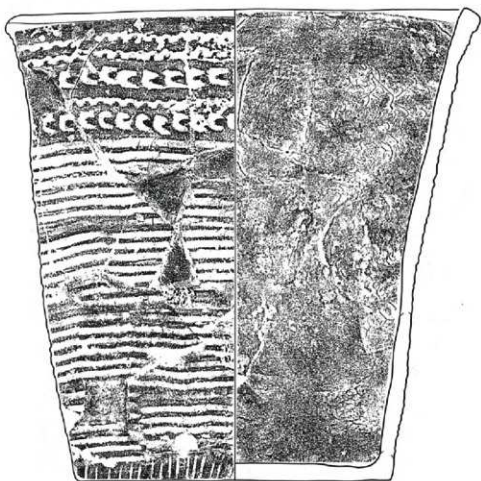
㊪底部片 (第166図～第203図, No.798～No.999)

1類から4類土器相当の底部片を一括した。底部立ち上がりの施文により大きく3つのパターンがみられる。第166図～第175図は底部径および底部から胴部への立ち上がり部分が残存しているものである。第176図～第184図は底部立ち上がりの部分に鋭利なヘラ状の施文具で縦位のキザミを施しているものである。このキザミは数センチに及ぶ長いものや、2重に施しているものもある。第185図～第195図はこの縦位のキザミが貝殻刺突文・押し引き文によって施されているものであり、キザミの名残がみられるものである。第195図～第196図はこの底部立ち上がり部分のキザミが消滅し、横位の貝殻腹縁による条痕文や無文のものなどである。このように底部立ち上がり部分の施文スタイルにより細分が可能である。第197図～第203図は底部である。基本は丸底を呈するが、楕円状になるものもある。また底部に植物繊維状の圧痕を有するものもある。

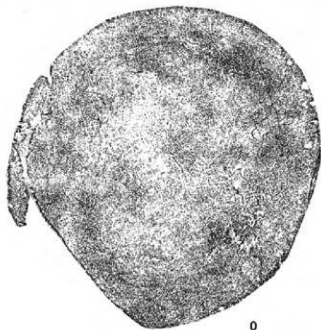


第67図 第3類土器出土状況

● C状蓋文のみ
○ C状蓋文+貝殻施文

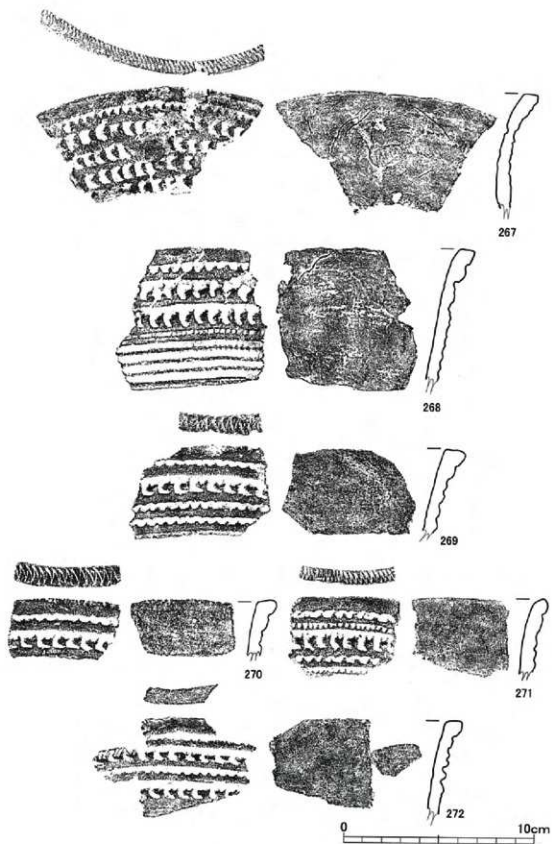


266

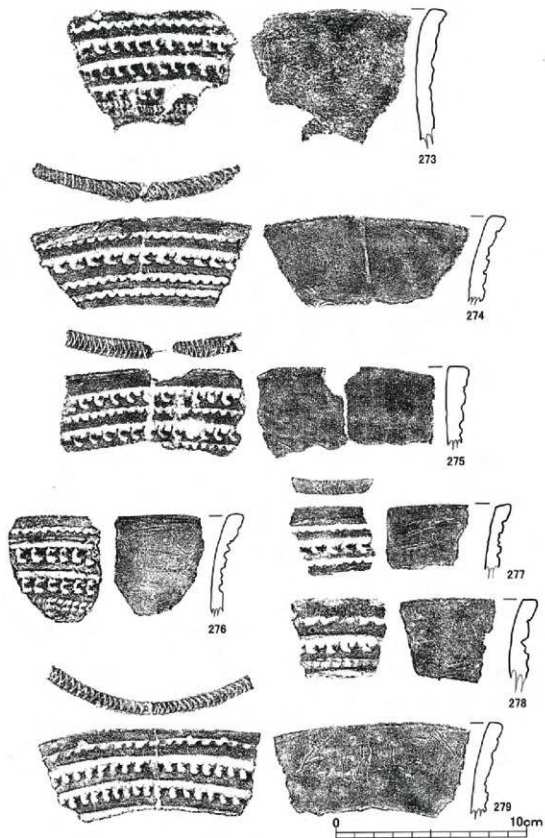


0 10cm

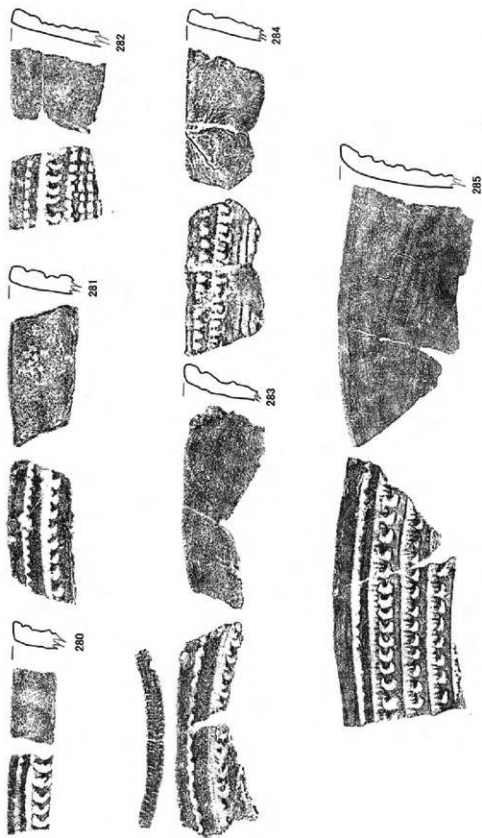
第68图 出土土器(20)



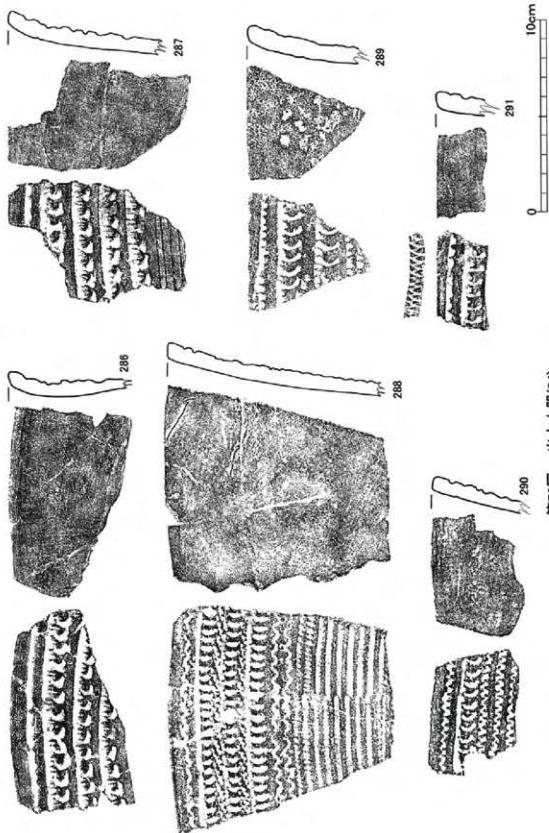
第69図 出土土器(21)



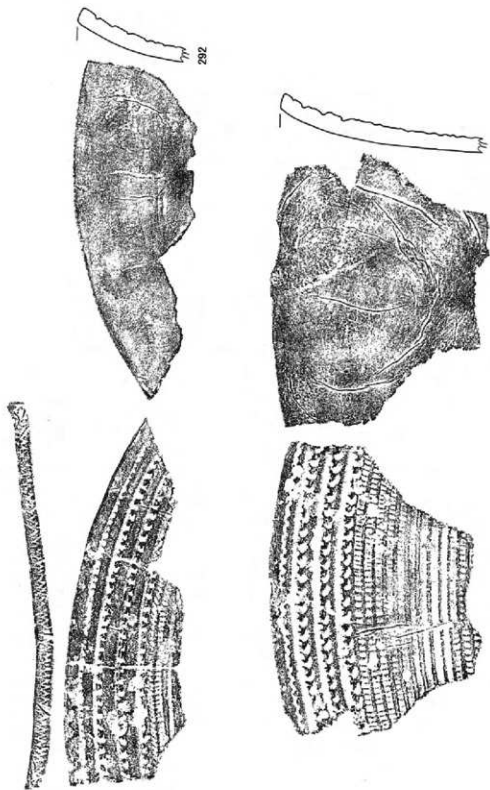
第70圖 出土土器(22)



第71图 出土器(23)



第72圖 出土土器(24)



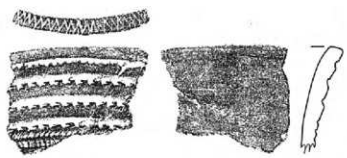
第73圖 出土土器(25)



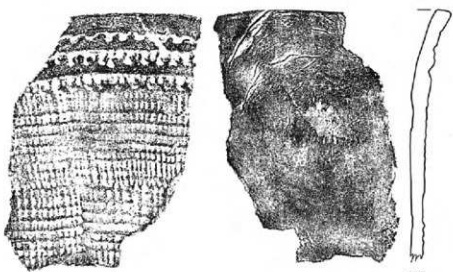
294



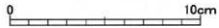
295



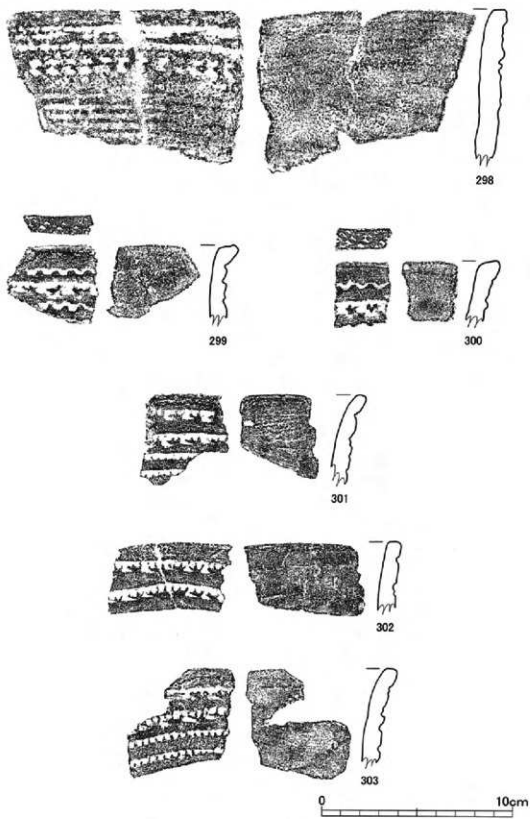
296



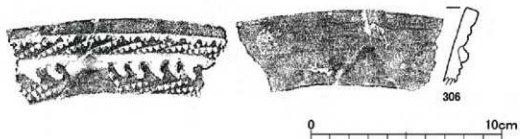
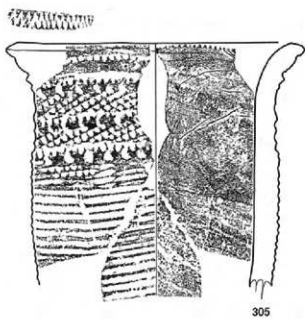
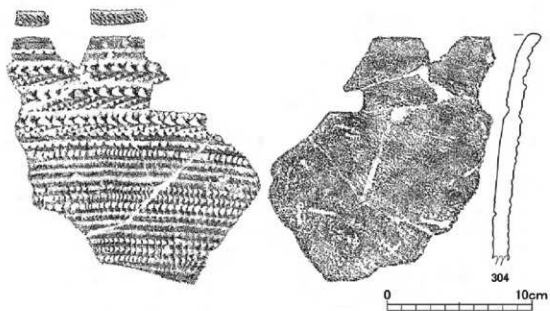
297



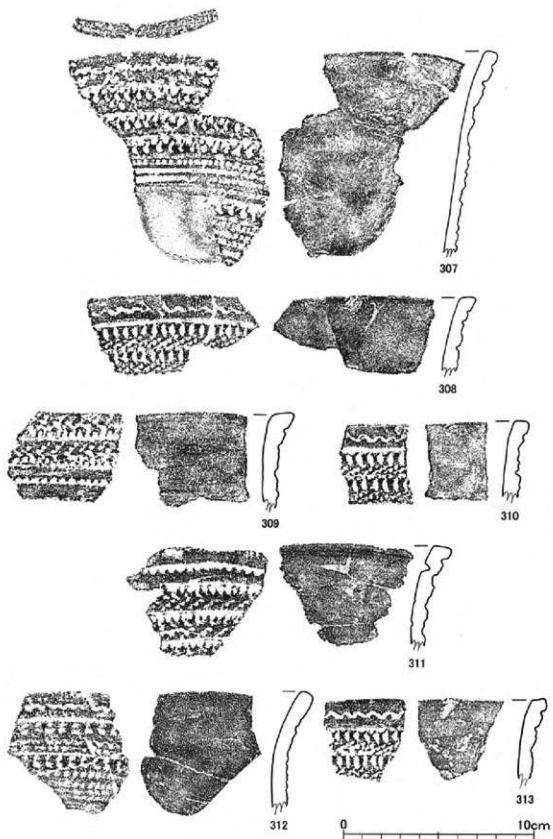
第74圖 出土土器(26)



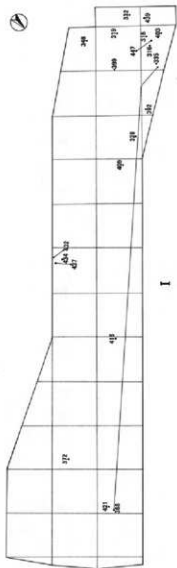
第75圖 出土土器(27)



第76图 出土土器(28)



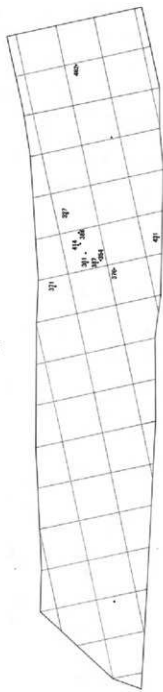
第77图 出土土器(29)



I



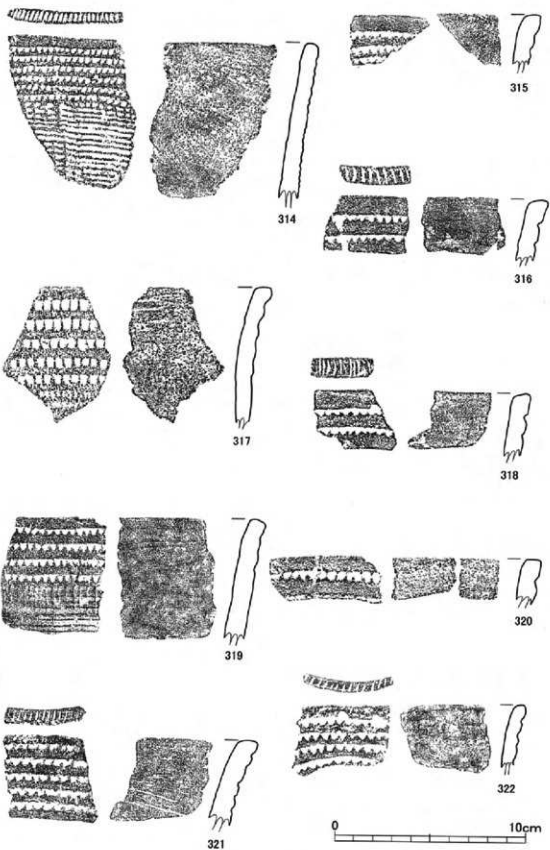
II



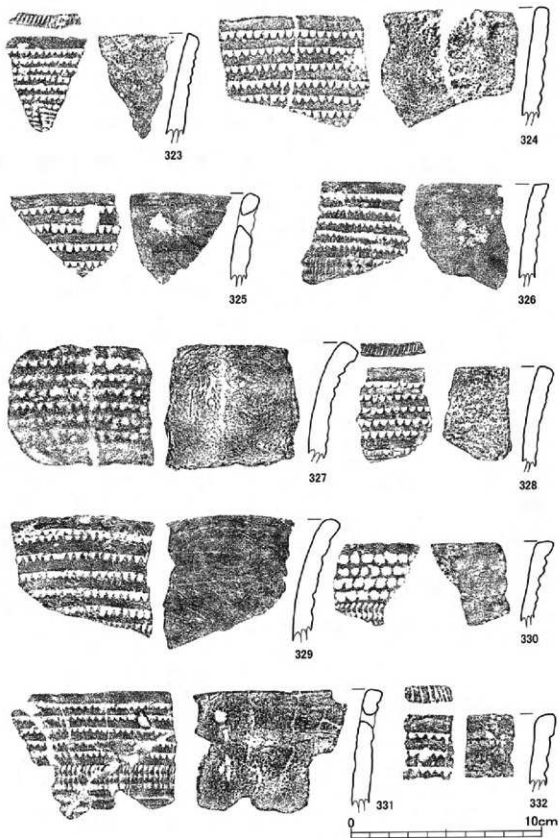
III



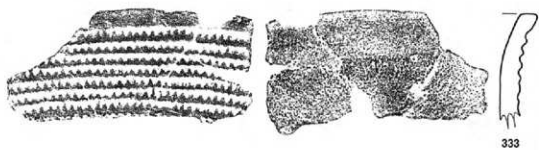
第78图 第4层土器出土状况



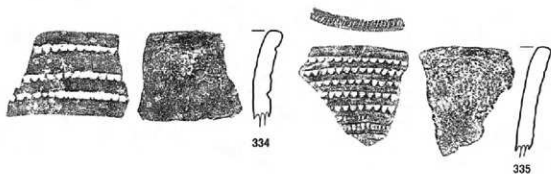
第79圖 出土土器(30)



第80图 出土土器(31)



333



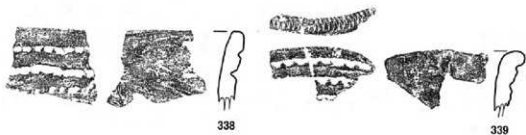
334

335



336

337

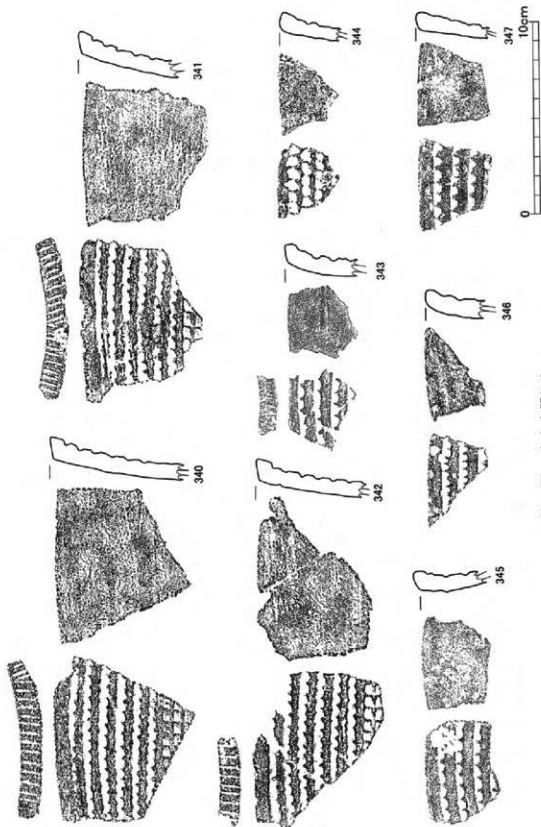


338

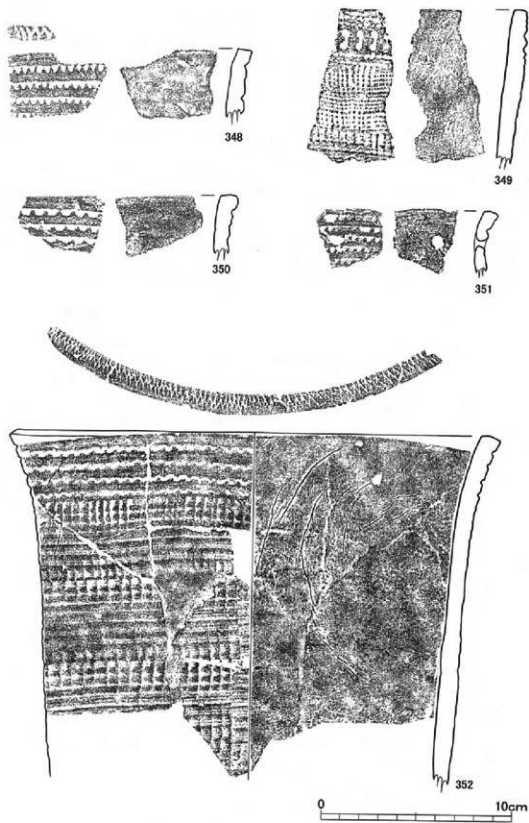
339



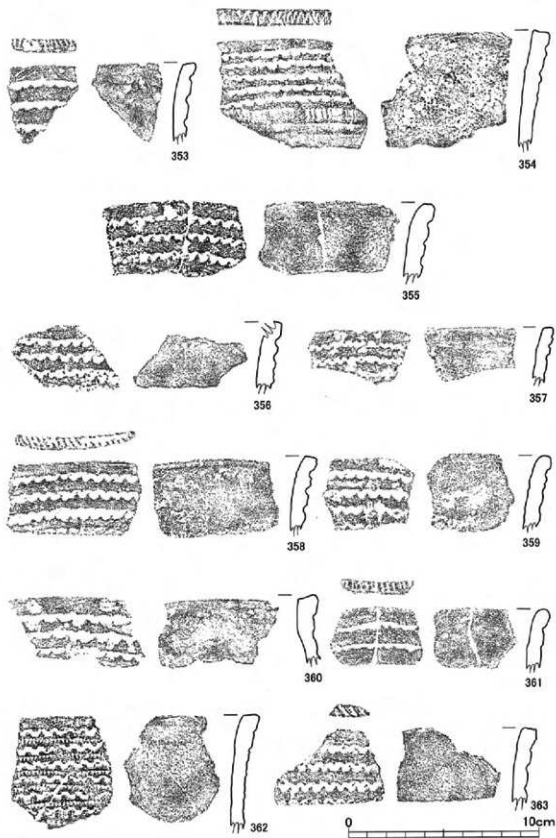
第81図 出土土器(32)



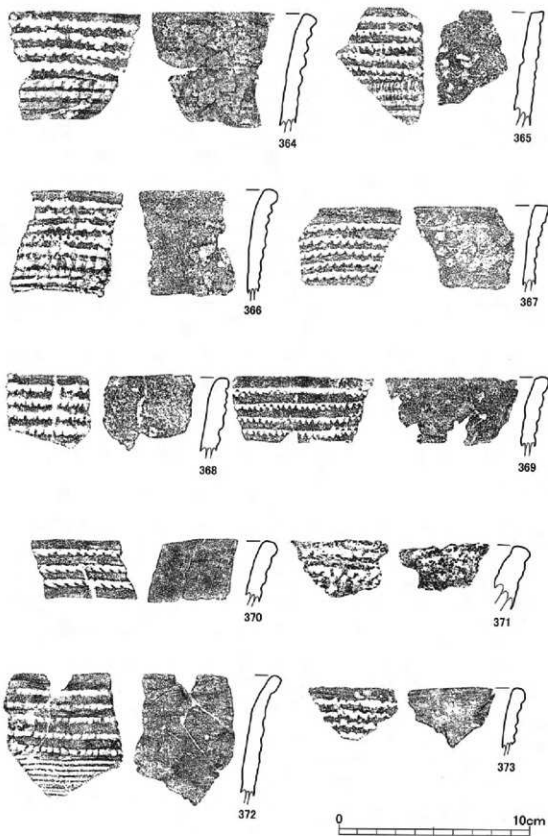
第62圖 出土土器(33)



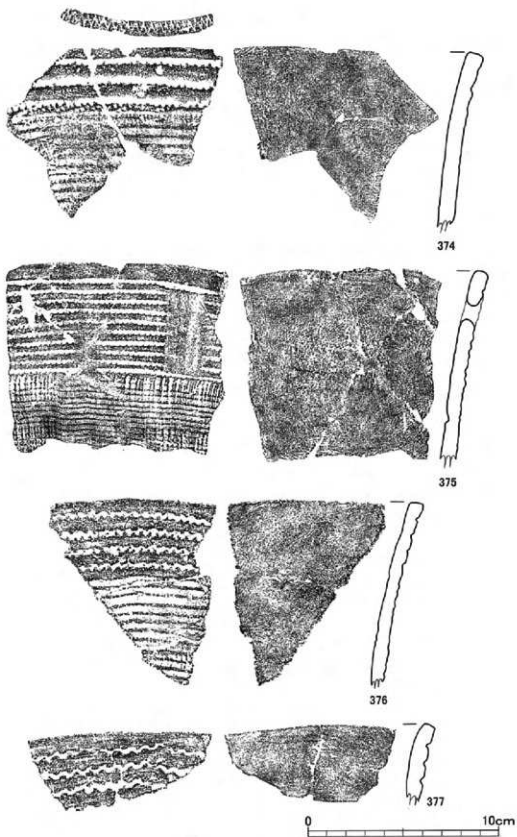
第83图 出土土器(34)



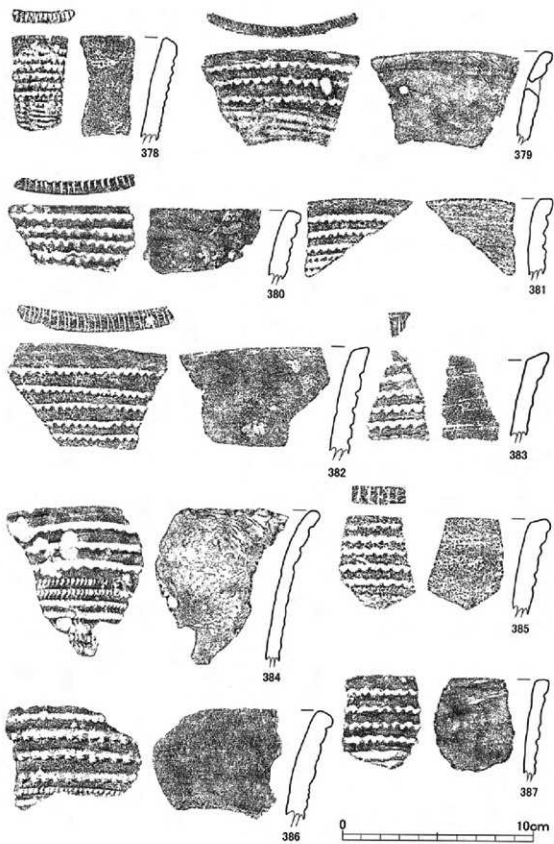
第84图 出土土器(35)



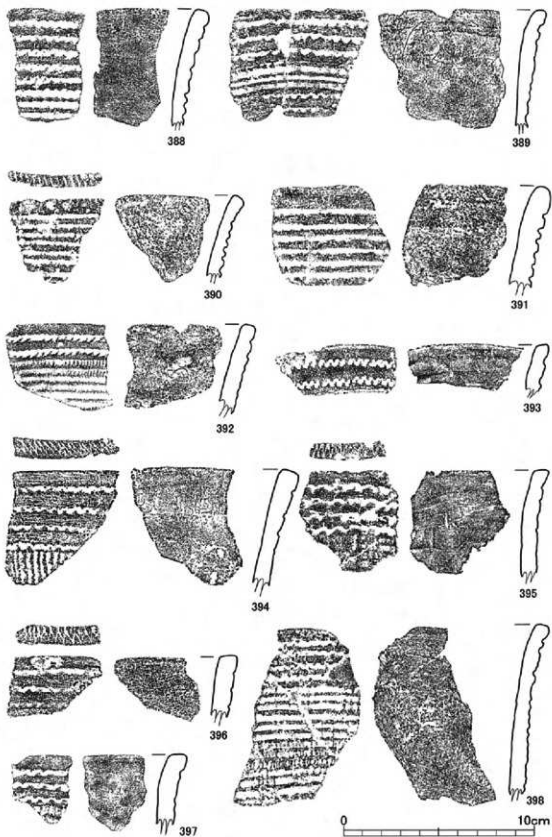
第85图 出土土器(36)



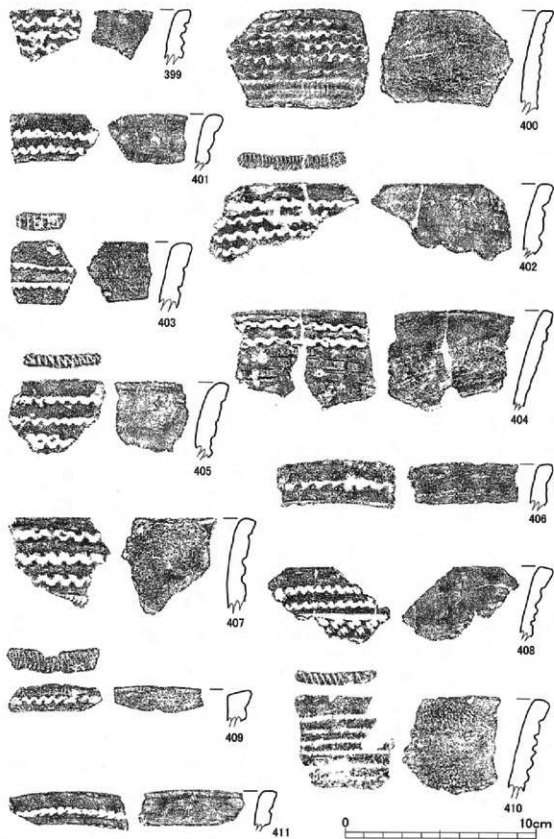
第86圖 出土土器(37)



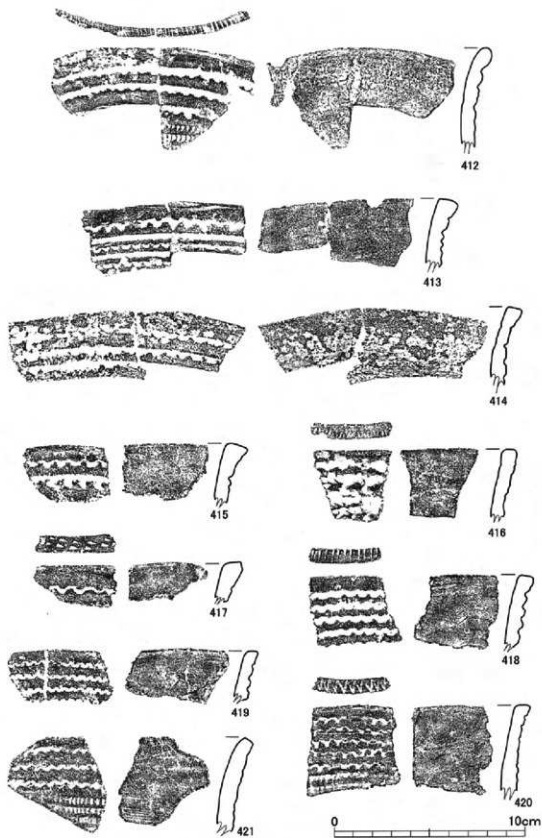
第87圖 出土土器(38)



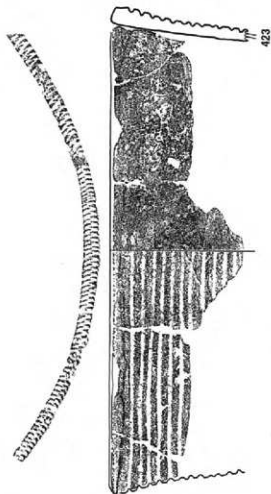
第88圖 出土土器(39)



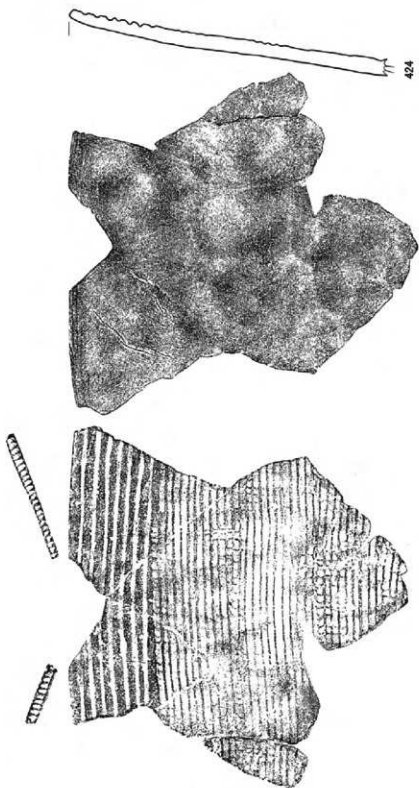
第89圖 出土土器(40)



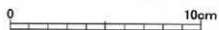
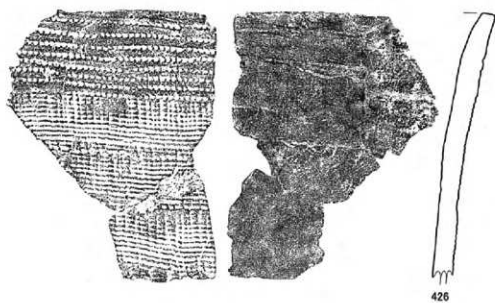
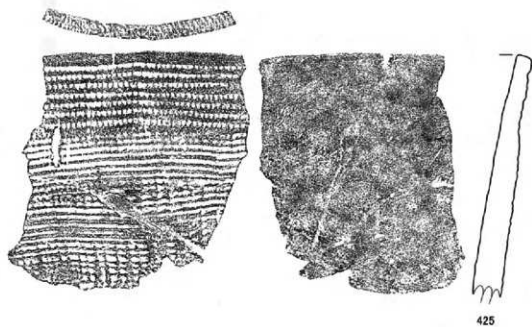
第90图 出土土器(41)



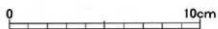
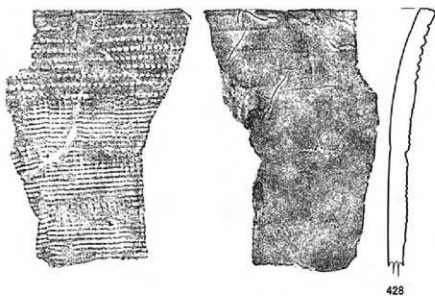
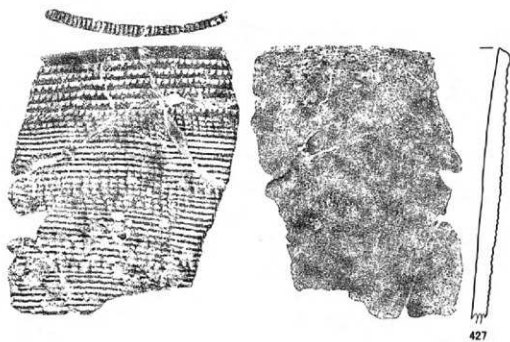
第91圖 出土器(42)



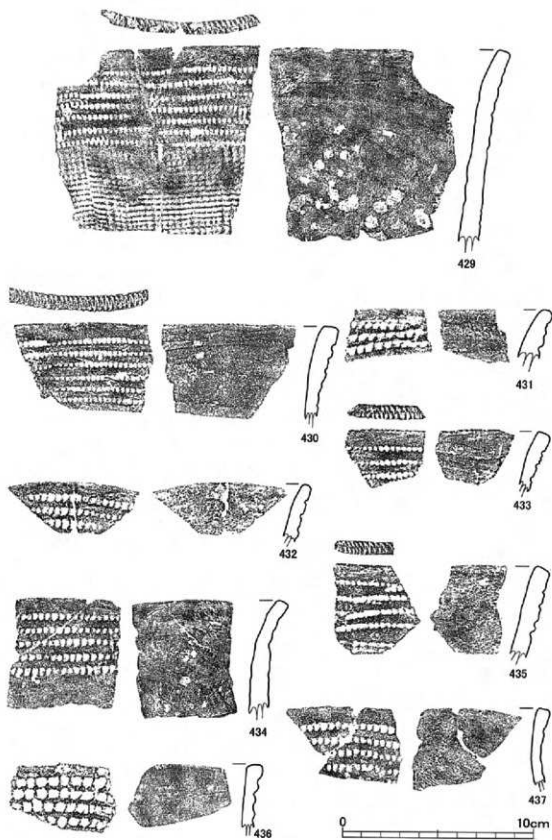
第92圖 出土器(43)



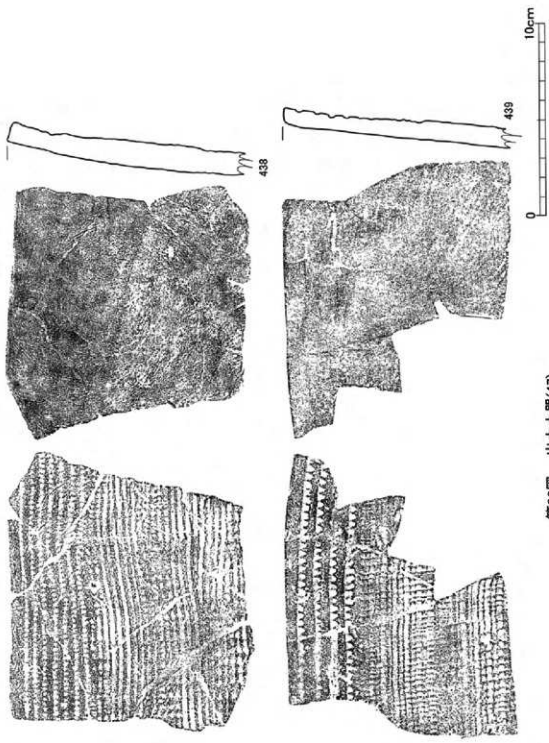
第93圖 出土土器(44)



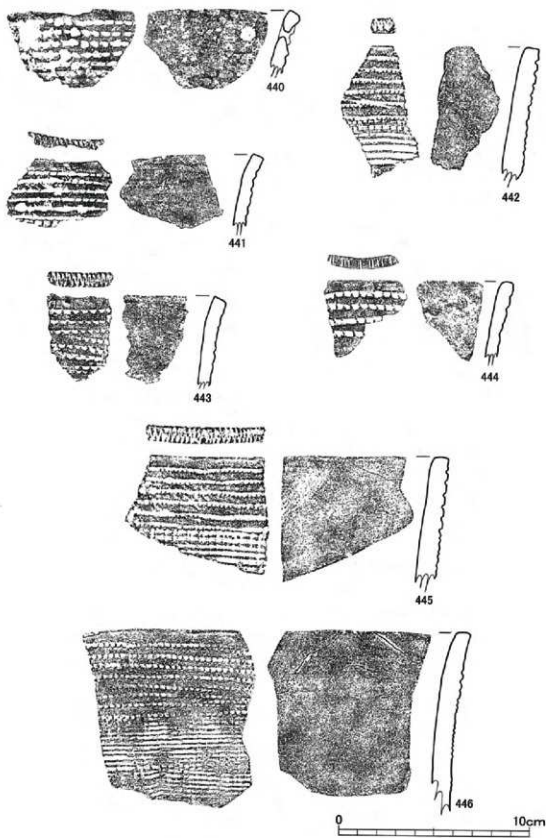
第94图 出土土器(45)



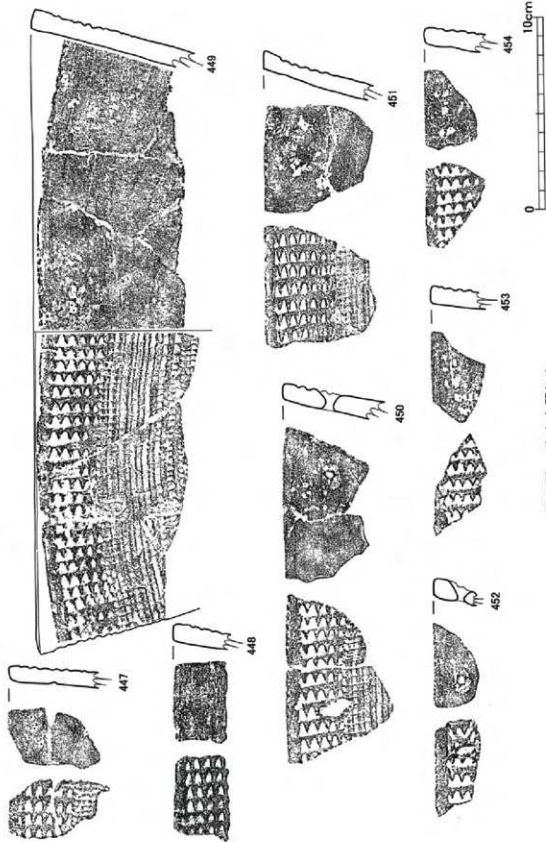
第95圖 出土土器(46)



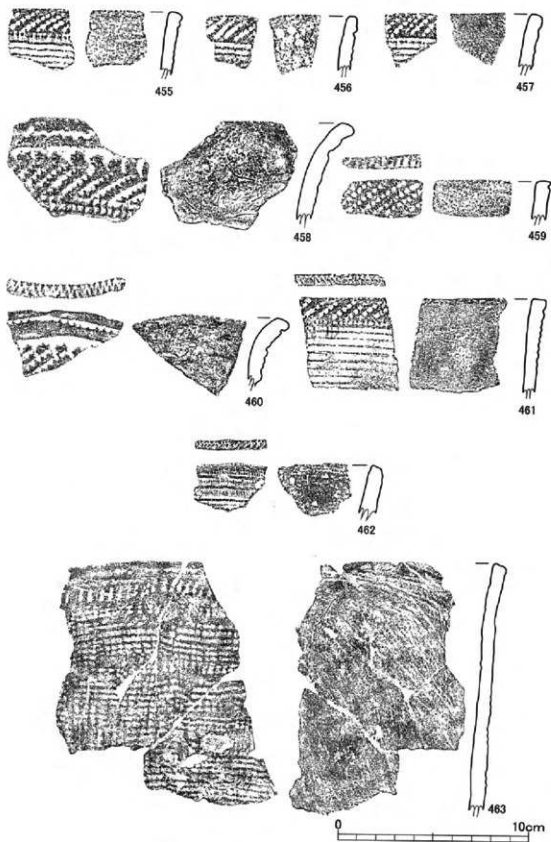
第96圖 出土土器(47)



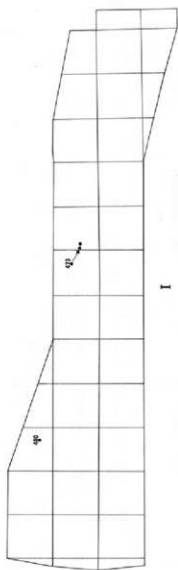
第97圖 出土土器(48)



第98圖 出土器(49)



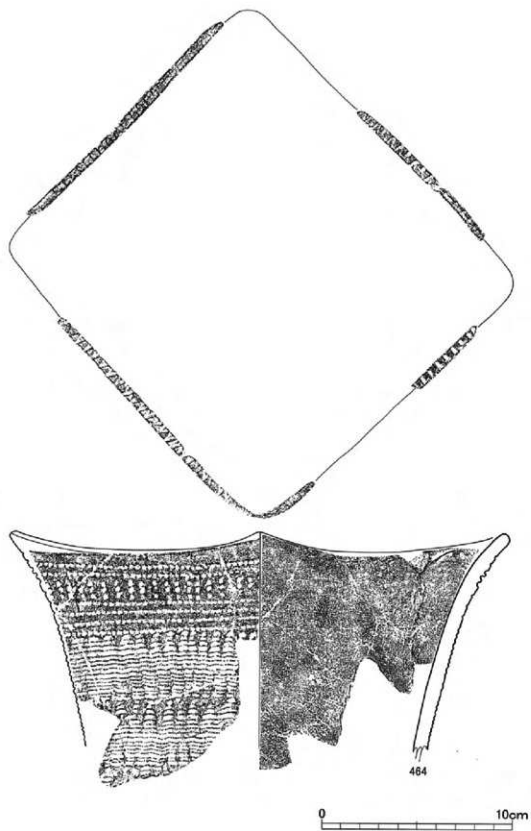
第99图 出土土器(50)



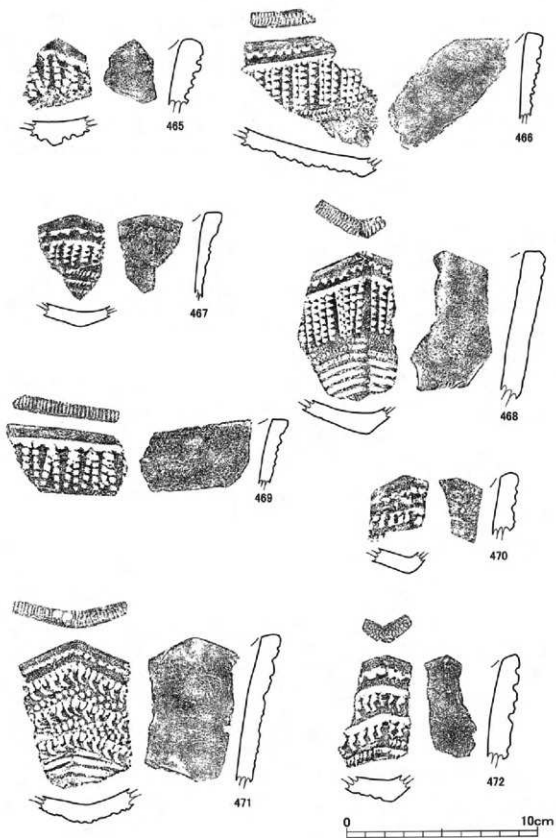
- a □ 465
- b ○ 464・466~470
- c ■ 471~478
- d ● 479~518
- e ▲ 519~522



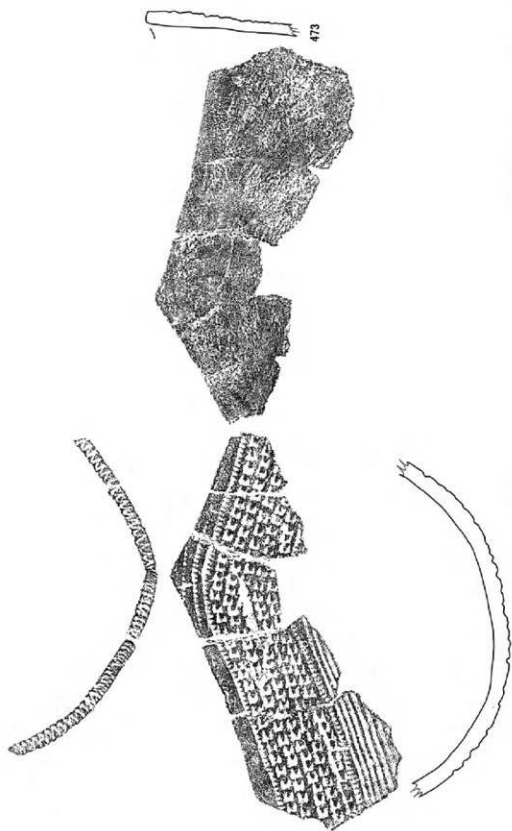
第100圖 第5埴土器出土状況



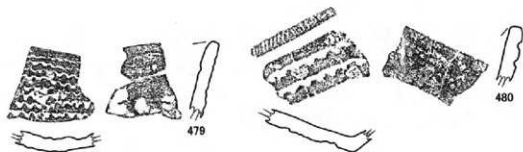
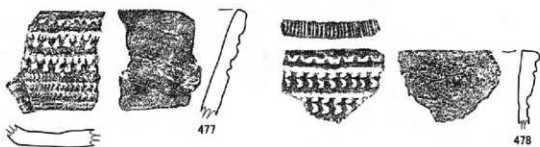
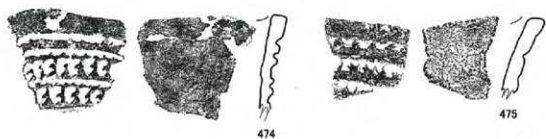
第101圖 出土土器(51)



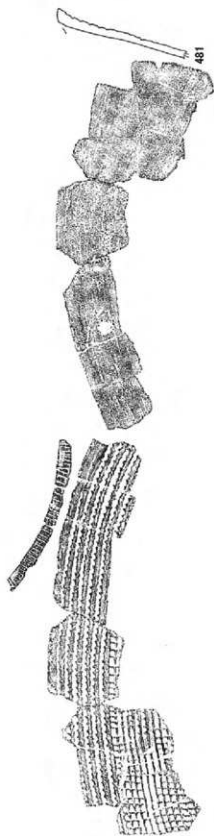
第102图 出土土器(52)



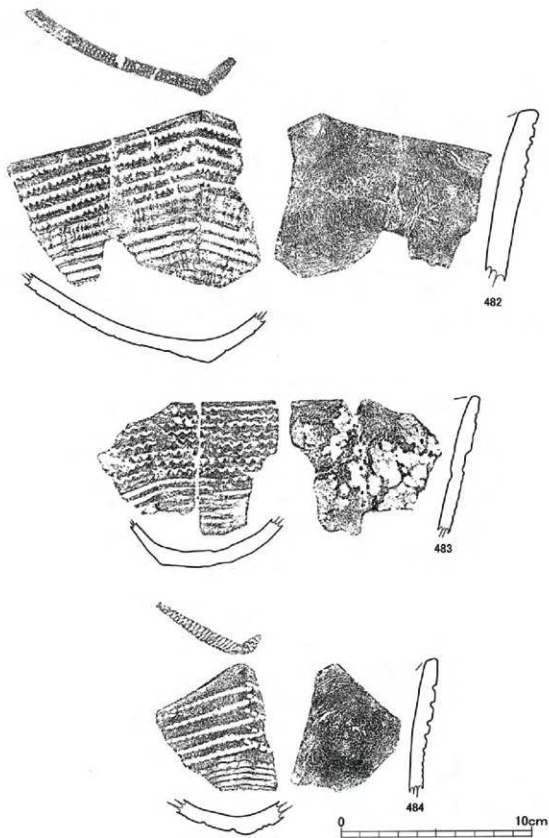
第103圖 出土土器(53)



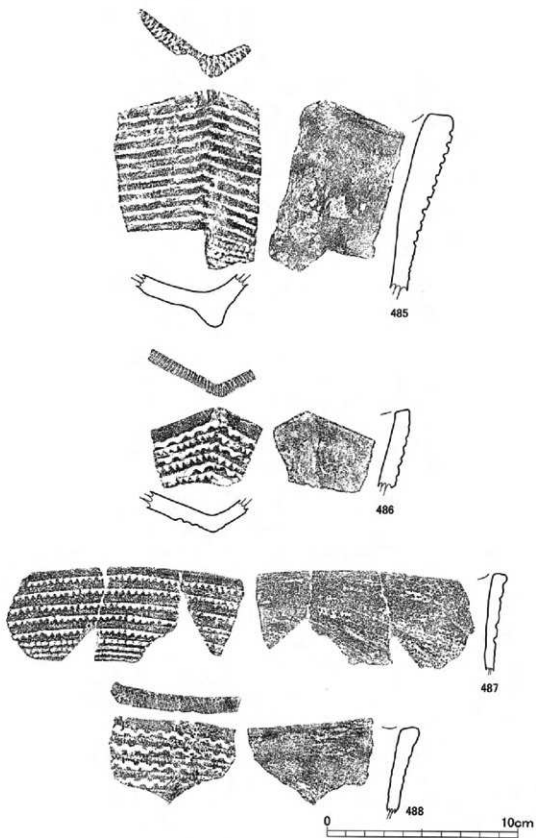
第104图 出土土器(54)



第105図 出土器(55)



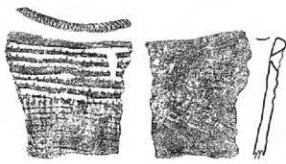
第106圖 出土土器(56)



第107圖 出土土器(57)



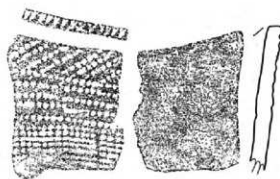
489



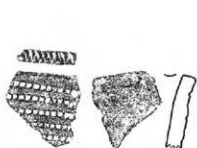
490



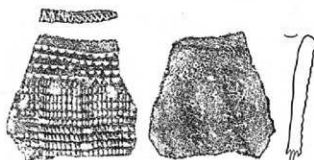
491



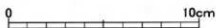
492



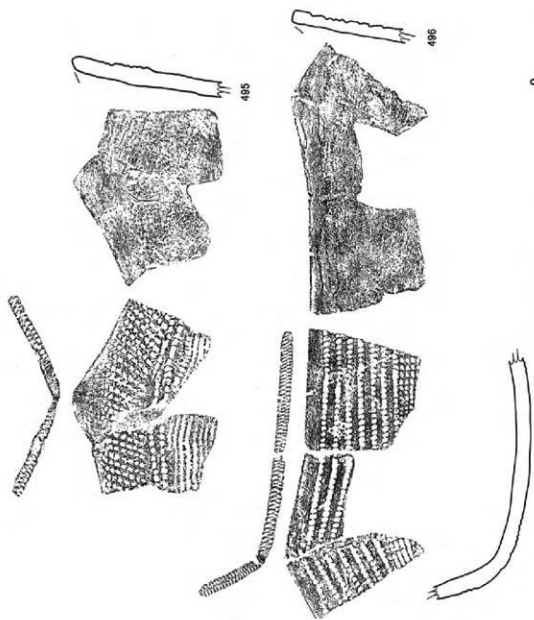
493



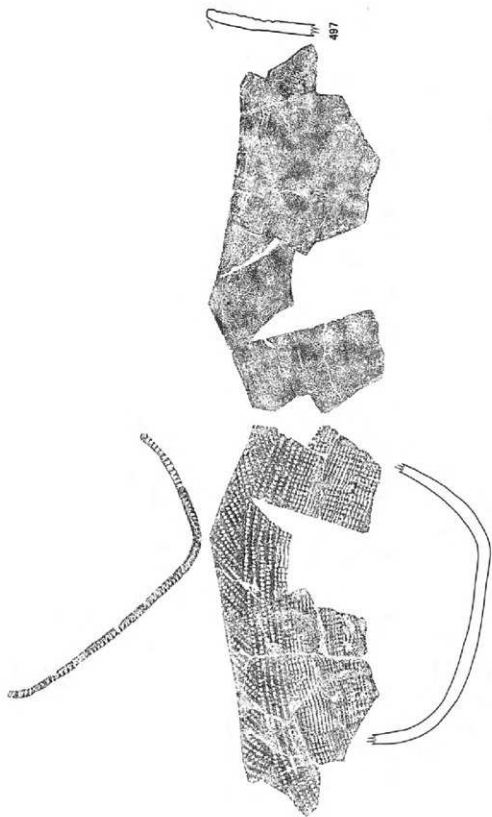
494



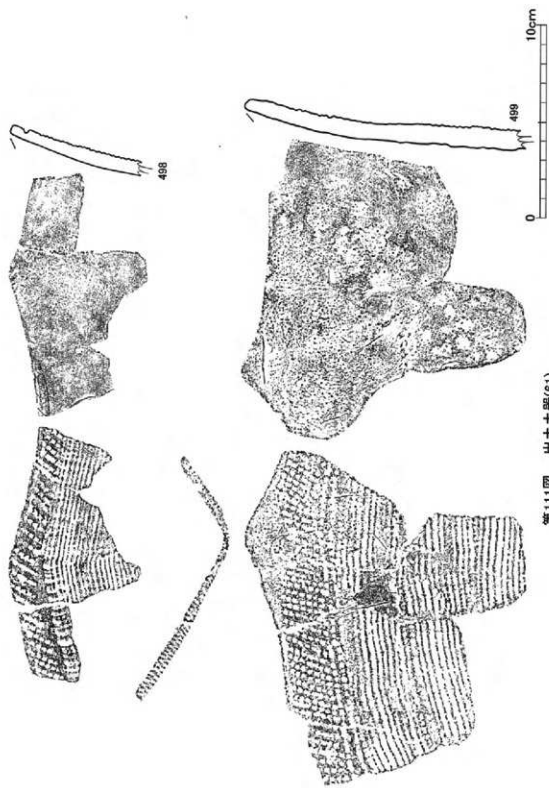
第108圖 出土土器(58)



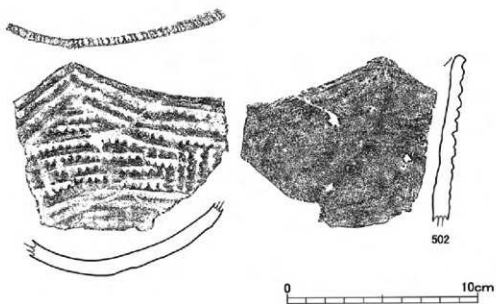
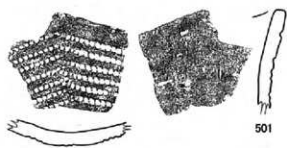
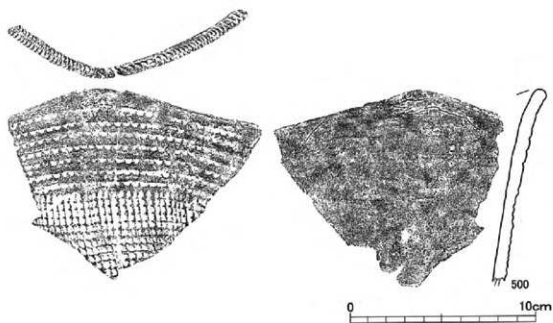
第109図 出土土器(59)



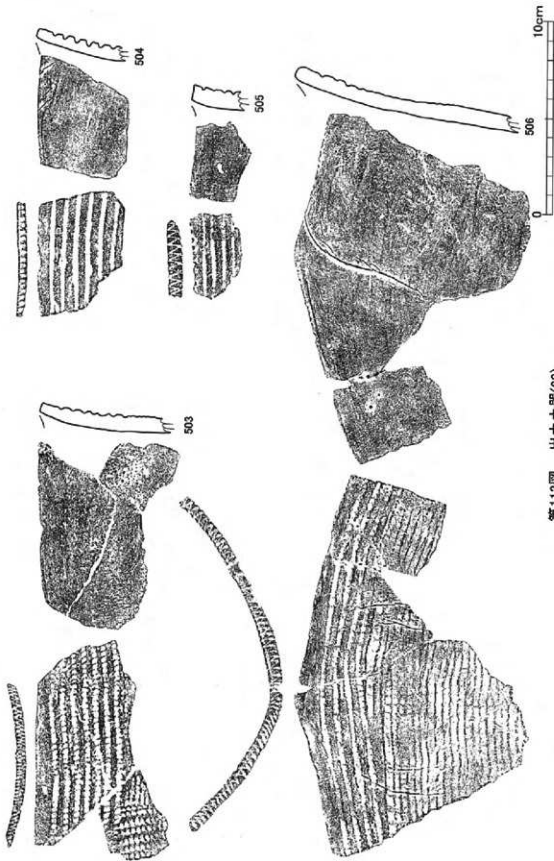
第110図 出土器(60)



第111圖 出土土器(61)



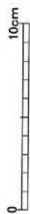
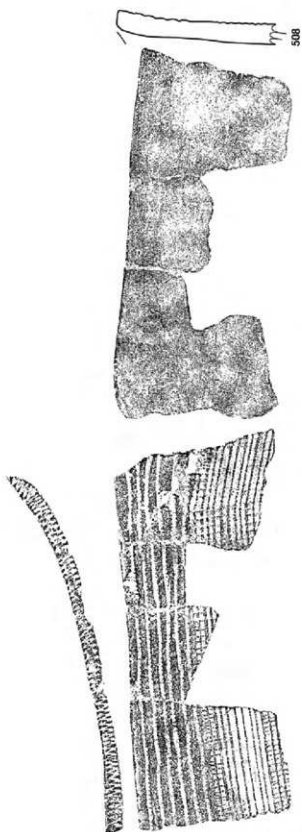
第112图 出土土器(62)



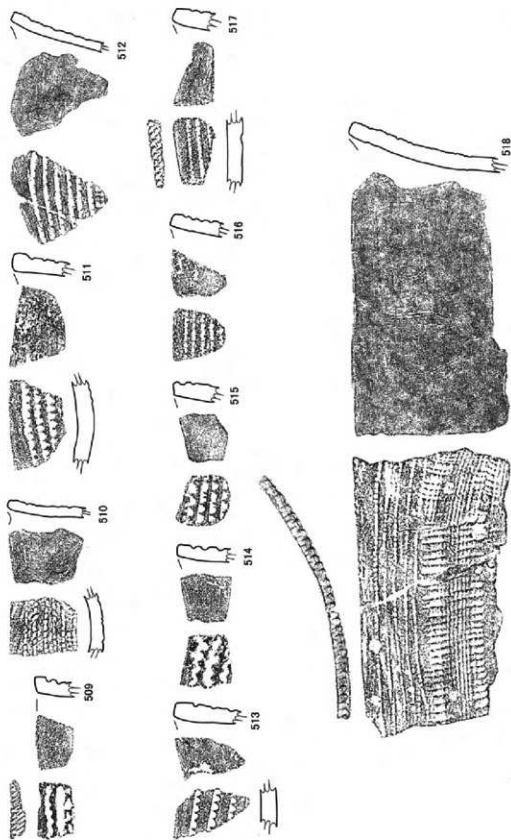
第113圖 出土土器(63)



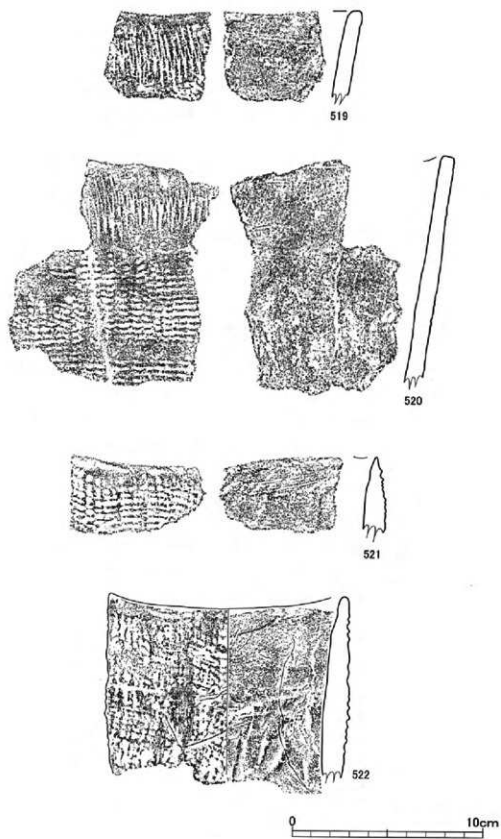
第114圖 出土土器(64)



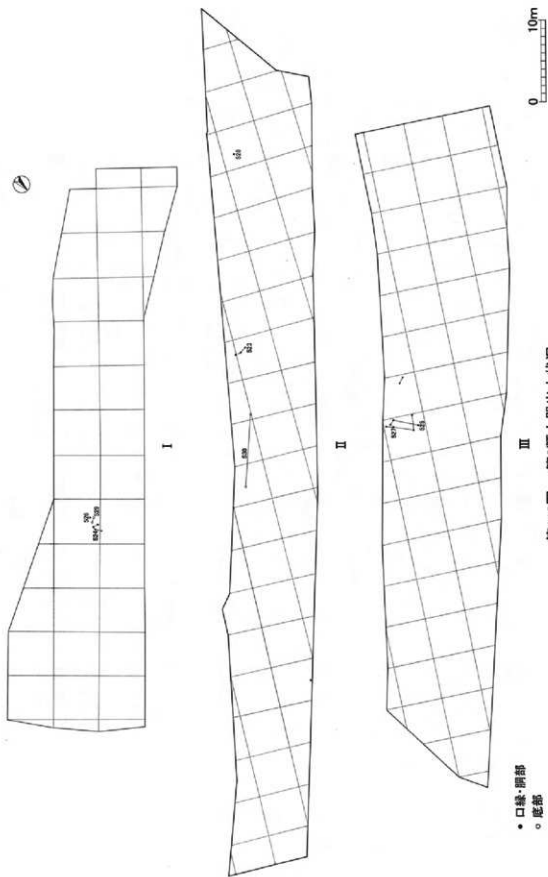
第115図 出土器(65)



第116図 出土土器(66)

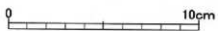
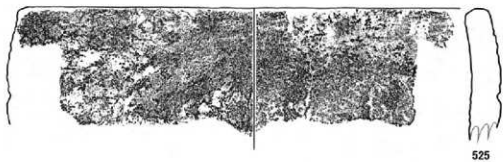
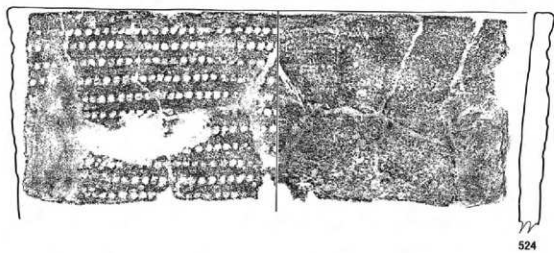
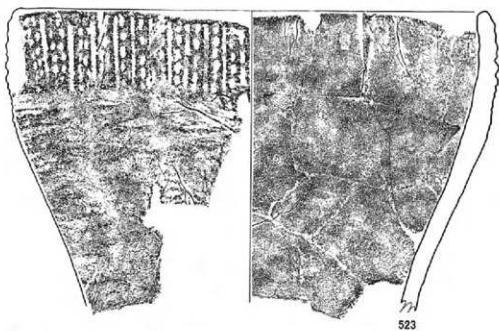


第117圖 出土土器(67)

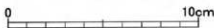
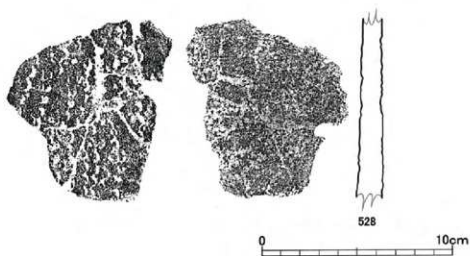
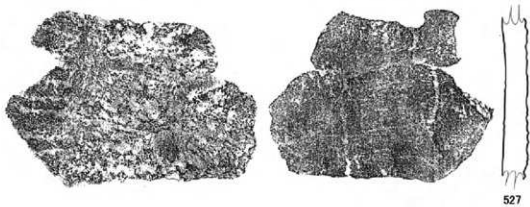
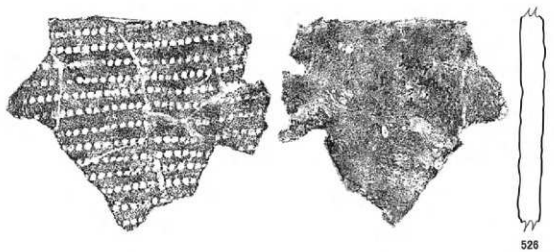


第118圖 第6類土器出土狀況

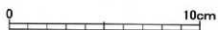
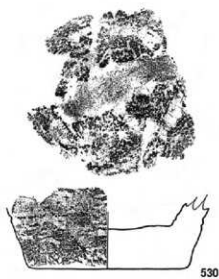
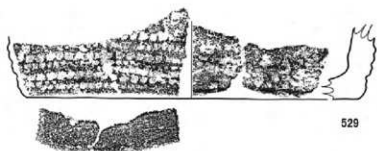
● 口線・胴部
○ 底部



第119圖 出土土器(68)



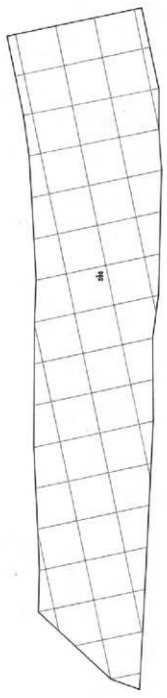
第120圖 出土土器(69)



第121圖 出土土器(70)



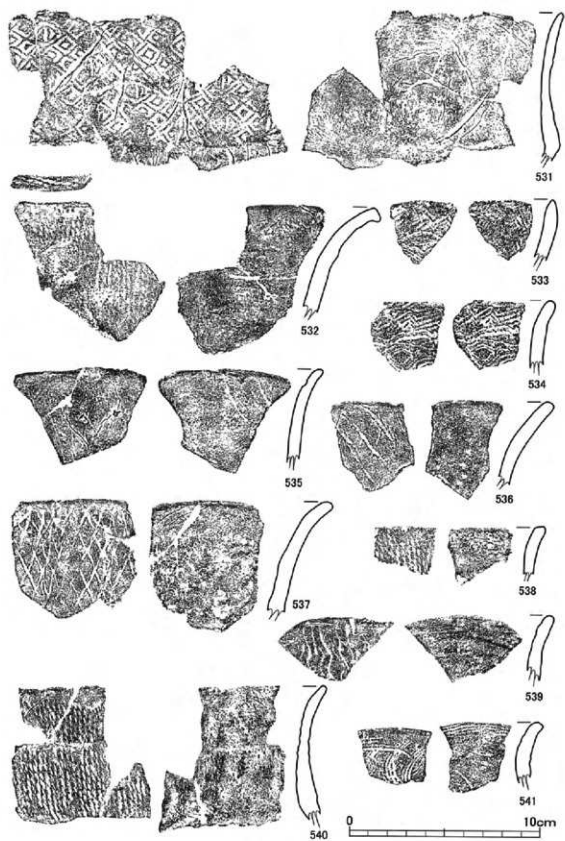
II



III



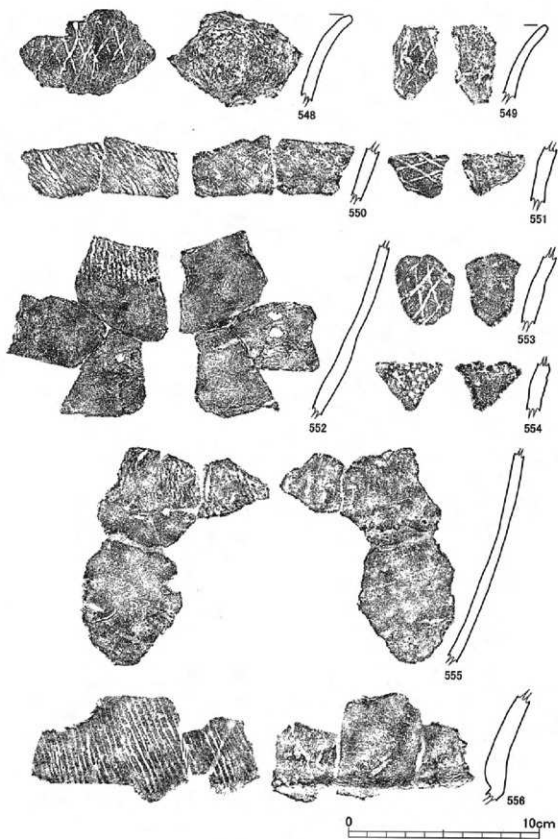
第122図 第7類土器出土状況



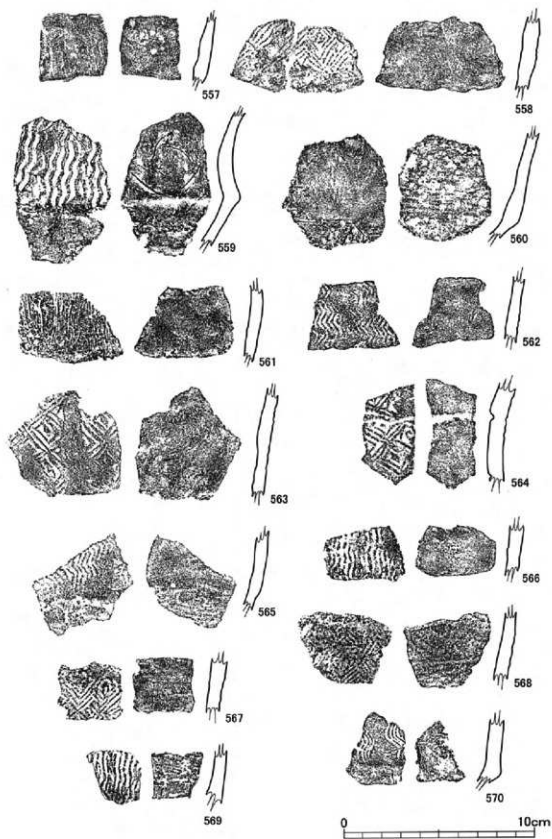
第123圖 出土土器(71)



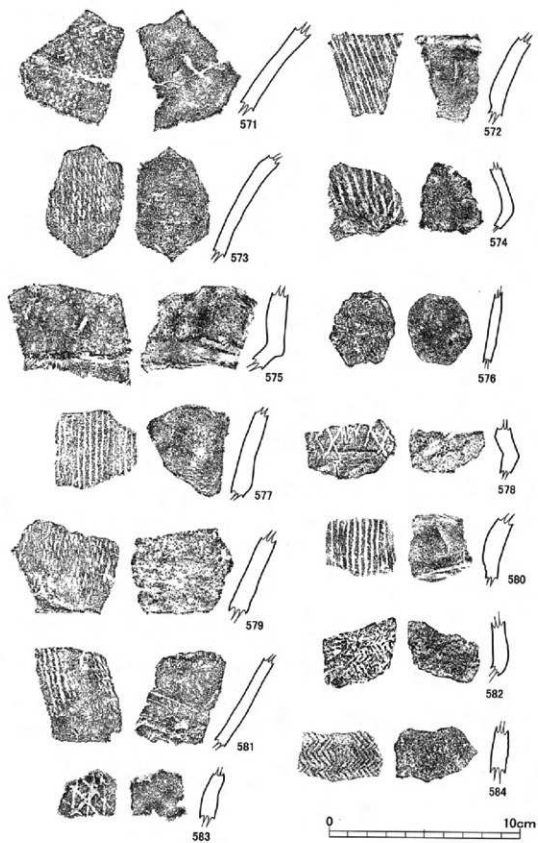
第124圖 出土土器(72)



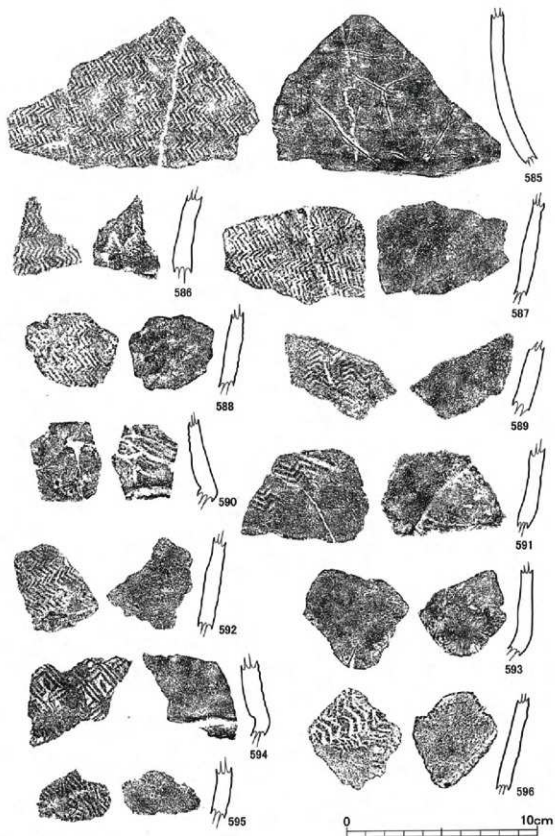
第125図 出土土器(73)



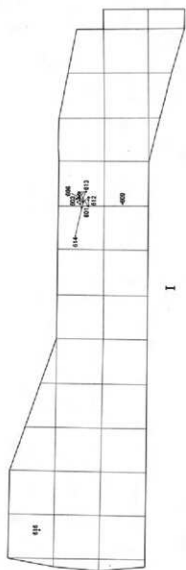
第126图 出土土器(74)



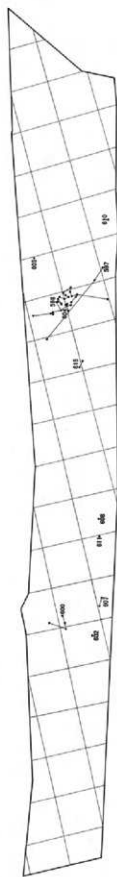
第127圖 出土土器(75)



第128図 出土土器(76)



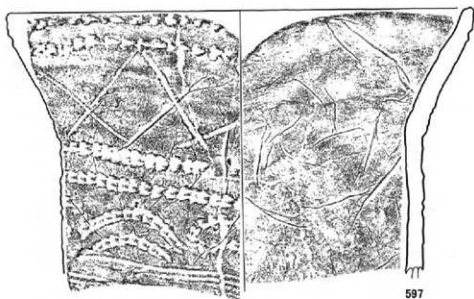
I



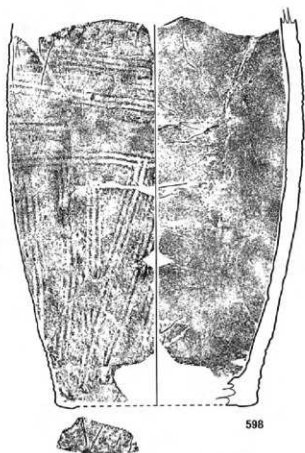
II



第129図 第8類土器出土状況



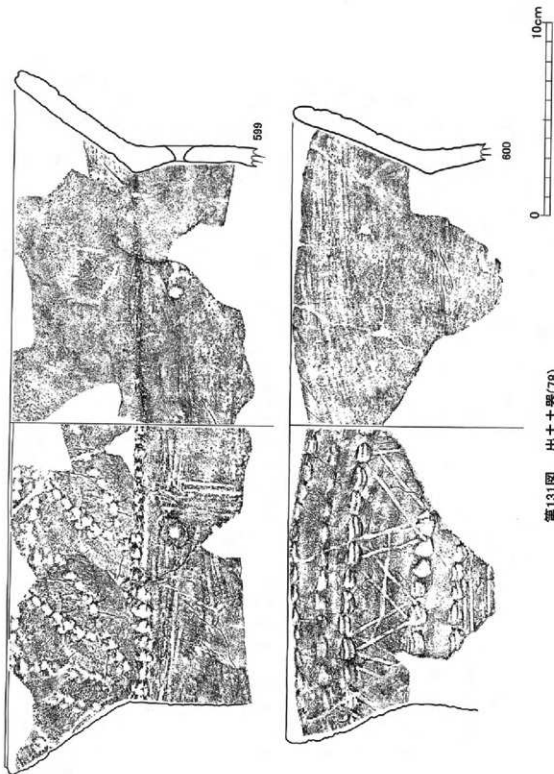
597



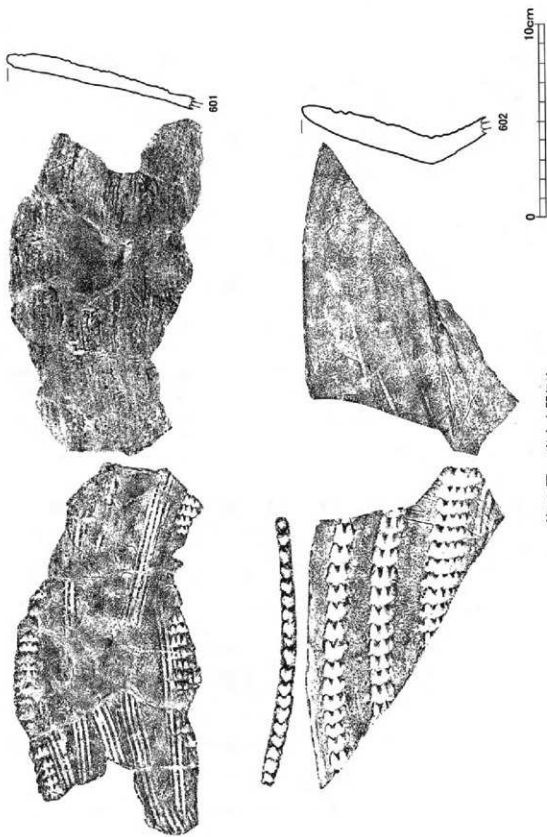
598



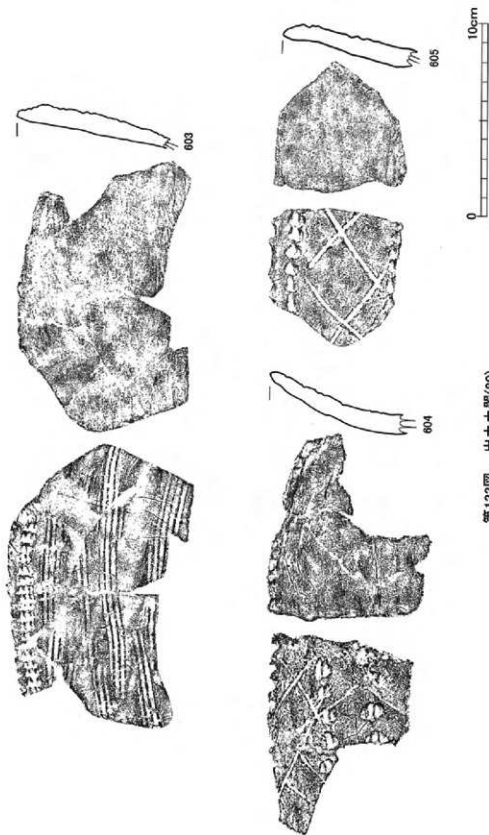
第130图 出土土器(77)



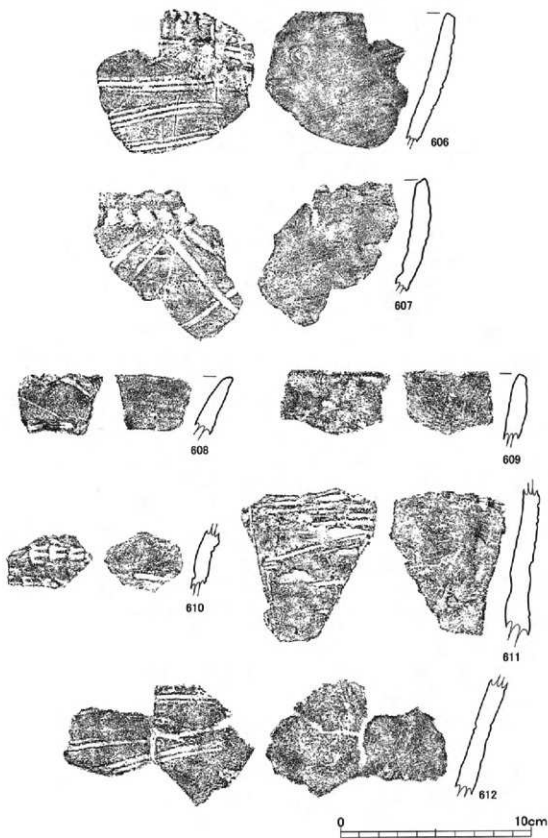
第131圖 出土器(78)



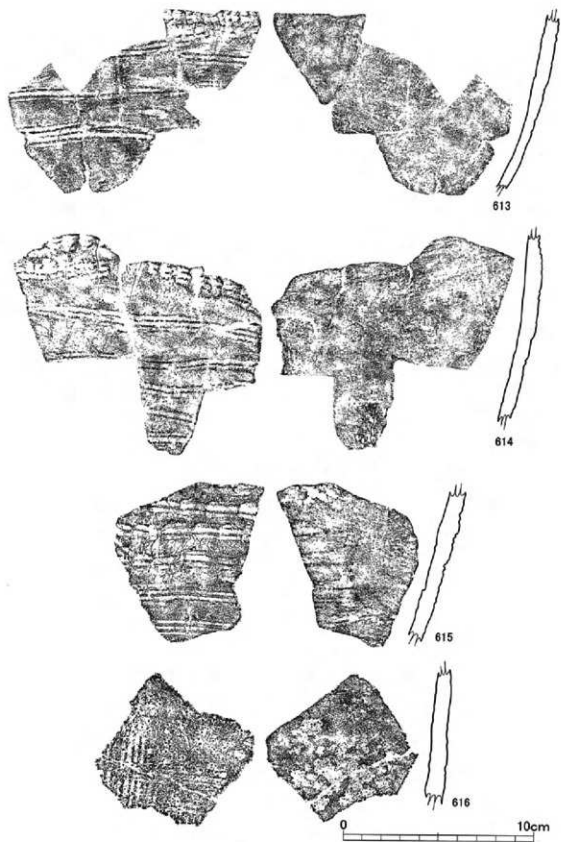
第132圖 出土土器(79)



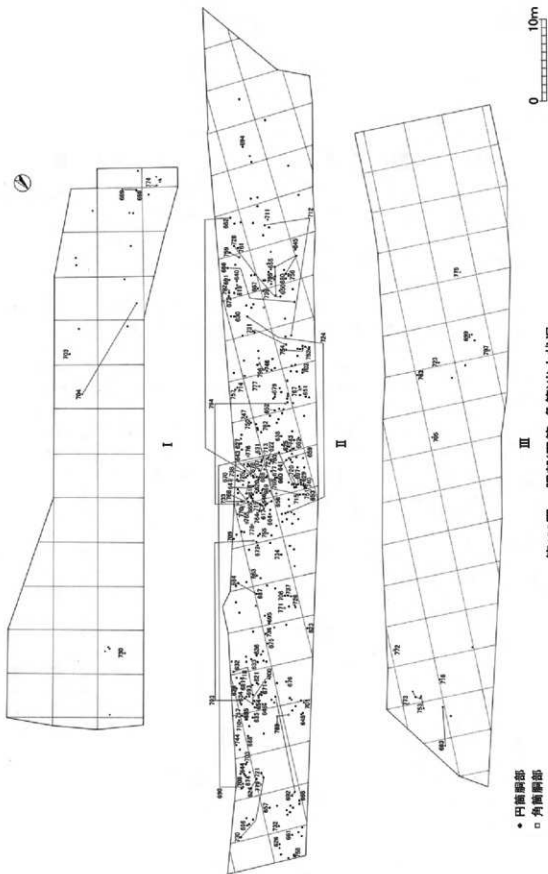
第133图 出土器(80)



第134圖 出土土器(81)

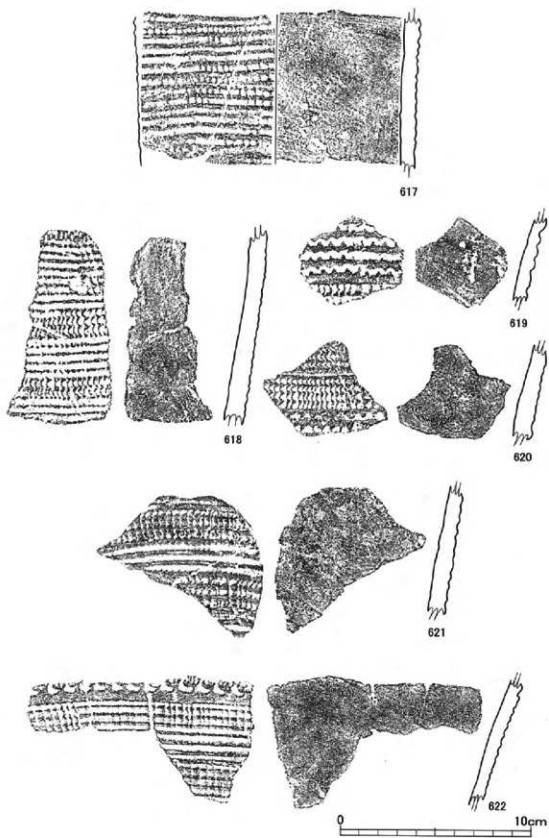


第135圖 出土土器(82)

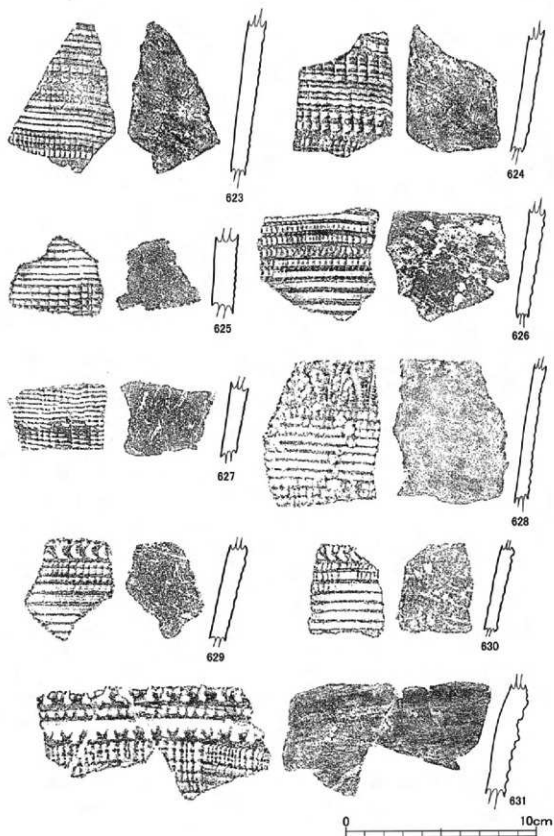


● 円筒罫部
○ 角罫罫部

第136図 胴部(円罫・角罫)出土状況



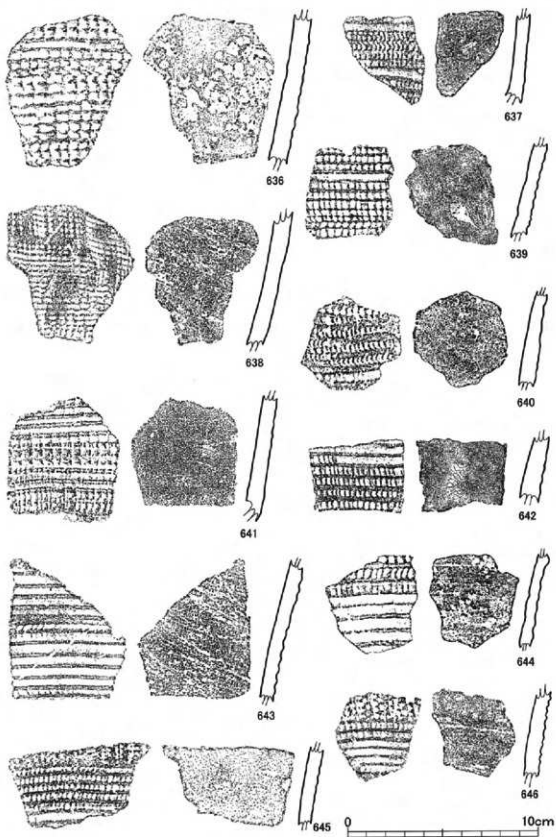
第137圖 出土土器(83)



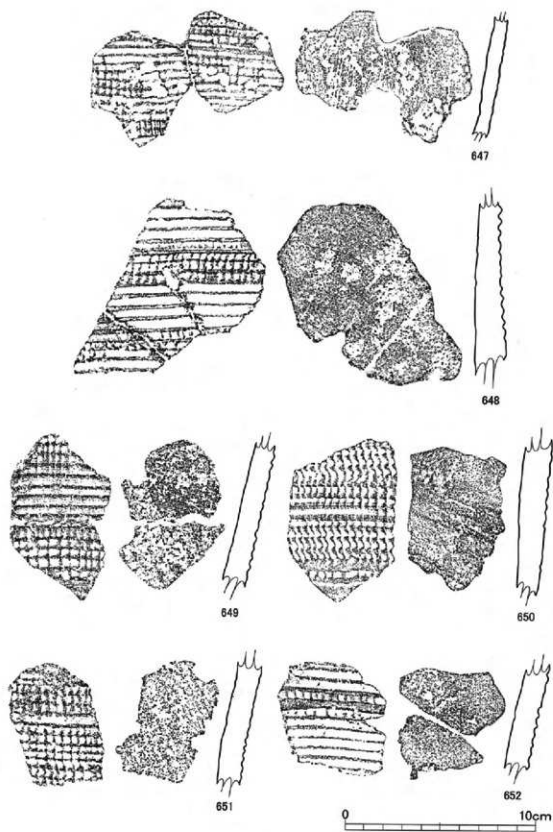
第138图 出土土器(84)



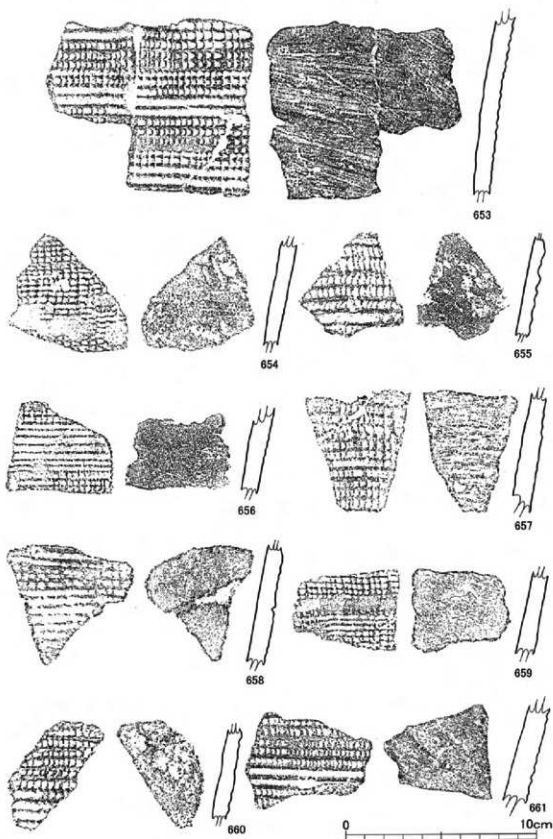
第139圖 出土土器(85)



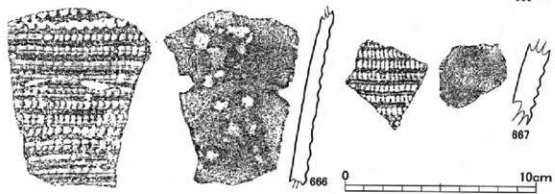
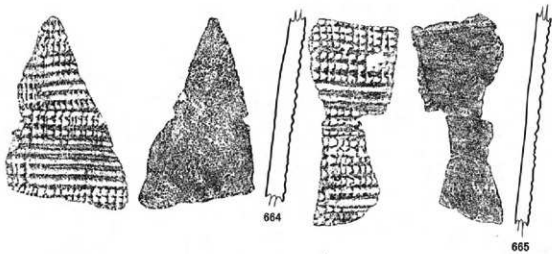
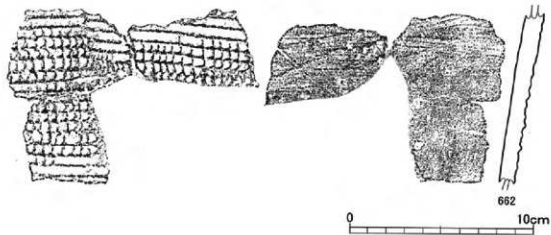
第140图 出土土器(86)



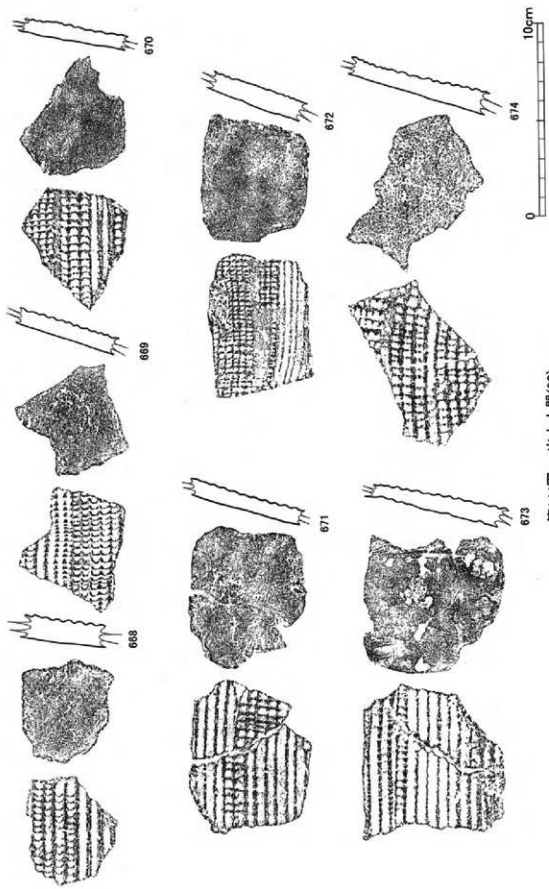
第141图 出土土器(87)



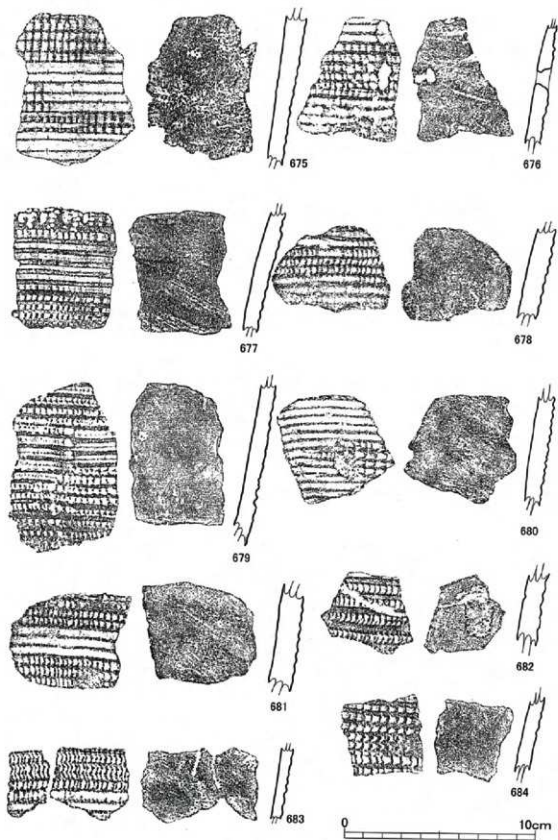
第142图 出土土器(88)



第143圖 出土土器(89)



第144圖 出土土器(90)



第145圖 出土土器(91)